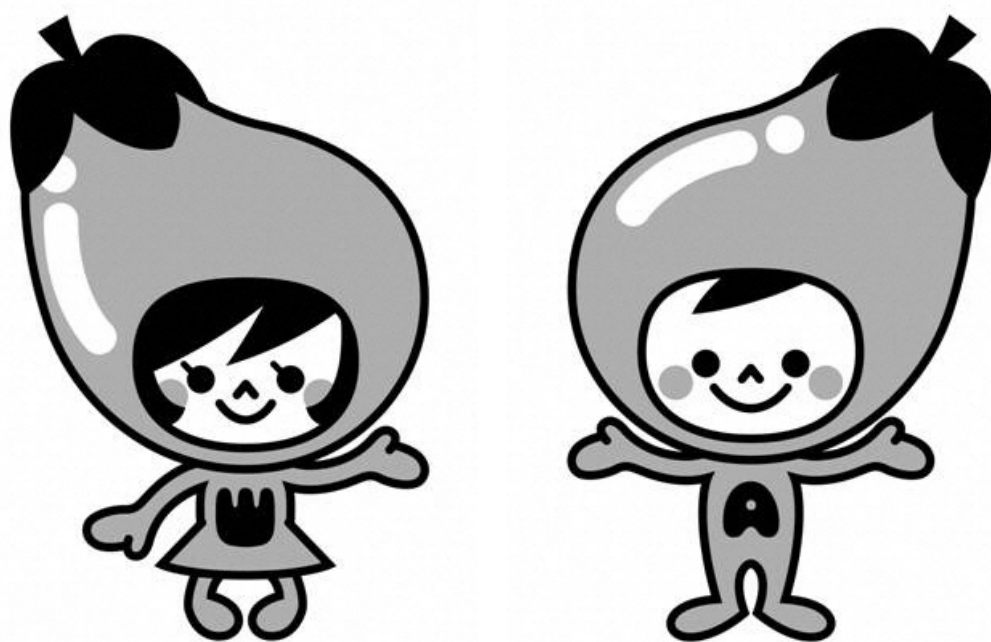


岸和田市保健計画
ウエルエージングきしわだ2次計画
・岸和田市食育推進計画

中間評価報告書



岸和田市
平成 30 年3月

目 次

第 1 章	計画の基本的な考え方	1
1	中間評価の実施にあたって	1
2	策定時の基本方針	2
第 2 章	市民をとりまく健康状態と取り組み	3
1	人口構成と推移	3
2	統計からみる市民の健康状態	9
3	市民の健康状態や意識（アンケート調査結果）	20
第 3 章	ライフステージ別の取り組みの展開	66
1	乳幼児期	66
2	学童・思春期	71
3	青年期	75
4	壮年期	79
5	老年期	85
第 4 章	食育の推進	89
1	背景と趣旨	89
2	食育推進の展開	89
第 5 章	計画の推進に向けて	94
資料編		96
1	数値目標一覧	96
2	ウエルエーシングきしわだ推進協議会規約	103

第1章

計画の基本的な考え方

1 中間評価の実施にあたって

わが国は、生活環境の改善や医学の進歩により、世界一の長寿国となり、超高齢社会を迎えています。一方で晩婚化の進行等による未婚率の上昇などにより、出生数の減少は進み、急激な少子化も進んでいます。そのような中、国は健康寿命の延伸や健康格差の縮小を目指した「健康日本 21（第2次）」やすべての子どもが健やかに育つ社会を目指して、「健やか親子 21（第2次）」を策定しました。また、食育を通して国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむため、食育基本法に基づいた「第3次食育推進基本計画」を策定しています。

本市でも、こうした国の考え方を踏まえ、市民の健康づくりを支援するために具体的な目標を設定するとともに、その達成に向けて市民をはじめ、関係機関・団体、行政がそれぞれの役割を果たしていくことができるように、平成25年3月に「岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画」を策定しました。

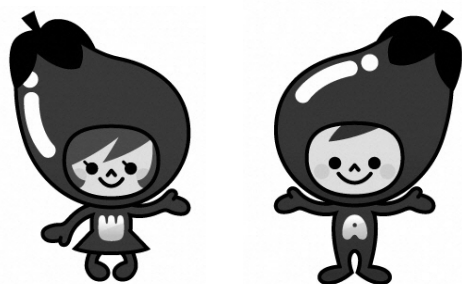
そしてその推進体制として、地区市民協議会をはじめ関係機関・団体、行政で組織するウエルエージングきしわだ推進協議会（以下：推進協議会）を設け、市民主体の健康づくり運動として活動を展開してきました。

平成29年度は、「岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画」の中間年に当たるため、市民の健康に関する統計資料の分析や健康づくりに関する市民へのアンケート調査を実施するとともに、各ライフステージでの目標と取り組みが、どの程度達成されているのかなどについて評価することとしました。そして、5年後の最終年度に向け、「岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画」を効果的に推進し、それぞれの活動についても見直しを行い、目標達成を目指します。

●〇ウエルエージングキャラクターのご紹介〇●

岸和田市の保健計画を身近に感じてもらうため、泉州地区産で全国的にも有名な泉州水ナスをモチーフに、子どもから高齢者まで受け入れられるよう、シンプルで親しみやすいキャラクターを作成しています。

名前を覚えやすいようにと、女の子を「ウエルちゃん」男の子を「エージくん」と名づけています。



ウエルちゃん

エージくん

作：イラストレーター 細尾 正行

2 策定時の基本方針

「岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画」は、全ての市民が上手に年をとることと、寿命が延びた現代をうまく生き抜く実り豊かな生涯作りを実現するための計画であり、各ライフステージにおける目標と実現するための健康づくりを推進しています。

<基本理念>

- 市民が主役、市民参加による健康づくり推進力の向上
- 市民一人ひとりが自ら行う健康づくりに必要な環境の改善

■計画策定の特徴

○「市民、地域社会の協働による計画づくり」

市民一人ひとりと関係機関・団体、行政のそれぞれが自らの取り組みを考えあい、具体的な計画をつくっていきます。

○「各ライフステージにあわせた計画づくり」

ライフステージとは、成長や加齢に伴う人間の生涯の各段階を区分したもので、本計画では「乳幼児期」「学童・思春期」「青年期」「壮年期」「老年期」の5つのライフステージに分け、ライフステージ毎に、「①栄養・食生活」「②身体活動・運動」「③休養・こころの健康」「④飲酒・喫煙」「⑤歯・口腔の健康」「⑥健康管理」の6つの健康分野を位置づけた具体的な計画をつくっていきます。

○食育推進計画との一体化

健康増進計画と関連の深い食育推進計画と一体的に策定し、「食」に関する施策の総合的な推進を図ります。

その他、がん対策推進基本計画、歯科口腔保健の推進に関する基本的項目など、健康増進計画に関連する諸計画等の方向性も踏まえ、包括的な健康増進を図ります。

1 人口構成と推移

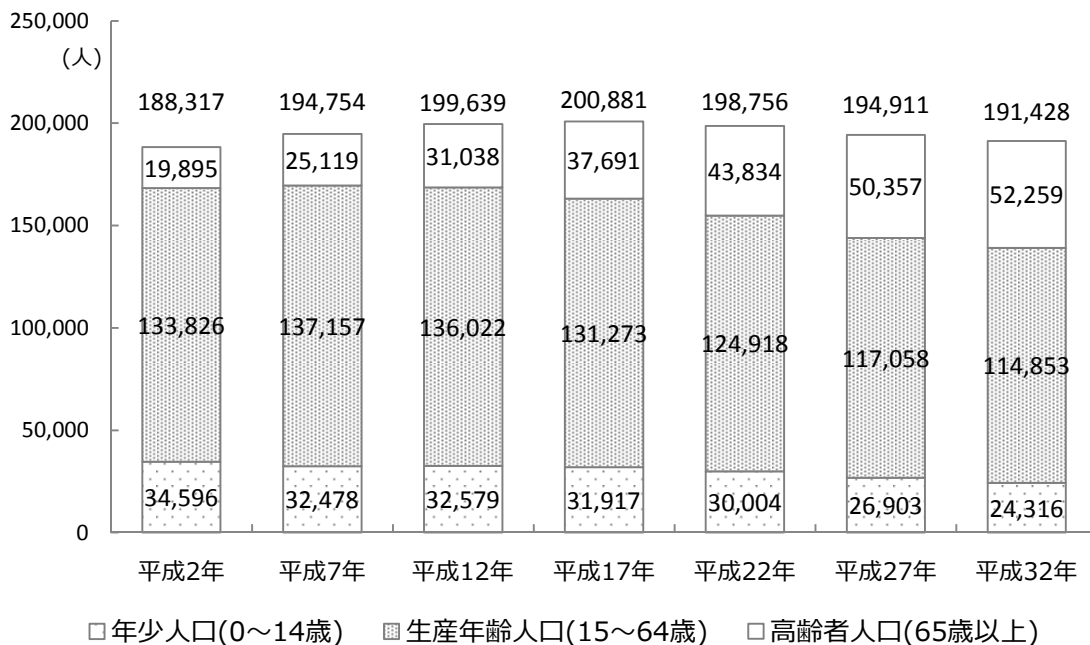
(1) 岸和田市の人口

① 本市における人口構造の推移と将来推計

本市の人口は平成17年で増加のピークを迎え、以降は減少傾向で推移しており、平成27年時点で194,911人となっています。その中で、高齢者人口は増加しており、平成27年時点で50,357人（高齢化率25.8%）となっています。

将来的には、更なる人口の減少と高齢化の進行が予測されています。

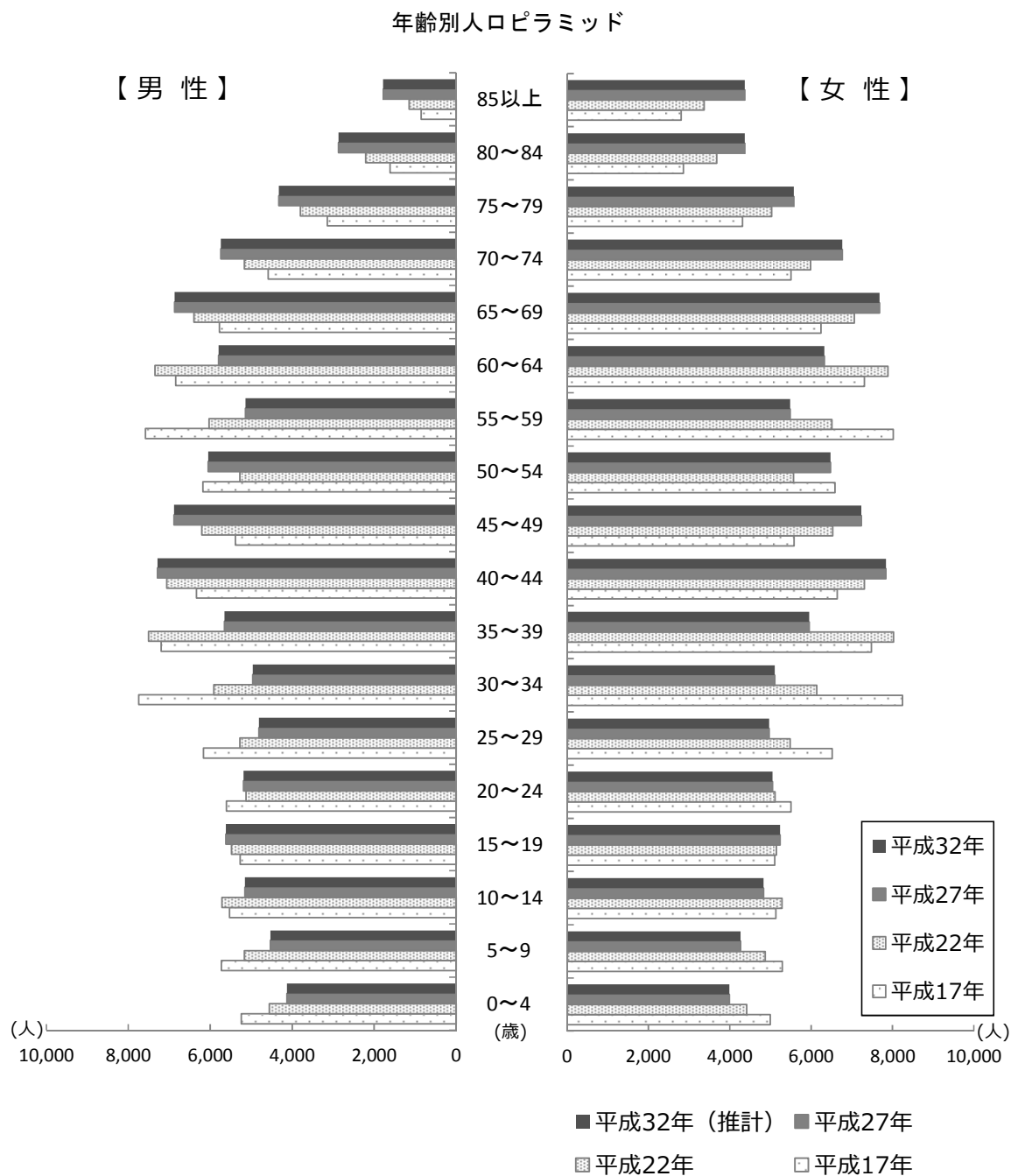
人口の推移と将来推計



資料：国勢調査（実績値）、人口問題研究所（推計値）

② 年齢別人口ピラミッド

本市の人口構成は、平成 27 年では 40～49 歳、65～74 歳の人口が多く、ひょうたん型ピラミッドになっています。その傾向は平成 32 年でもみられ、年々65 歳以上の高齢者人口の構成割合が増加し、14 歳未満の若年人口の構成割合が減少傾向にあります。



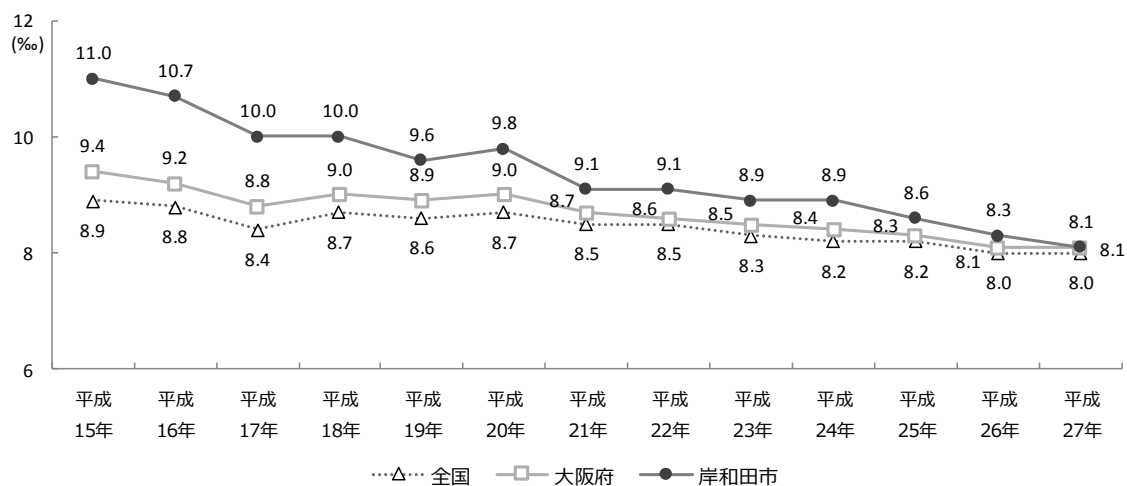
資料：国勢調査（実績値）
人口問題研究所（推計値）

(2) 少子化の現状

① 出生率の推移

出生率は減少傾向で推移しており、平成 27 年には 8.1‰となっています。また、以前は岸和田市の出生率は大阪府や全国と比べると高い水準にありましたが、現在は同じ水準です。

出生率（人口千対）の推移



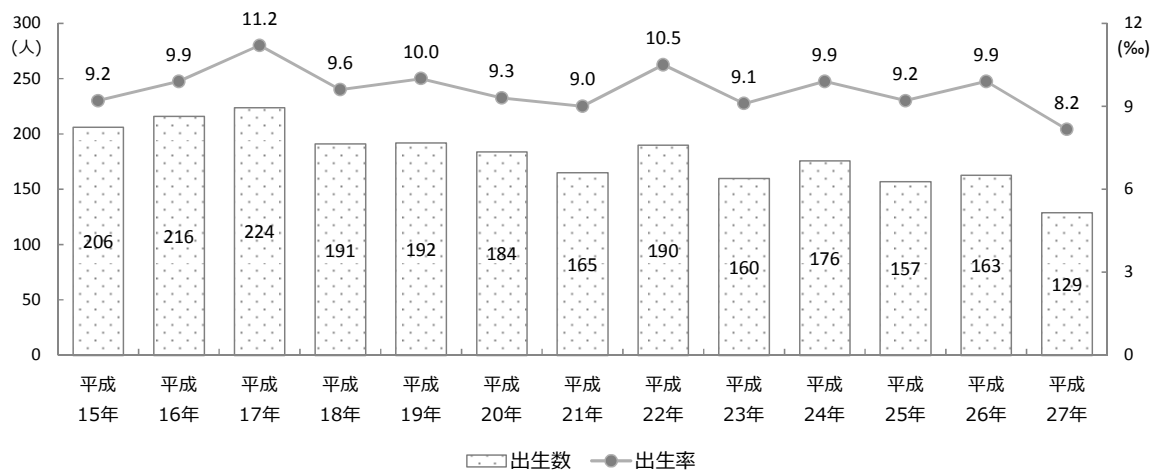
資料：人口動態統計

※出生率（人口千対）＝出生数÷総人口×1000

② 低体重児の出生数と出生率の推移

平成 17 年以降、低体重児の出生数は減少傾向で推移していましたが、平成 22 年に増加し、その後は減少傾向が続いています。

低体重児の出生数と出生率の推移

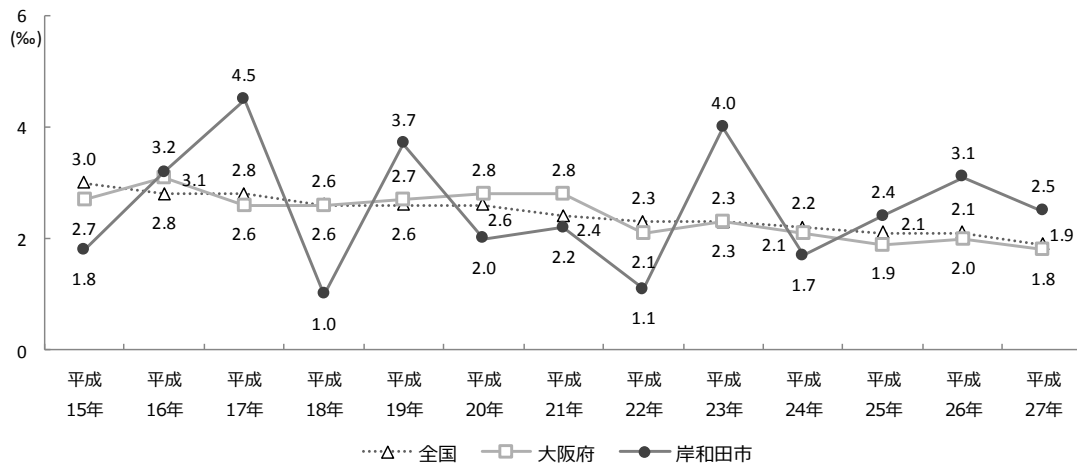


資料：岸和田保健所

③ 乳児死亡率の推移

乳児死亡率は平成 18 年及び平成 22 年に大きく減少していますが、翌年は増加し、以降はおおむね減少傾向で推移しています。岸和田市の乳児死亡率は大阪府や全国よりやや高くなっています。

乳児死亡率の推移（出生千対）



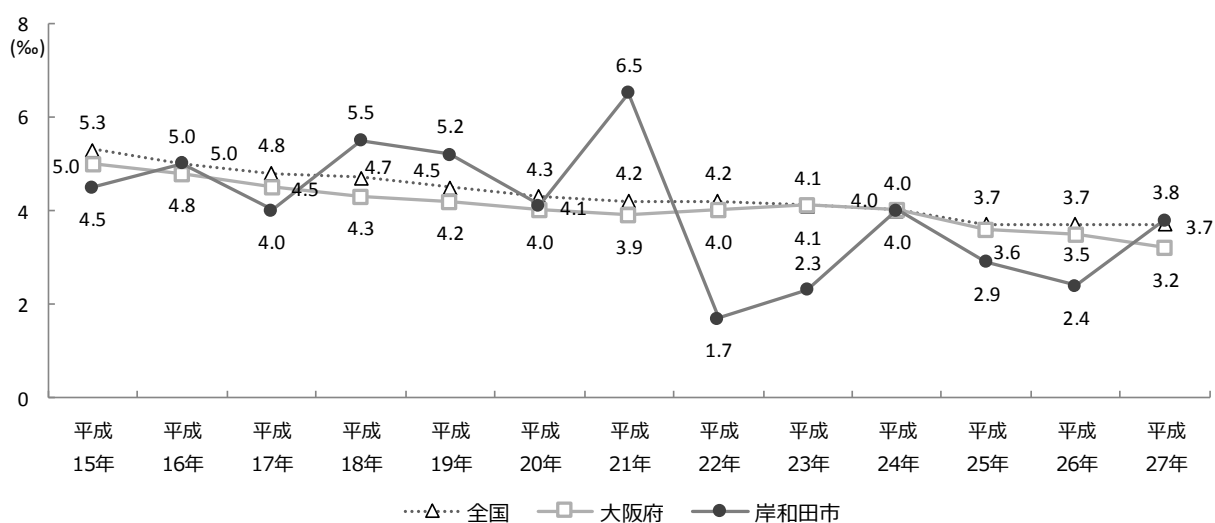
資料：人口動態統計

※乳児死亡率（出生千対）＝乳児死亡数÷出生数×1000

④ 周産期死亡率の推移

周産期死亡率は増減を繰り返していますが、特に平成 21 年に大きく増加した後、22 年には大きく減少しています。岸和田市の周産期死亡率は大阪府や全国とおおむね同じ水準にあります。

周産期死亡率の推移



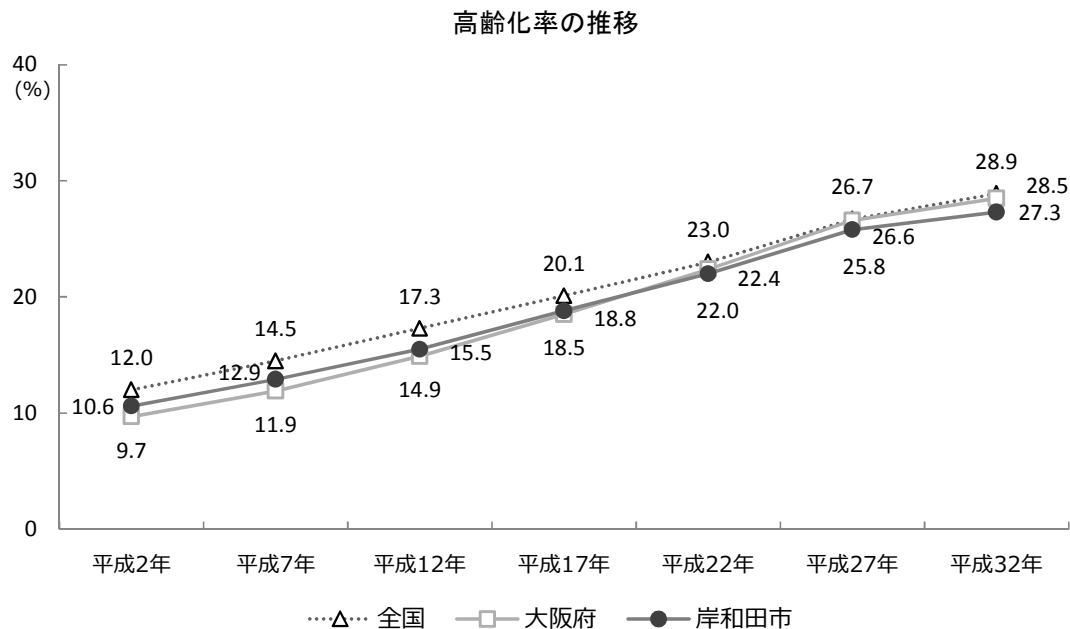
資料：人口動態統計

※周産期死亡率＝（妊娠満 22 週以後の死産数＋早期新生児（出生後 7 日未満）死亡数）÷（妊娠満 22 週以後の死産数＋出生数）×1000

(3) 高齢化の現状

① 高齢化の推移

高齢化率は右肩上がり増加しており、平成32年には27.3%となっています。また、岸和田市の高齢化率は大阪府や全国と比べるとほぼ同水準にあります。

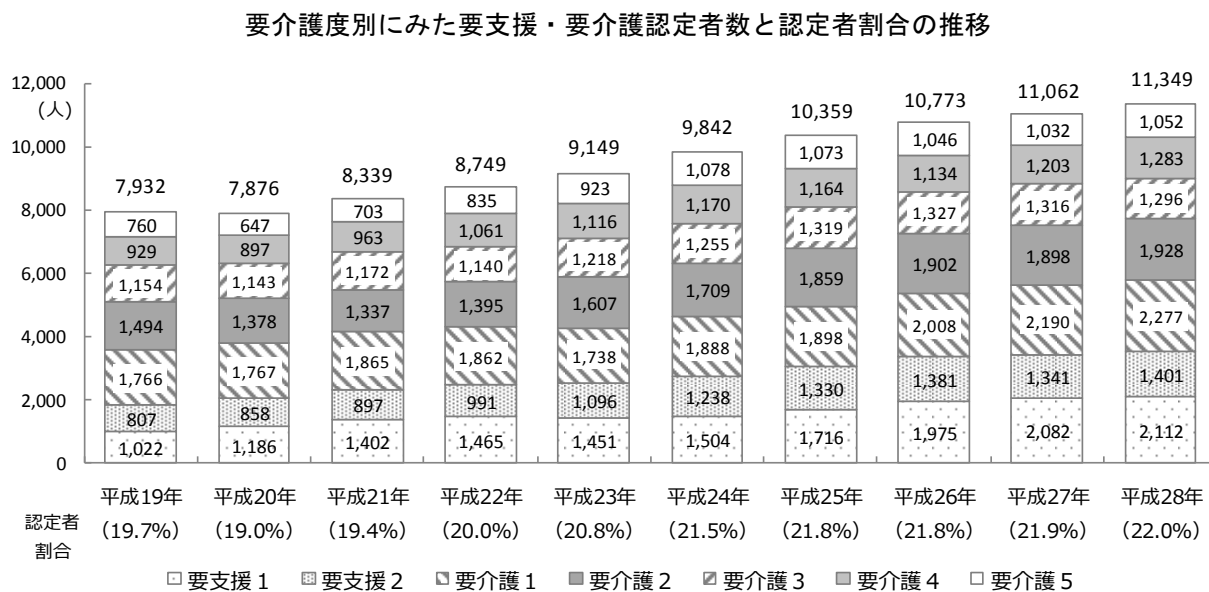


資料：国勢調査（実績値）
人口問題研究所（平成32年推計値）

※ 高齢化率＝65歳以上人口÷総人口×100

② 要介護度別にみた要支援・要介護認定者数の推移

高齢化にともない、要介護認定者は増加傾向にあり、平成28年では11,349人、認定率は22.0%となっています。

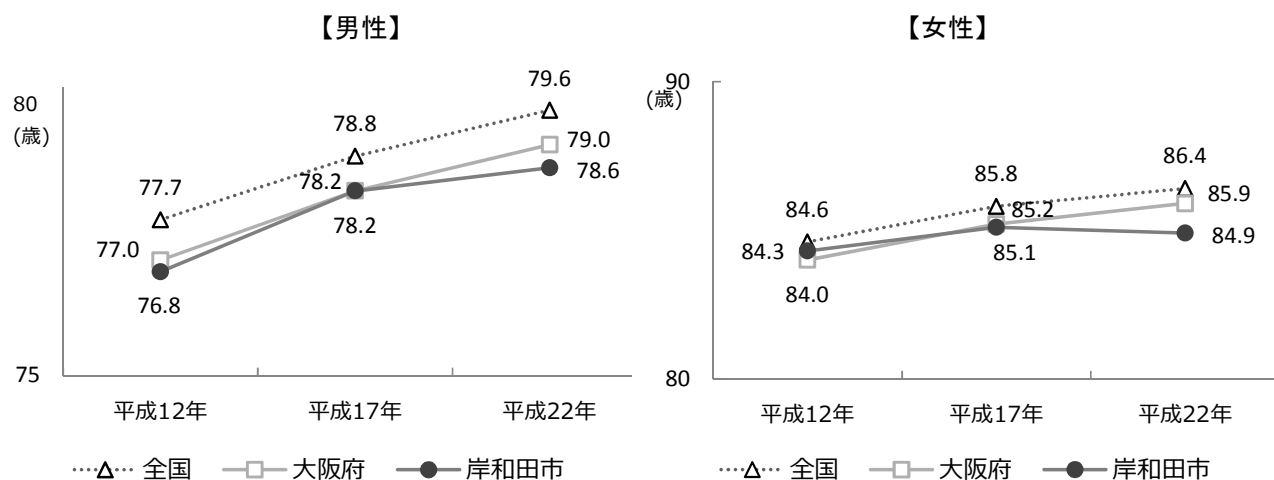


資料：介護保険課

③ 平均寿命の推移

男性の平均寿命は右肩上がりになっており、平成22年には78.6歳となっています。女性は横ばいで、平成22年には84.9歳となっています。また、岸和田市の平均寿命は大阪府や全国と比べるとやや短くなっています。

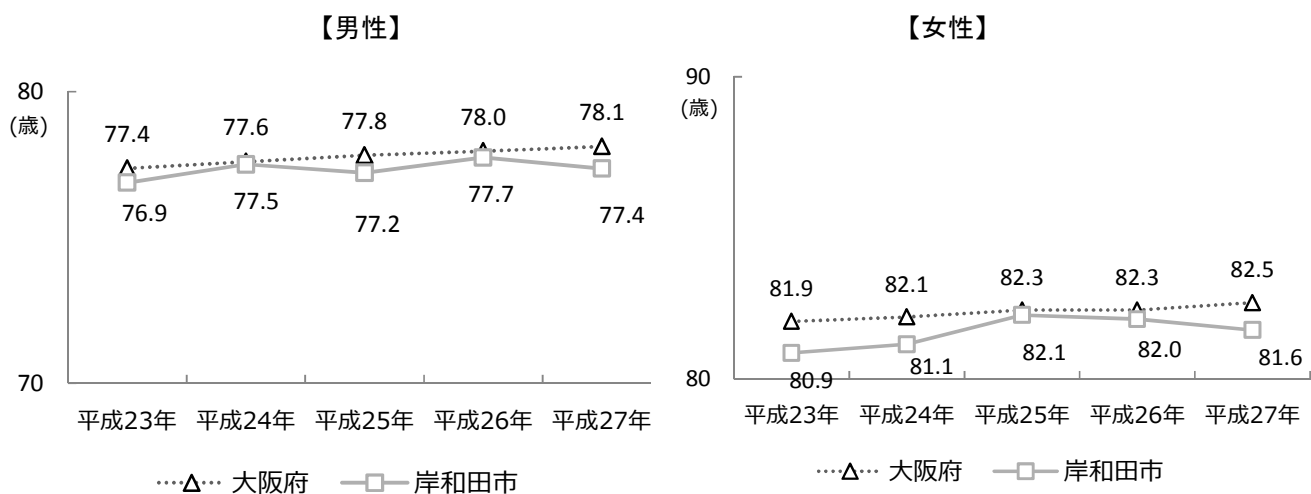
平均寿命の推移



④ 健康寿命の推移

健康寿命は横ばいで、平成27年には男性は77.4歳、女性は81.6歳となっています。また、岸和田市の健康寿命は大阪府と比べるとほぼ同水準にあります。

健康寿命の推移

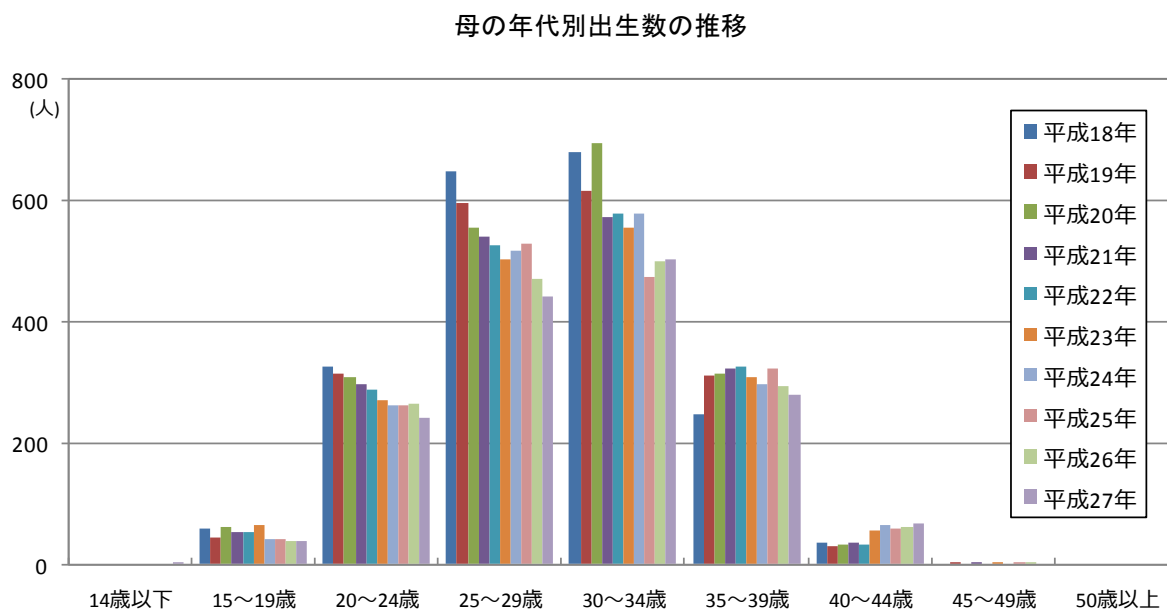


2 統計からみる市民の健康状態

(1) 乳幼児・学童の健康状態

① 母の年齢階級別出生数

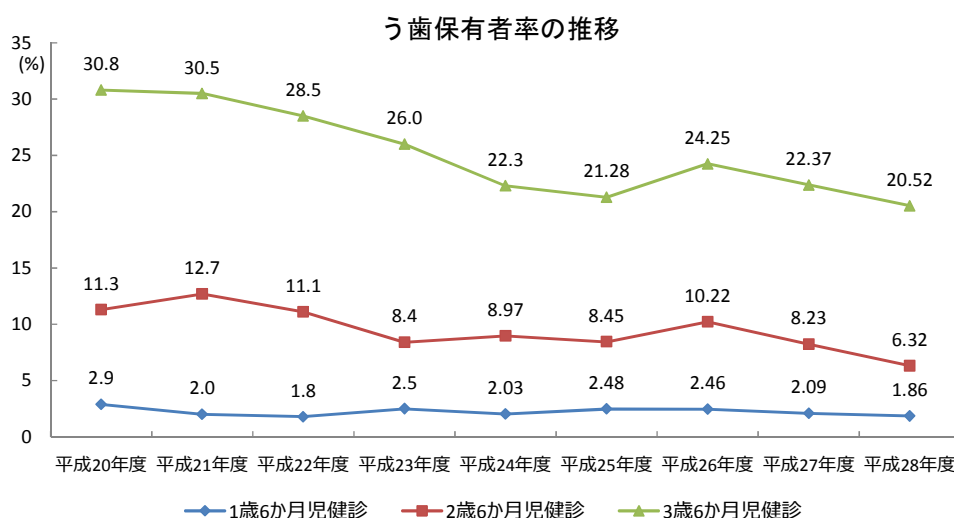
年代別出生数は、20～24歳と25～29歳の出生数が年々減少している一方、40～44歳の出生数が増加しています。



資料：人口動態統計

② 幼児のう歯保有者率

幼児のう歯保有者率は2歳6か月児健診及び3歳6か月児健診では減少傾向で推移していますが、1歳6か月児健診のう歯保有者率は横ばいです。

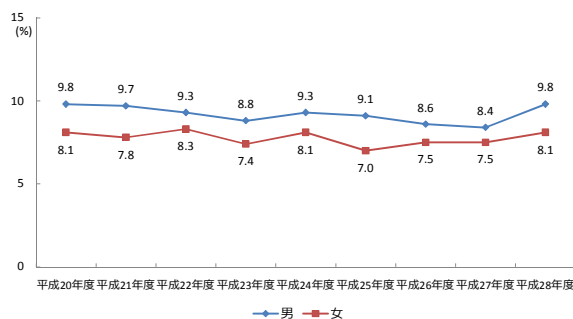


資料：市健診データ

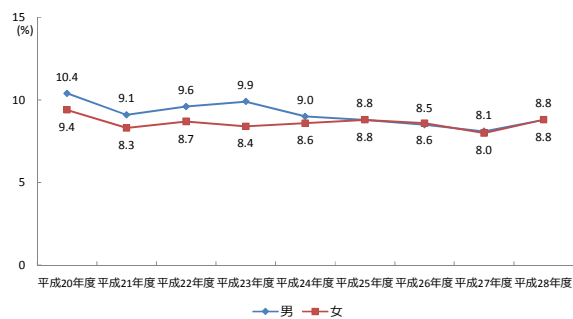
③ 児童・生徒の健康状態

肥満傾向のある小・中学生の割合は減少傾向で推移していましたが、平成28年度は増加傾向にあります。

肥満傾向のある小学生の割合の推移



肥満傾向のある中学生の割合の推移



資料：岸和田市学校保健調査票集計

<参考>

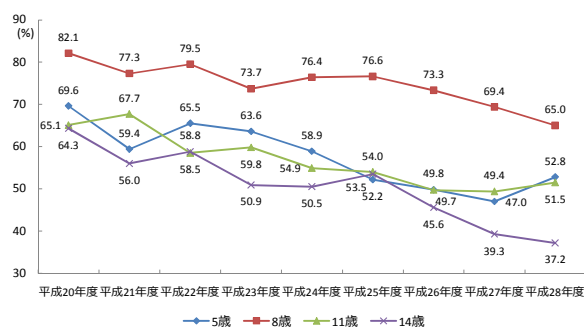
平成28年度肥満傾向児の出現率 (%)

	小学生		中学生	
	男	女	男	女
岸和田市	9.8	8.1	8.8	8.8
全国	7.9	6.6	8.9	7.9

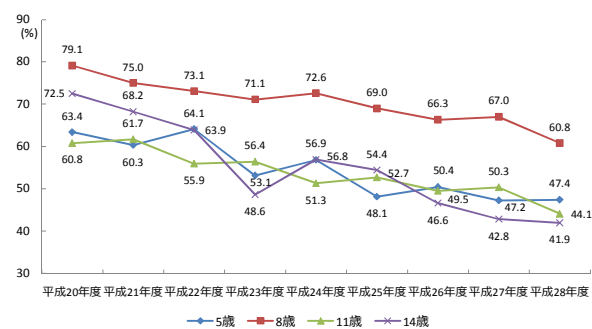
資料：文部科学省 学校保健統計調査

児童・生徒のう歯保有者率は、減少傾向で推移しています。

児童・生徒のう歯保有者率推移（男子）



児童・生徒のう歯保有者率推移（女子）



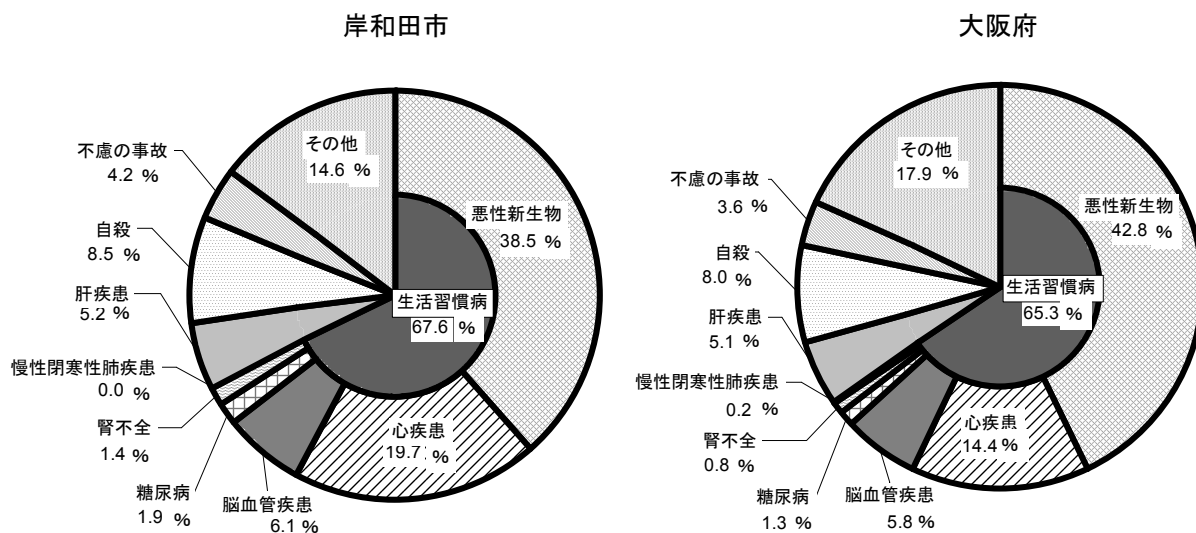
資料：岸和田市学校保健調査票集計

(2) 成人の健康状態

① 死因割合

40 歳から 64 歳では悪性新生物による死亡が 38.5%と最も高い割合を占めており、生活習慣病による死亡は 67.6%となっています。

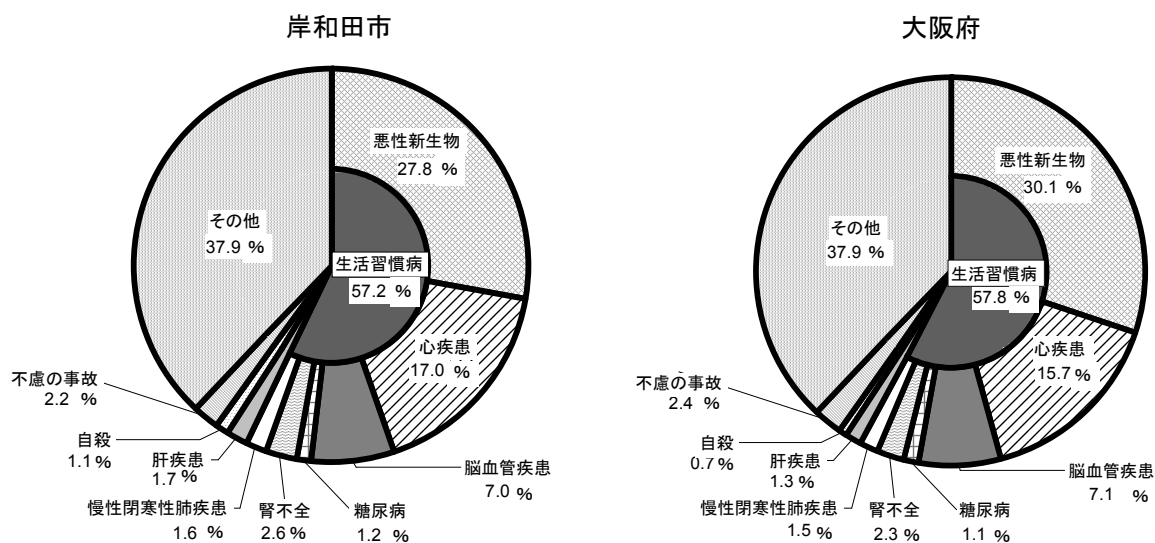
平成 27 年 40 歳から 64 歳までの死因割合



資料：大阪府人口動態調査統計

65 歳以降では悪性新生物による死亡が 27.8%と最も高い割合を占めており、生活習慣病による死亡は 57.2%となっています。また、大阪府と比べると心疾患による死亡が高くなっています。

平成 27 年 65 歳以降の死因割合



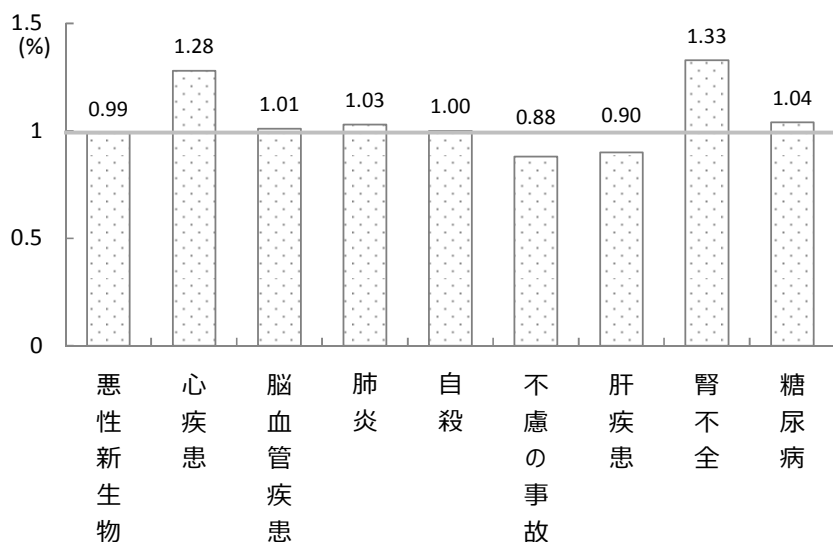
資料：大阪府人口動態調査統計

② 標準化死亡比

標準化死亡比は、腎不全、心疾患が大阪府よりも高くなっています。

悪性新生物の部位別標準化死亡比では、特に乳がんが大阪府よりも高くなっています。

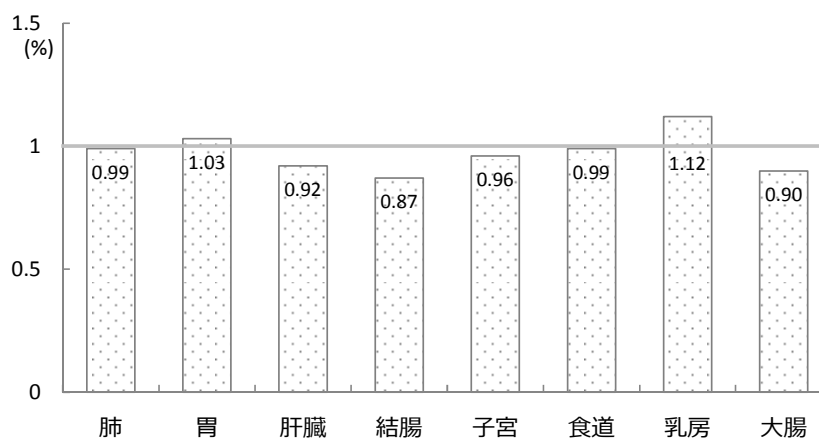
平成 22 年～平成 26 年岸和田市の死因別平均標準化死亡比



出典：大阪府における成人病統計＜第 72 報—4＞

※大阪府を 1 とする

平成 22 年～平成 26 年岸和田市の悪性新生物部位別標準化死亡比



出典：大阪府における成人病統計＜第 72 報—4＞

※大阪府を 1 とする

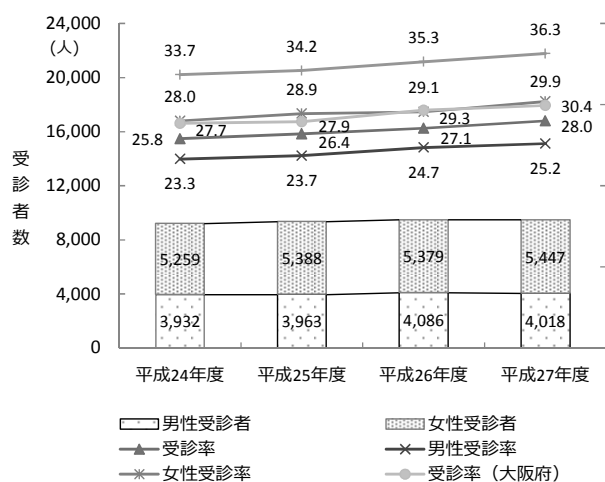
③ 岸和田市国民健康保険加入者の特定健康診査の実施状況

ア 受診状況

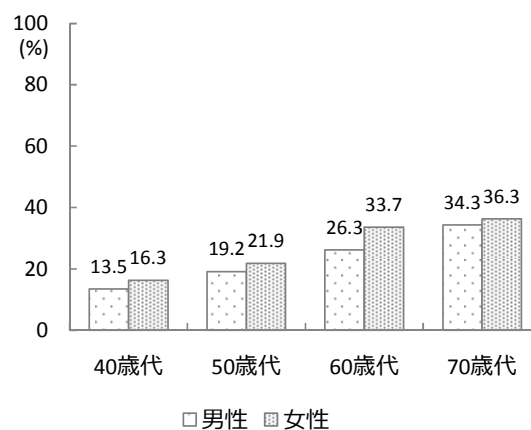
特定健康診査の受診率は、全国や府の平均よりも低く、平成 27 年度における特定健康診査の受診者数は 9,465 人、受診率は 28.0%となっています。経年でみると、受診者数、受診率ともに増加傾向となっています。

年代別でみると、年代が上がるにつれ、受診率が高く、男性に比べ女性の受診率が高くなっています。

岸和田市国民健康保険加入者の特定健診受診者数と受診率の推移



性別年代別特定健康診査の受診率
(平成 27 年度)



資料：国保連合会

特定健診・特定保健指導実施結果総括表

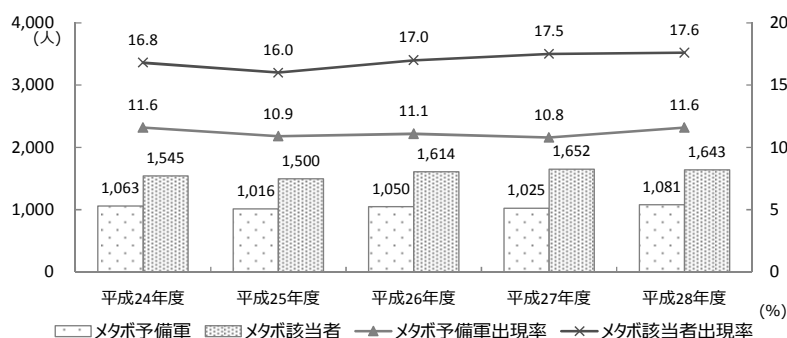
資料：国保連合会 特定健診・特定保健指導実施結果総括表

イ メタボリックシンドロームの状況

メタボリックシンドローム該当者・予備群の推移をみると、メタボリックシンドローム該当者の出現率は、やや増加傾向となっています。

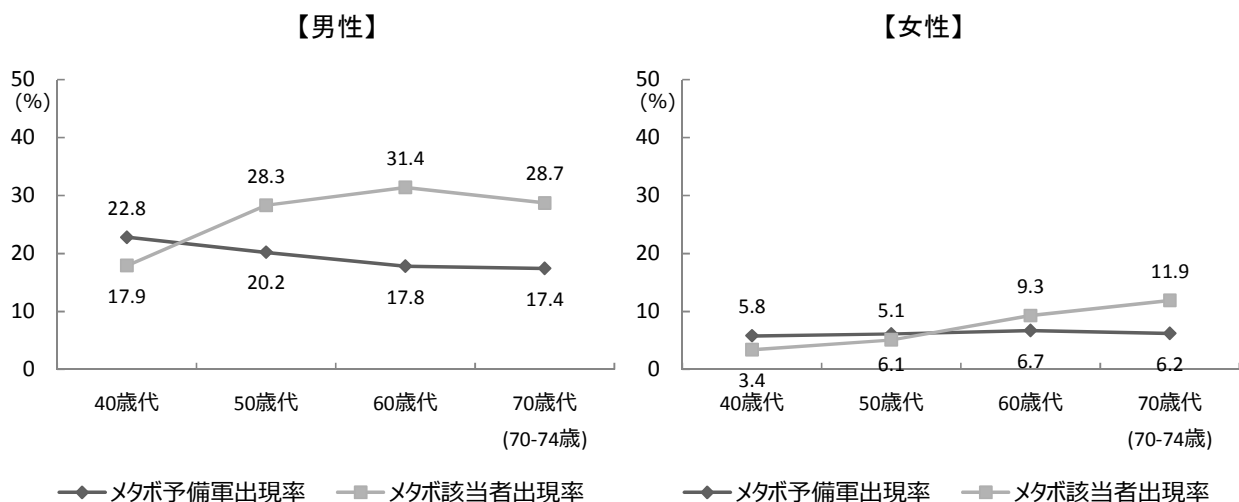
性別年代別のメタボリックシンドローム該当者・予備群の出現率をみると、男性の 60 歳代で、メタボリックシンドローム該当者の割合が高く、約 3 割となっています。

特定健診受診者のメタボリックシンドローム該当者・予備群の推移



資料：国保連合会 特定健診・特定保健指導実施結果総括表

性別年代別のメタボリックシンドローム該当者・予備群出現率（平成 28 年度）

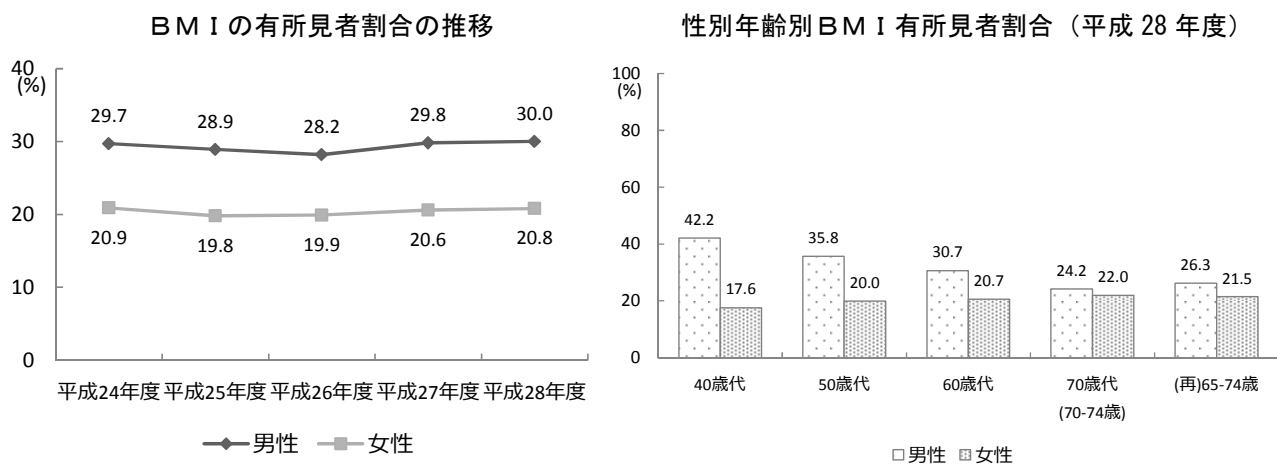


資料：国保連合会 特定健診・特定保健指導実施結果総括表

ウ BMI 有所見者

平成 28 年度の特定健診受診者の BMI 有所見者（BMI 25 以上）をみると、男性の 30.0%、女性の 20.8%が肥満に該当しています。

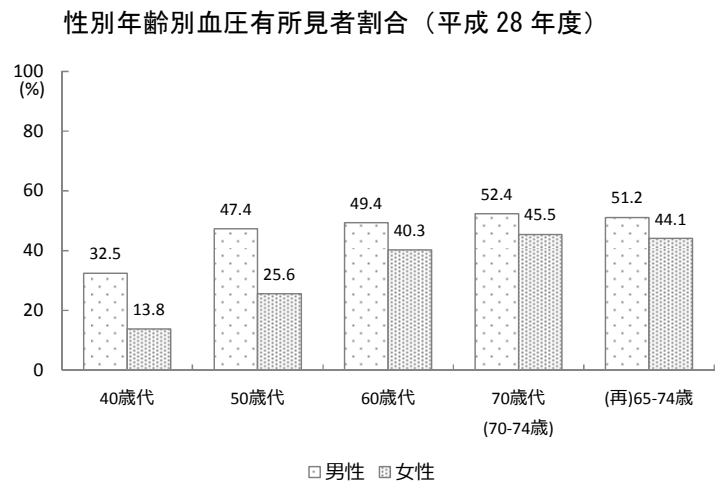
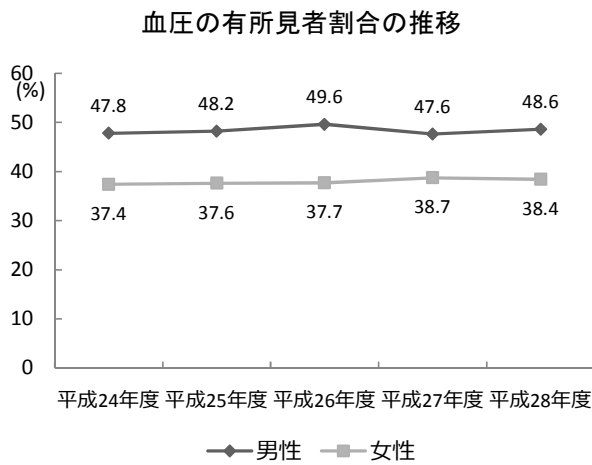
性別年代別でみると、男性 40 歳代で有所見者の割合が高く、約 4 割が肥満に該当しています。



資料：市健診データ

エ 血圧有所見者

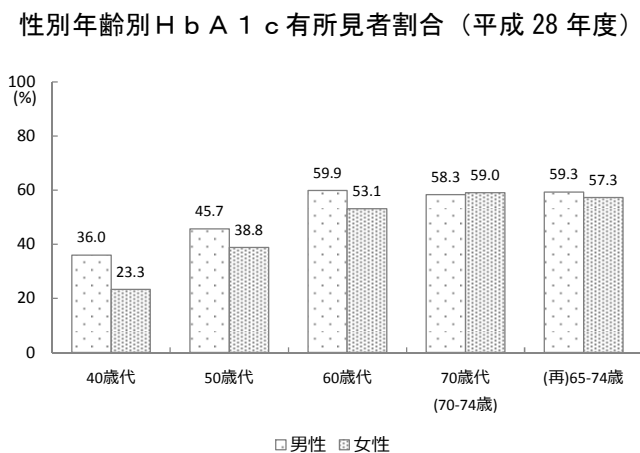
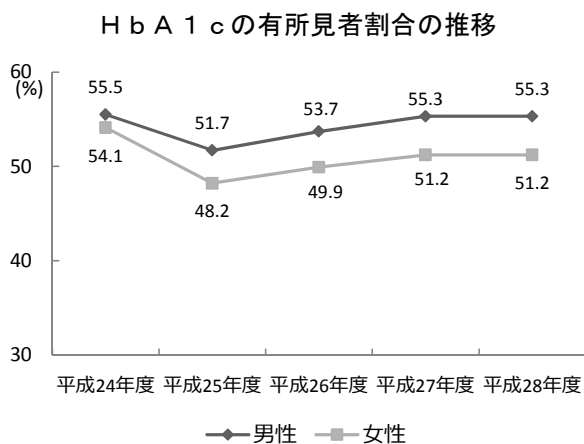
平成 28 年度の特定健診受診者の血圧の有所見者（収縮期血圧 135 以上または拡張期血圧 85 以上）をみると、男性の 48.6%、女性の 38.4%が有所見者に該当しています。
性別年代別でみると、男女とも年齢が増えるごとに有所見者が増加しています。



資料：市健診データ

オ H b A 1 c 有所見者

平成 28 年度の特定健診受診者の H b A 1 c の有所見者（5.6%以上 NGSP 基準）をみると、男性の 55.3%、女性の 51.2%が有所見者に該当しています。
性別年代別でみると、男女とも年齢が増えるごとに有所見者が増加しており、有所見者の割合も年々増加しています。

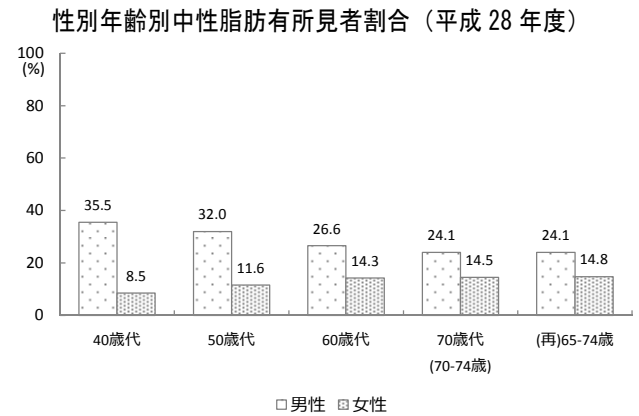
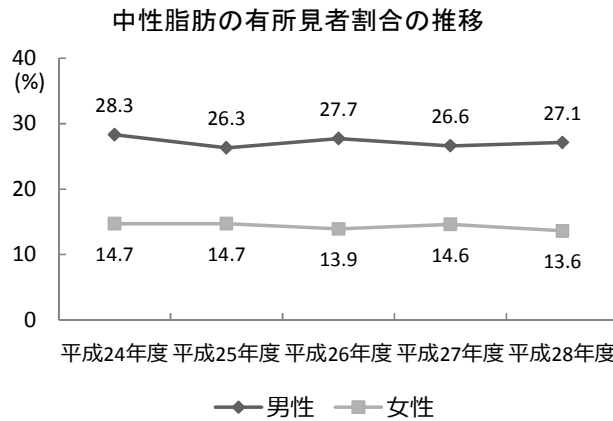


資料：市健診データ

カ 中性脂肪有所見者

平成 28 年度の特定健診受診者の中性脂肪の有所見者（150mg/dl 以上）をみると、男性の 27.1%、女性の 13.6%が有所見者に該当しています。

性別年代別でみると、男性 40 歳代、50 歳代で有所見者の割合が高くなっています。

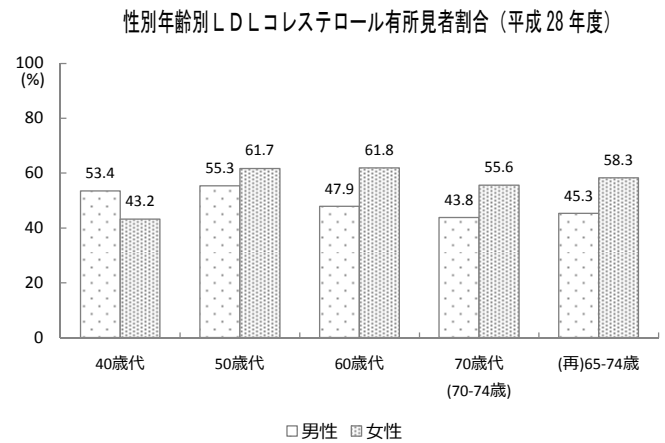
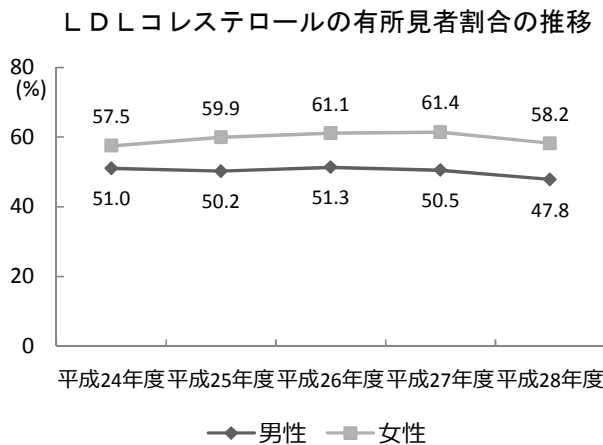


資料：市健診データ

キ LDLコレステロール有所見者

平成 28 年度の特定健診受診者のLDLコレステロールの有所見者（120mg/dl 以上）をみると、男性の 47.8%、女性の 58.2%が有所見者に該当しています。

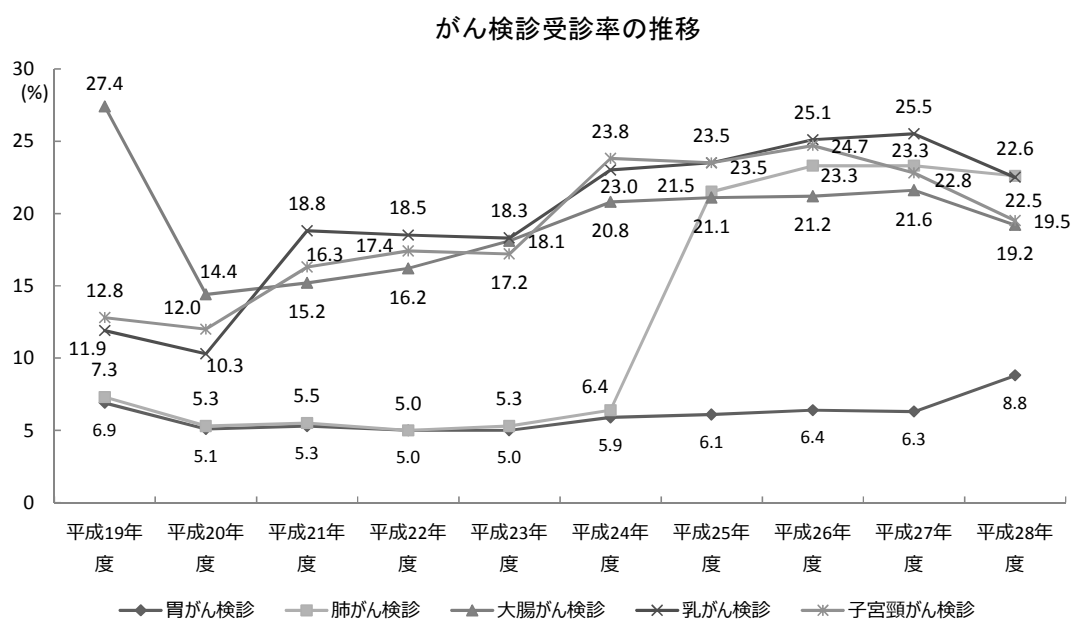
性別年代別でみると、女性の 50 歳代、60 歳代で有所見者の割合が高くなっています。



資料：市健診データ

④ がん検診の受診状況

各種がん検診の受診率はほぼ横ばいです。肺がん検診は平成 25 年度から個別健診を実施したために受診率が増加しました。



資料：市健診データ

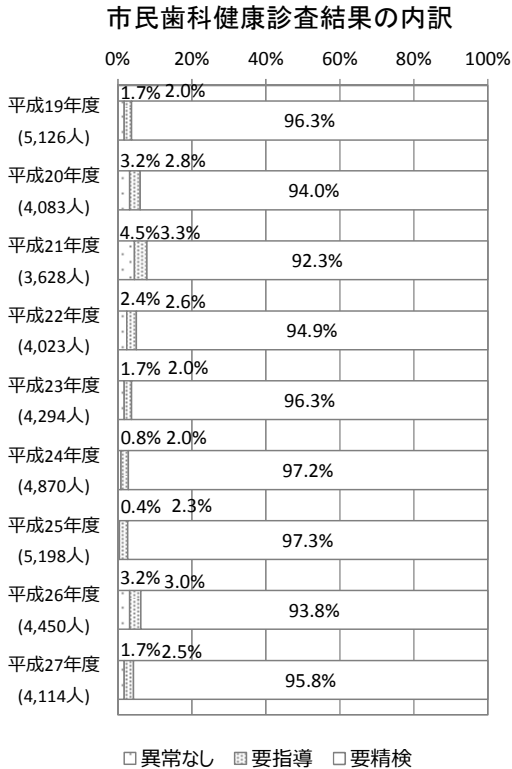
単位：%

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
胃がん検診	6.9	5.1	5.3	5.0	5.0	5.9	6.1	6.4	6.3	8.8
肺がん検診	7.3	5.3	5.5	5.0	5.3	6.4	21.5	23.3	23.3	22.6
大腸がん検診	27.4	14.4	15.2	16.2	18.1	20.8	21.1	21.2	21.6	19.2
乳がん検診	11.9	10.3	18.8	18.5	18.3	23.0	23.5	25.1	25.5	22.5
子宮頸がん検診	12.8	12.0	16.3	17.4	17.2	23.8	23.5	24.7	22.8	19.5

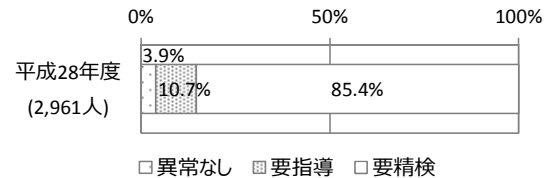
資料：市健診データ

⑤ 市民歯科健康診査の状況

市民歯科健康診査の受診者のうち、9割が要精検者です。また、平成28年度より、40歳から74歳までは市民歯科健康診査に75歳以上は後期高齢者歯科口腔健康診査に、内容も変わり、変更になっています。

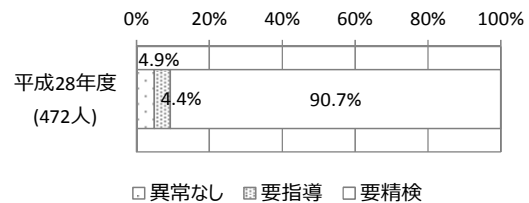


市民歯科健康診査結果の内訳（40歳から74歳）



資料：市健診データ

後期高齢者歯科口腔健康診査（75歳以上）

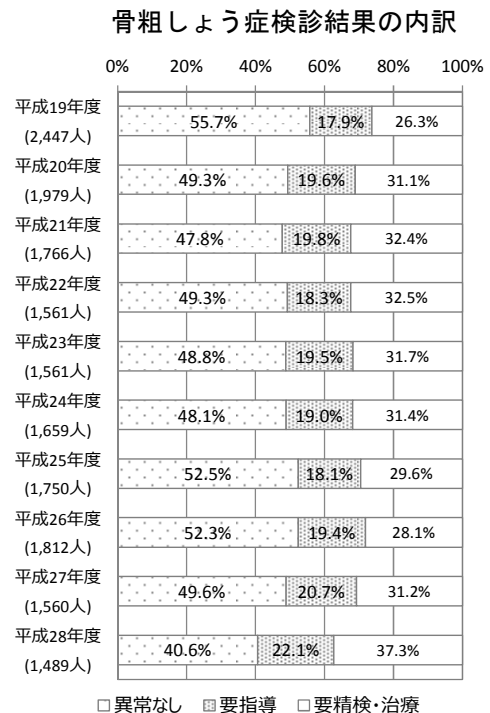


資料：市健診データ

資料：市健診データ ※（ ）内は受診者数

⑥ 骨粗しょう症検診の状況

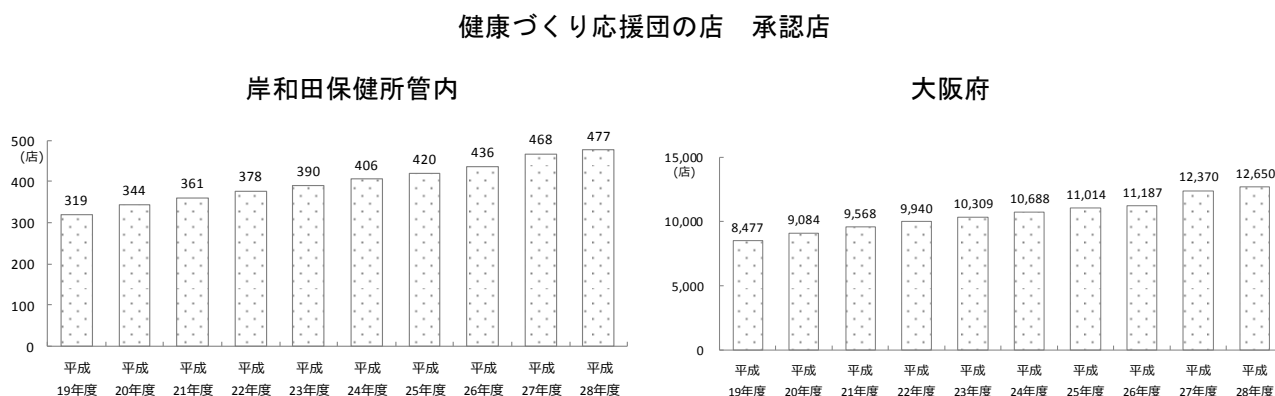
骨粗しょう症検診を受診した結果、半数以上が「要指導」「要精検・治療」と判定されています。



資料：市健診データ ※（ ）内は受診者数

⑦ 健康づくり応援団の店舗数の推移

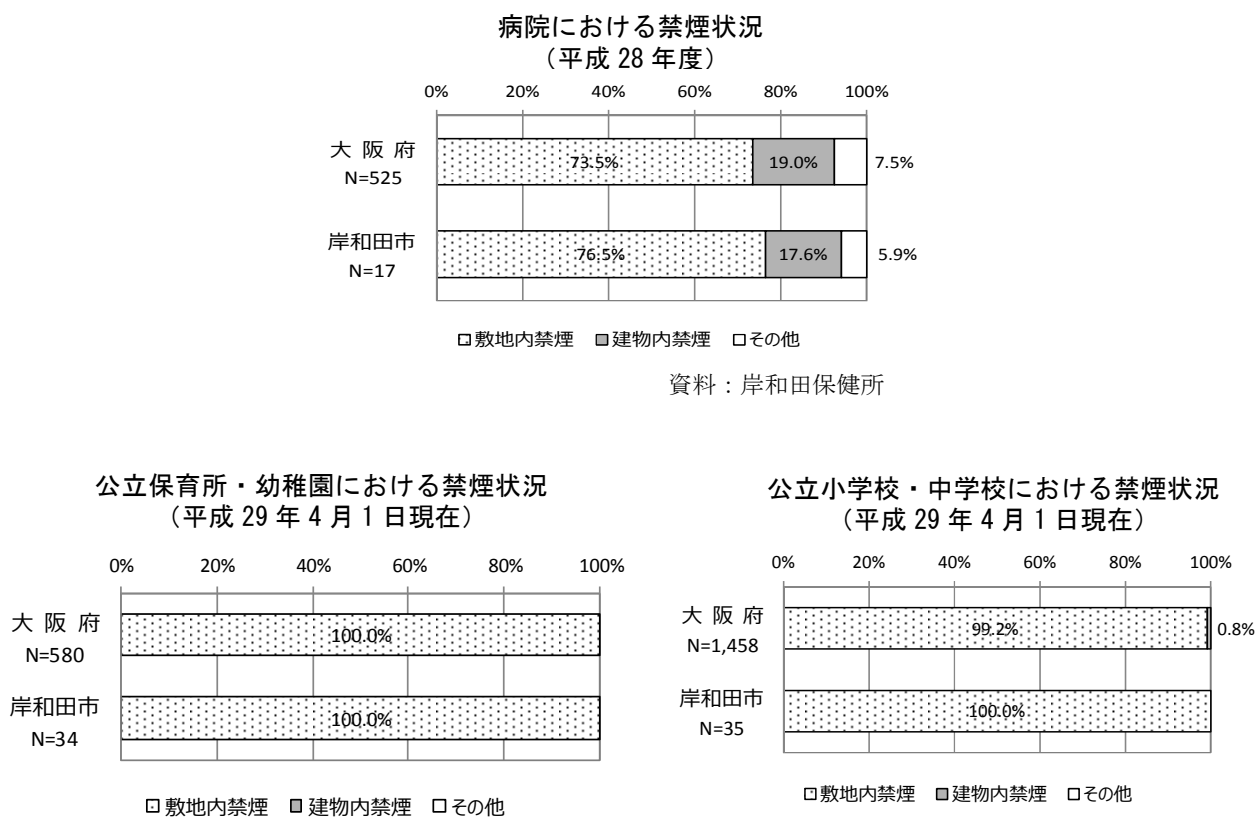
岸和田保健所管内の健康づくり応援団の店舗数は年々増加しており、平成28年度で477店舗となっています。



資料：岸和田保健所、大阪府食育推進計画

⑧ 市の施設・医療機関での禁煙・分煙状況

施設・医療機関での禁煙・分煙状況は、病院における敷地内禁煙の実施割合や公立保育所・幼稚園における敷地内禁煙の実施割合が大阪府に比べ高くなっています。



資料：大阪府ホームページ

3 市民の健康状態や意識（アンケート調査結果）

【アンケート調査の概要】

中間評価にあたり、目標値の現状などを把握するため、目標設定項目を基本とするアンケート調査を行いました。

① 実施概要

調査地域：岸和田市全域

調査期間：平成 29 年 7 月 31 日から平成 29 年 10 月 5 日まで

調査方法：調査票による本人記入方式

乳幼児期 乳幼児健康診査、市立幼稚園での配布・回収

学童・思春期 市立小・中学校・高等学校での配布・回収

青年期 市役所職員、乳幼児健康診査、市立幼稚園での配布・回収

壮年期 ウエルエージング推進委員が所属する各種団体（市民協議会ほか関係団体）、国保加入者の集団特定健康診査、がん検診での配布・回収

老年期 ウエルエージング推進委員が所属する各種団体（市民協議会ほか関係団体）、国保加入者の集団特定健康診査、がん検診での配布・回収

② 回収状況

	配布数	回収数	回収率（％）	有効回答数	有効回答率（％）
乳幼児期	638	574	90.0	574	100
学童・思春期	805	700	87.0	700	100
青年期	938	697	74.3	644	92.3
壮年期	1,435	737	51.4	732	99.3
老年期	860	467	54.3	461	98.7
総数	4,676	3,175	67.9	3,111	98.0

③ 調査結果の見方について

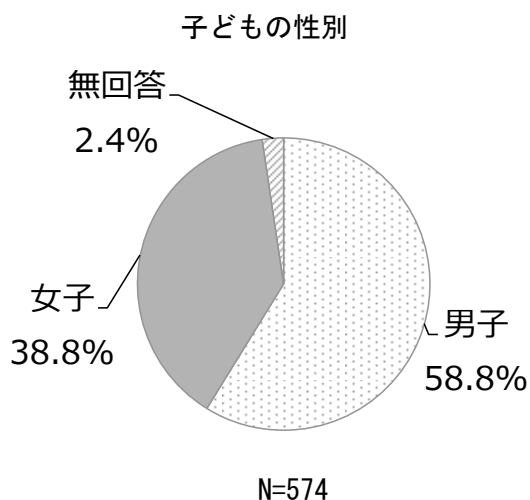
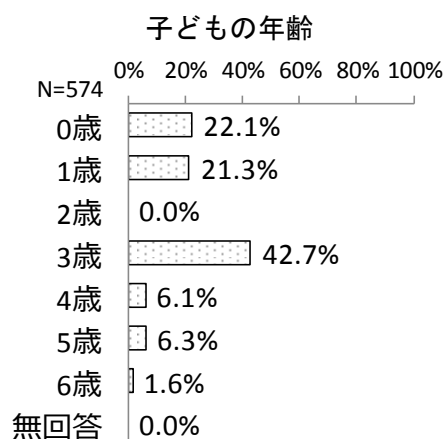
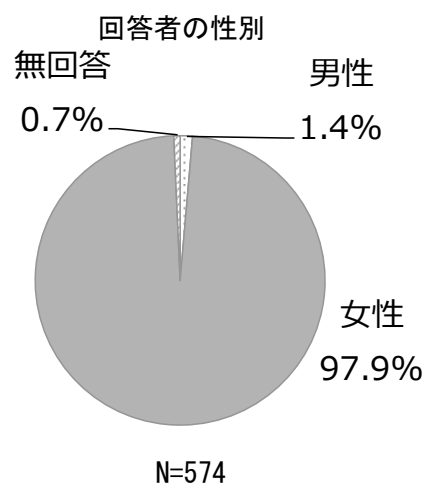
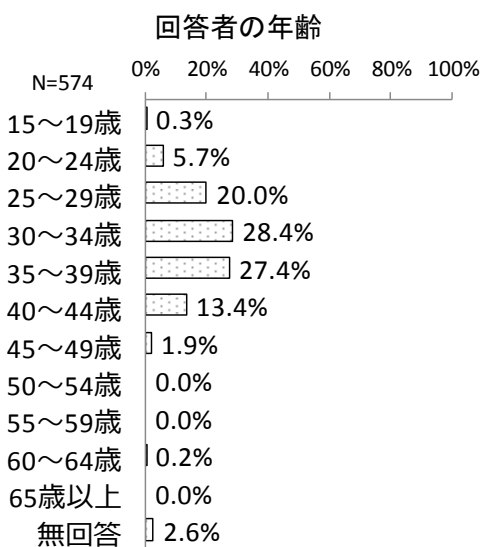
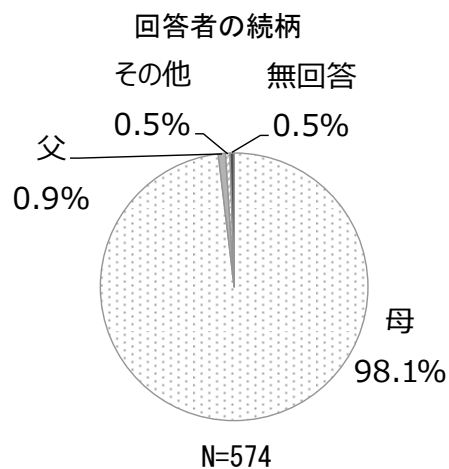
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0％にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0％を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査票に記入されている回答をそのまま集計しているため、一部の回答結果に矛盾が生じている可能性があります。

【回答者の属性（年齢・性別等）】

① 乳幼児期（おおむね0～5歳）

回答者の続柄は「母」の割合が98.1%、「父」の割合が0.9%となっています。

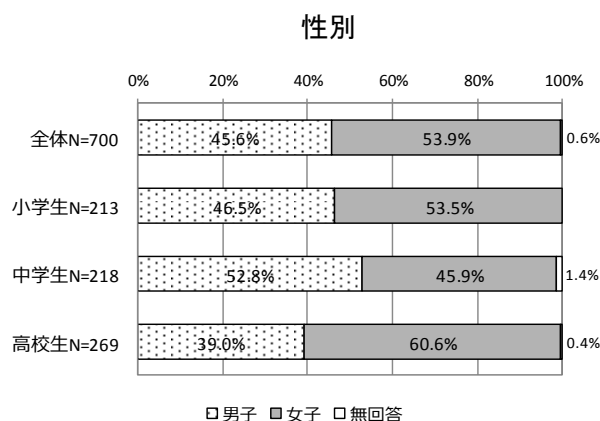
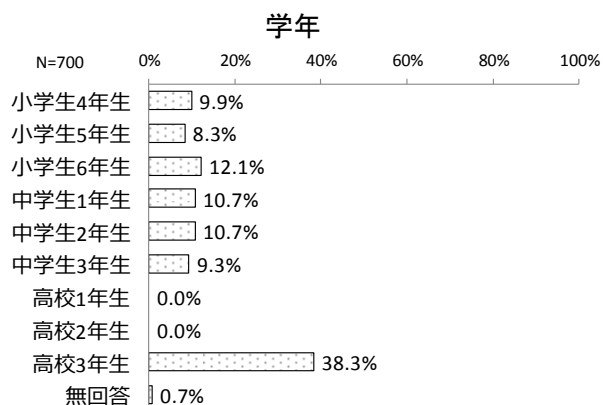
回答者の年齢、性別、子供の年齢、性別は以下のとおりです。



② 学童・思春期（おおむね6～18歳）

学年構成は、以下のとおりとなっています。

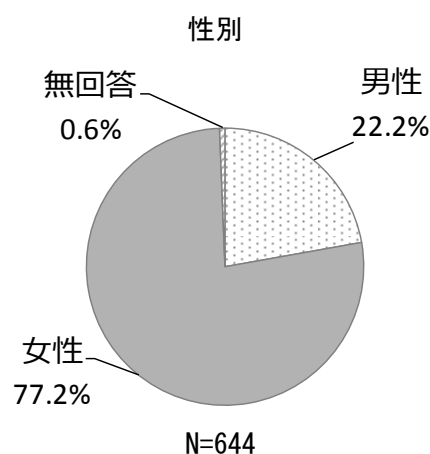
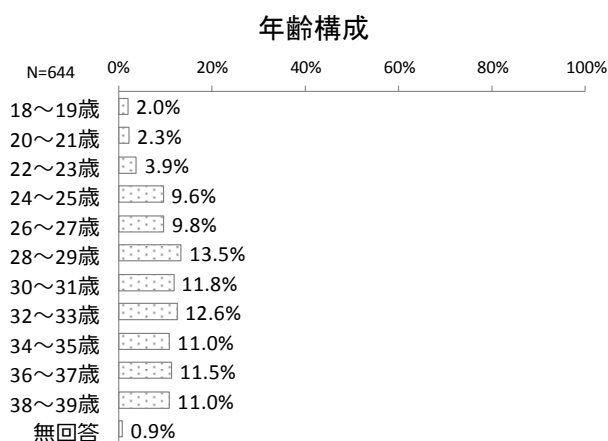
性別は、「男子」の割合が45.6%、「女子」の割合が53.9%となっています。



③ 青年期（おおむね19～39歳）

年齢構成は、以下のとおりとなっています。

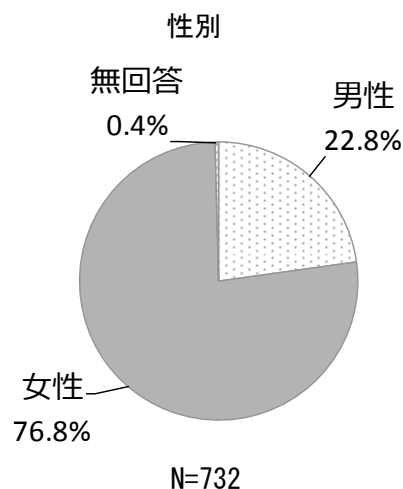
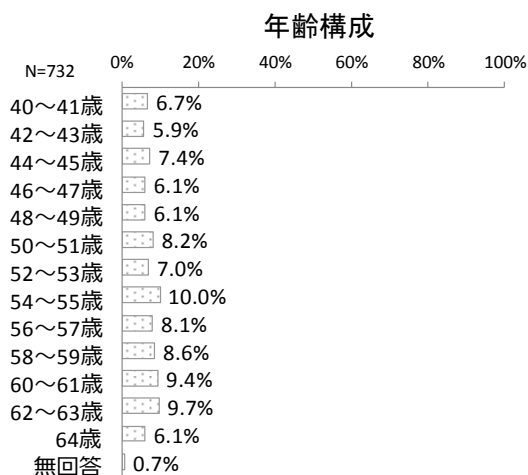
性別は、「男性」の割合が22.2%、「女性」の割合が77.2%となっています。



④ 壮年期（おおむね40～64歳）

年齢構成は、以下のとおりとなっています。

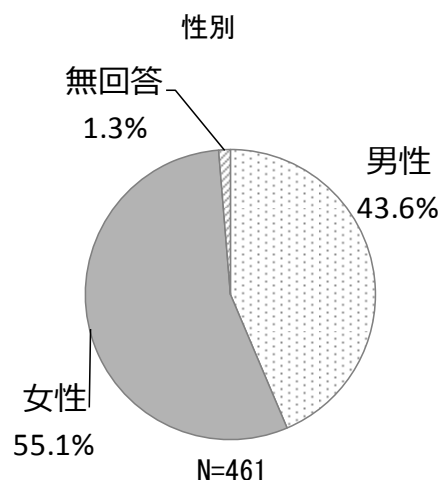
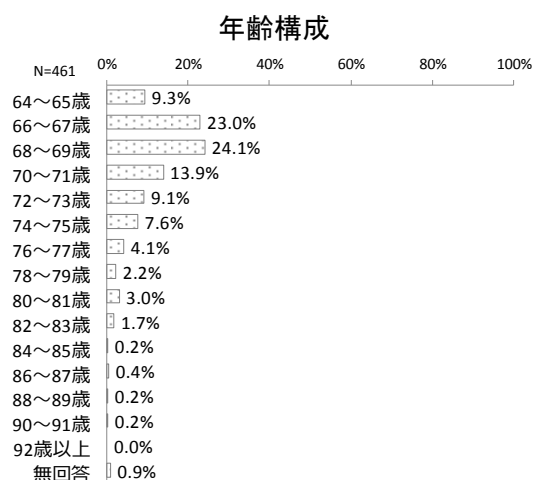
性別は、「男性」の割合が22.8%、「女性」の割合が76.8%となっています。



⑤ 老年期（おおむね 65 歳以上）

年齢構成は、以下のとおりとなっています。

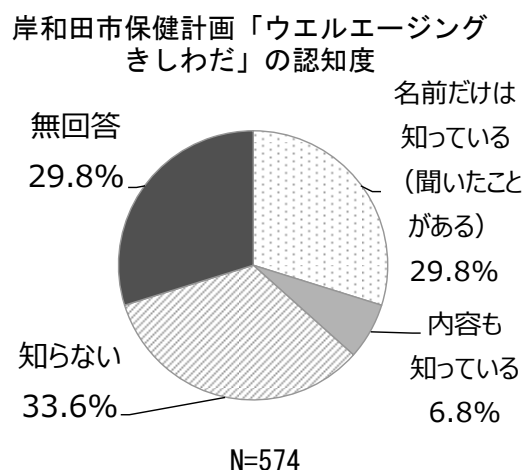
性別は、「男性」の割合が 43.6%、「女性」の割合が 55.1%となっています。



（１）乳幼児期（おおむね 0 ～ 5 歳）

① 岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度

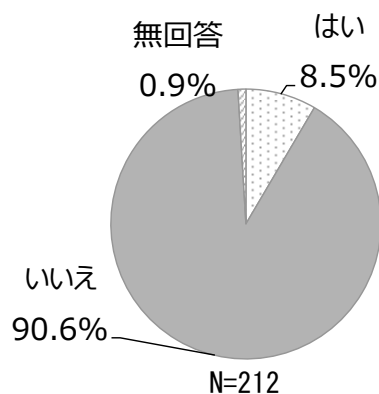
岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度は、「名前だけは知っている（聞いたことがある）」の割合が 29.8%、「内容も知っている」の割合が 6.8%、「知らない」の割合が 33.6%となっています。



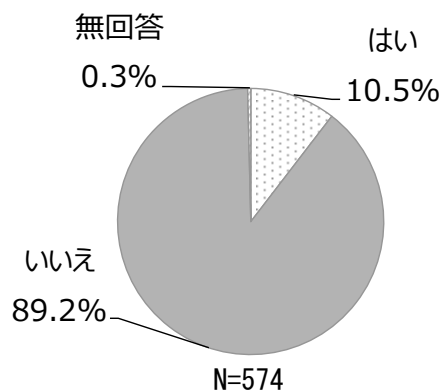
② 母親の喫煙率・飲酒率

第 1 子妊娠中の母親の喫煙率は 8.5%に対し、現在の母親の喫煙率は 10.5%となっています。

妊娠中の母親の喫煙率（第 1 子）

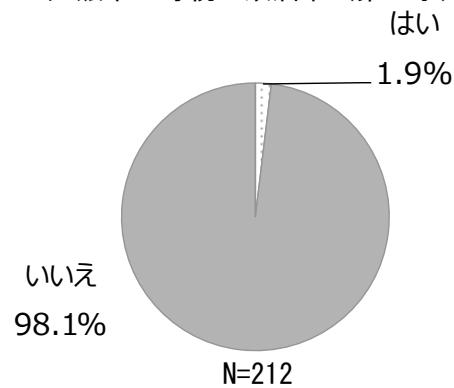


現在の母親の喫煙率



第1子妊娠中の母親の飲酒率は1.9%となっています。

妊娠中の母親の飲酒率（第1子）

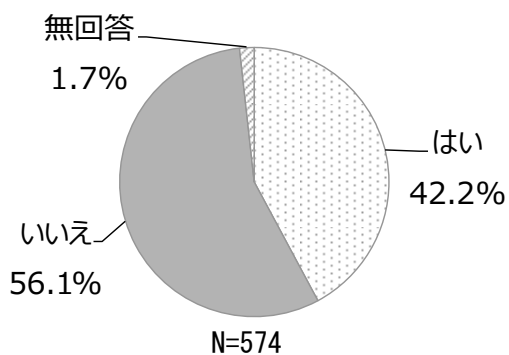


③ 家族の喫煙率

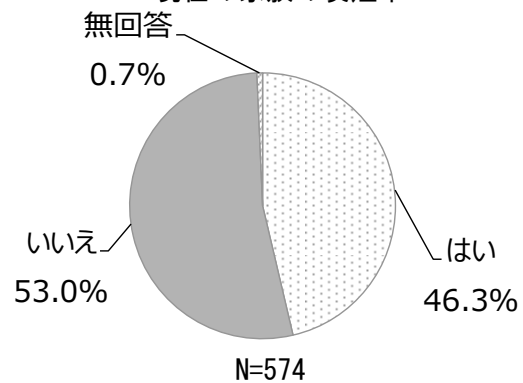
現在の父親の喫煙率は、42.2%となっています。

また、家族の喫煙率は、46.3%となっています。

現在の父親の喫煙率



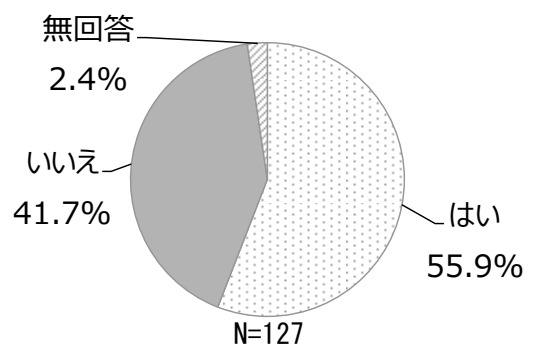
現在の家族の喫煙率



④ 妊娠中の体重管理

妊娠中の適切な体重管理については、「はい（管理できた）」の割合が55.9%、「いいえ（管理できなかった）」の割合が41.7%となっています。

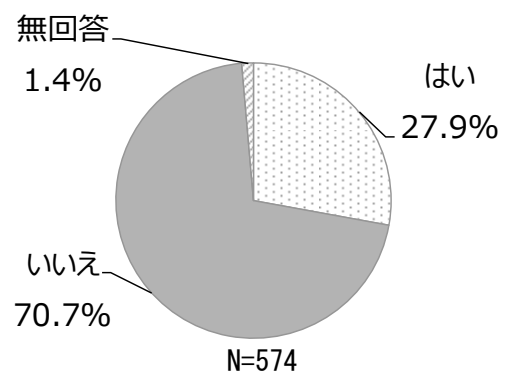
妊娠中の適切な体重管理



⑤ 妊娠・出産後の母親の精神状態

妊娠・出産後の母親の精神状態については、「はい（不安定になった）」の割合が27.9%、「いいえ（不安定になっていない）」の割合が70.7%となっています。

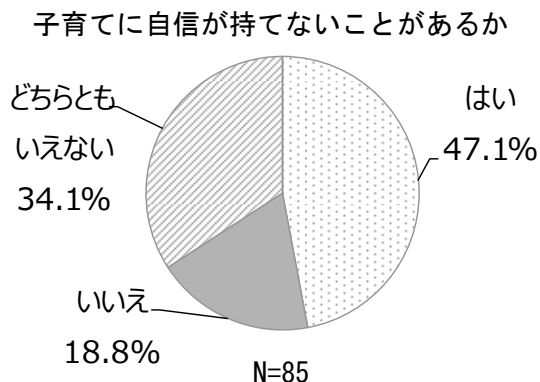
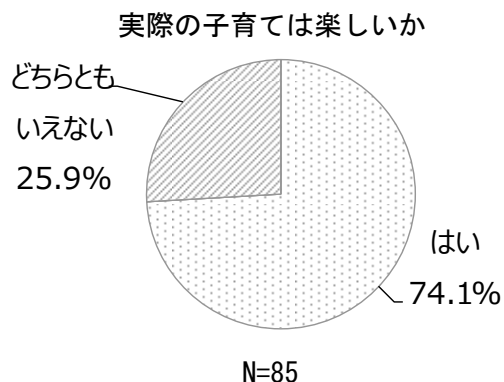
妊娠・出産後の母親の精神状態



⑥ 子育て

実際の子育てについては、「はい（楽しい）」の割合が74.1%、「いいえ（楽しくない）」の割合は0.0%となっています。

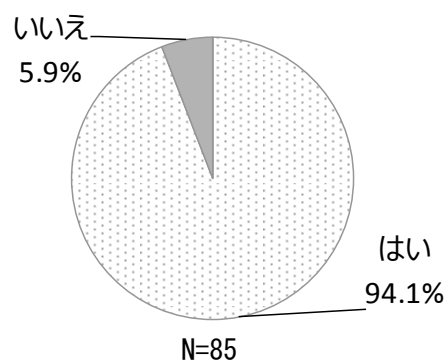
子育てに自信が持てないことがあるかについては、「はい」の割合が47.1%、「いいえ」の割合が18.8%となっています。



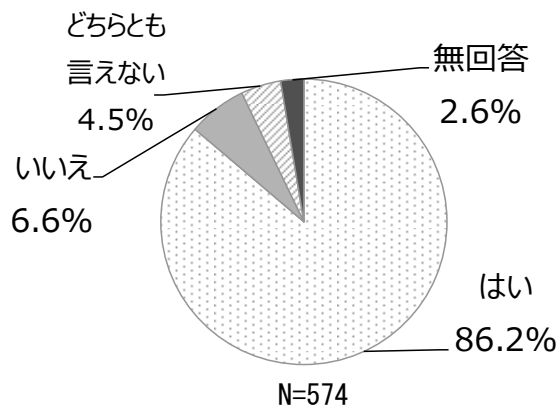
子育てに関する相談相手の有無については、「はい（いる）」の割合が94.1%、「いいえ（いない）」の割合が5.9%となっています。

父親の子育て・家事の参加状況については、「はい（参加している）」の割合が86.2%、「いいえ（参加していない）」の割合が6.6%となっています。

子育てに関する相談相手の有無



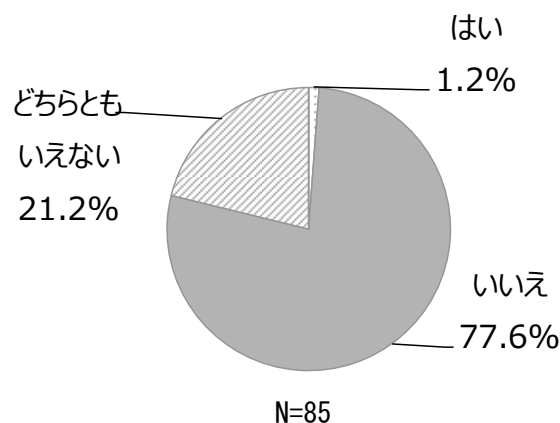
父親の子育て・家事の参加状況



⑦ 虐待

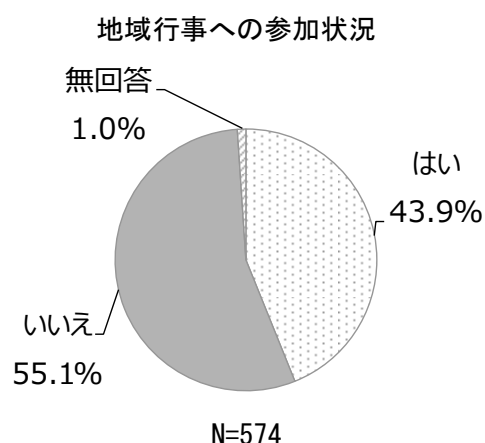
子どもを虐待していると思うことがあるかについては、「はい（思うことがある）」の割合が1.2%、「いいえ（思うことはない）」の割合が77.6%、「どちらともいえない」の割合が21.2%となっています。

子どもを虐待していると思うことがあるか



⑧ 地域行事への参加状況

地域行事への参加状況については、「はい（参加している）」の割合が 43.9%、「いいえ（参加していない）」の割合が 55.1%となっています。

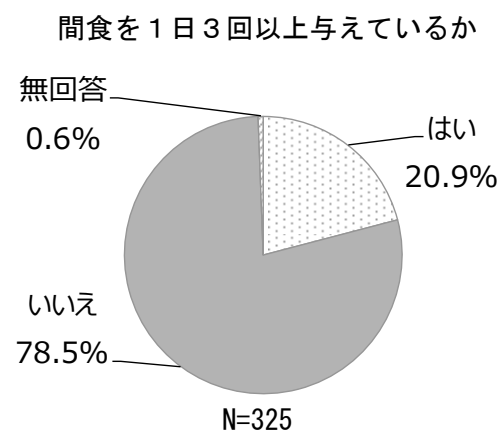
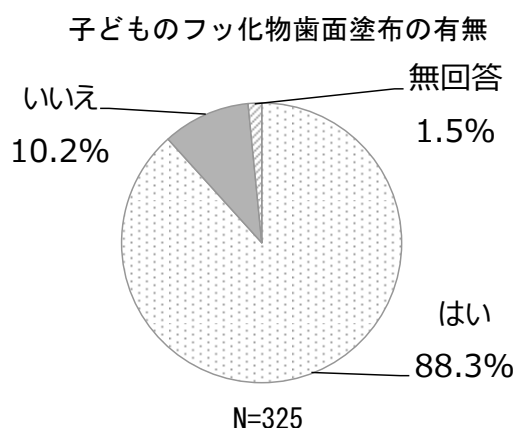
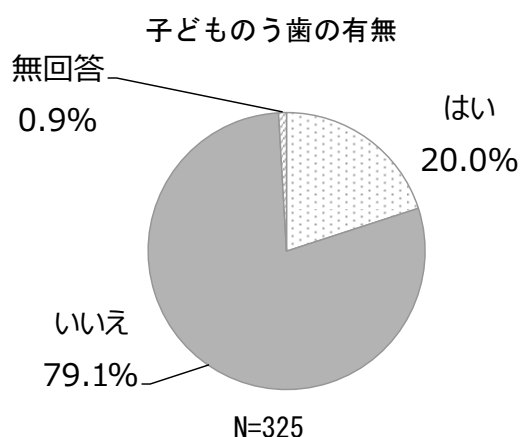


⑨ 子どもの歯

子どものう歯の有無については、「はい（ある）」の割合が 20.0%、「いいえ（ない）」の割合が 79.1%となっています。

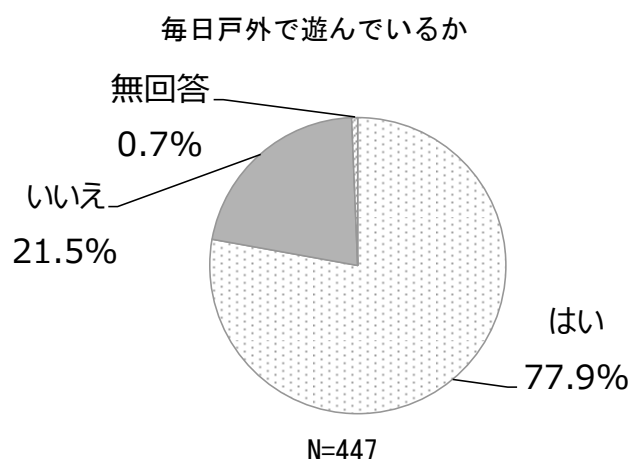
子どものフッ化物歯面塗布の有無については、「はい（ある）」の割合が 88.3%、「いいえ（ない）」の割合が 10.2%となっています。

間食を1日3回以上与えているかについては、「はい（与えている）」の割合が 20.9%、「いいえ（与えていない）」の割合が 78.5%となっています。



⑩ 子どもの生活

毎日戸外で遊んでいるかについては、「はい（遊んでいる）」の割合が 77.9%、「いいえ（遊んでいない）」の割合が 21.5%となっています。

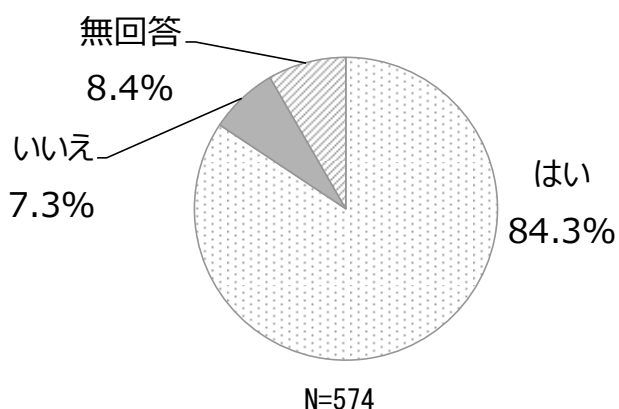


⑪ 小児医療体制

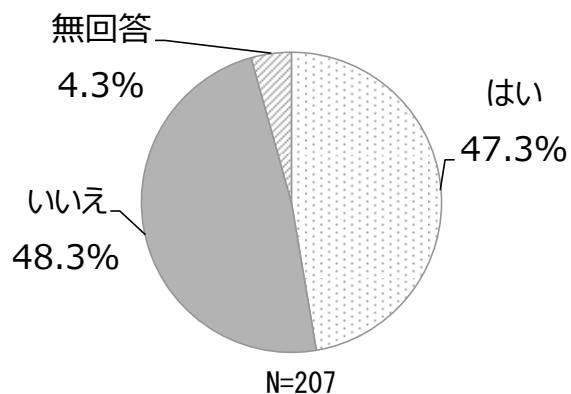
小児科のかかりつけ医の有無については、「はい（いる）」の割合が 84.3%、「いいえ（いない）」の割合が 7.3%となっています。

家庭で事故・けがの防止のための対策をしているかについては、「はい（している）」の割合が 47.3%、「いいえ（していない）」の割合が 48.3%となっています。

小児科のかかりつけ医の有無



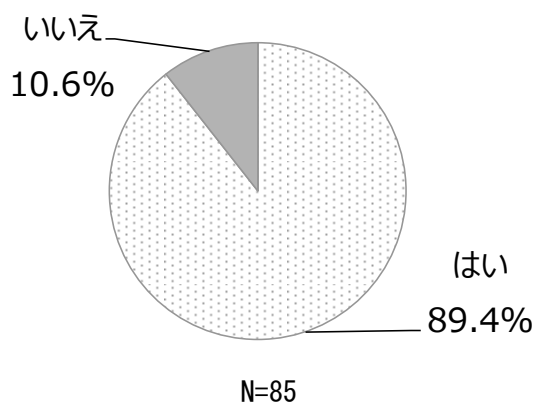
家庭で事故・けがの防止のための対策をしているか



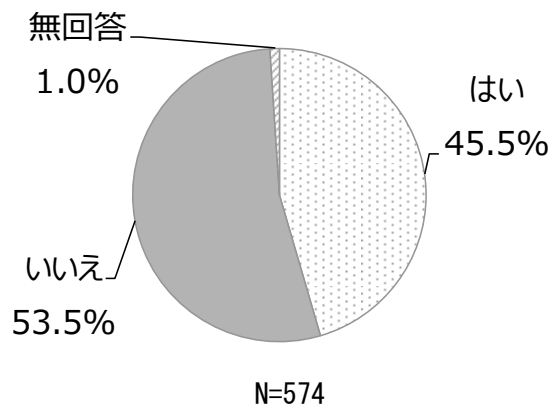
乳幼児突然死症候群（SIDS）の認知度については、「はい（知っている）」の割合が 89.4%、「いいえ（知らない）」の割合が 10.6%となっています。

心肺蘇生法（心臓マッサージ人工呼吸法）の認知度については、「はい（知っている）」の割合が 45.5%、「いいえ（知らない）」の割合が 53.5%となっています。

乳幼児突然死症候群（SIDS）の認知度



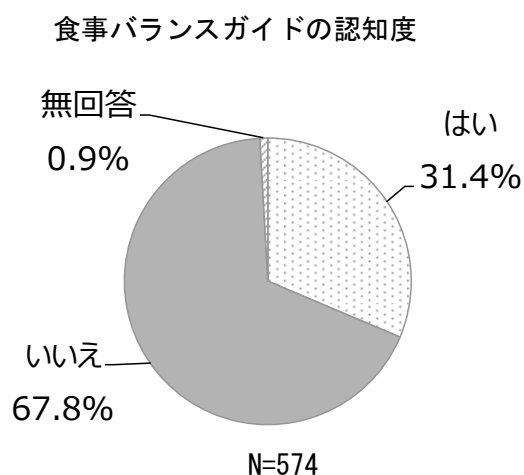
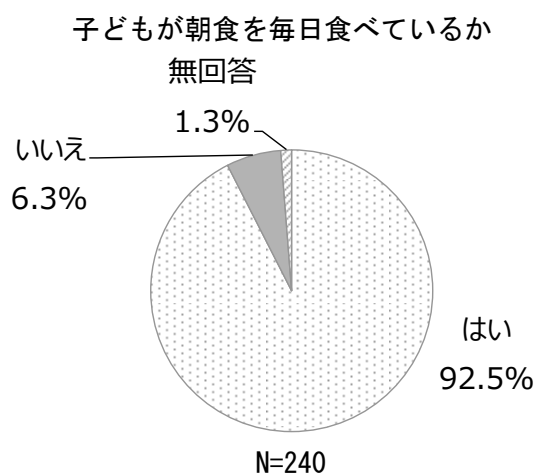
心肺蘇生法（心臓マッサージ人工呼吸法）の認知度



⑫ 食生活

子どもが朝食を毎日食べているかについては、「はい（食べている）」の割合が 92.5%、「いいえ（食べていない）」の割合が 6.3%となっています。

保護者の食事バランスガイドの認知度については、「はい（知っている）」の割合が 31.4%、「いいえ（知らない）」の割合が 67.8%となっています。

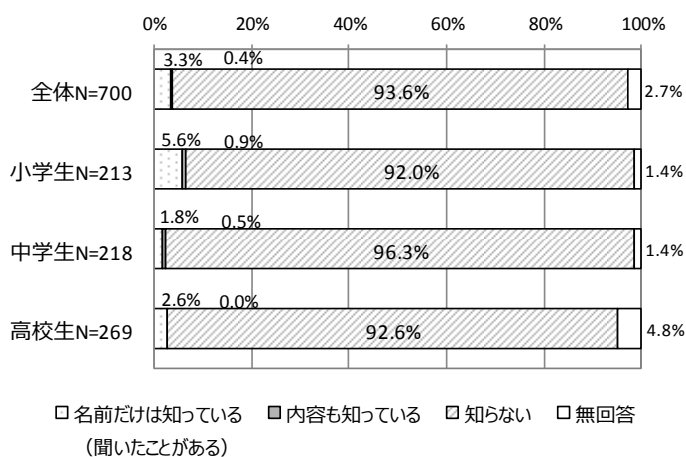


（２）学童・思春期（おおむね 6～18 歳）

① 岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度

岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度を合計で見ると、「名前だけは知っている（聞いたことがある）」の割合が 3.3%、「知らない」の割合が 93.6%となっています。

岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度

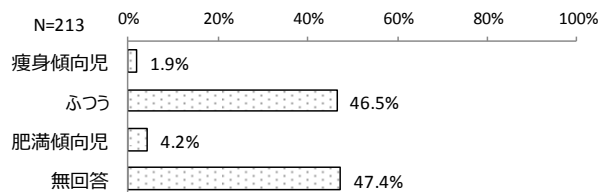


② 健康管理

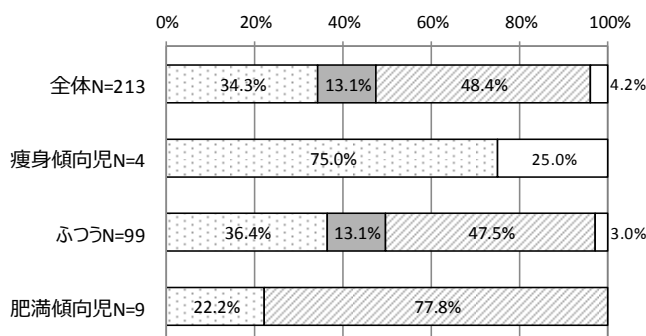
小学生では、「痩身傾向児」の割合が 1.9%、「ふつう」の割合が 46.5%、「肥満傾向児」の割合が 4.2%となっています。

また、自分の体重をどのように思っているかを肥満度別でみると、「痩身傾向児」であるにもかかわらず「ちょうどよい」の割合が高く、75.0%となっています。

(小学生) 肥満度



肥満度×自分の体重をどのように思っているか

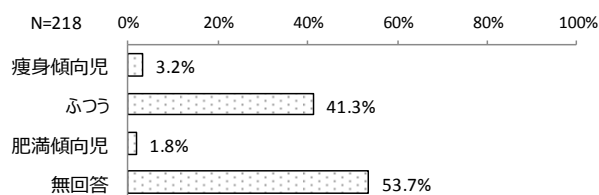


□ちょうどよい □増やしたい □減らしたい □無回答

中学生では、「痩身傾向児」の割合が3.2%、「ふつう」の割合が41.3%、「肥満傾向児」の割合が1.8%となっています。

また、自分の体重をどのように思っているかを肥満度別でみると、「痩身傾向児」で「増やしたい」の割合が高く、57.1%となっています。

(中学生) 肥満度

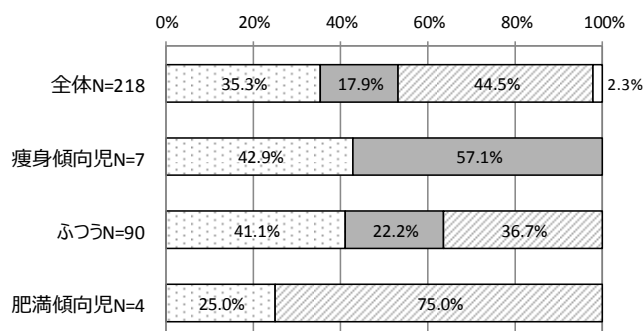


$$\text{肥満度} = \frac{(\text{実測体重}) - (\text{標準体重})}{(\text{標準体重})} \times 100$$

※肥満傾向児: 肥満度 20%以下

※痩身傾向児: 肥満度 -20%以下

肥満度×自分の体重をどのように思っているか

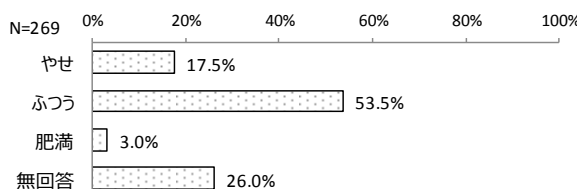


□ちょうどよい □増やしたい □減らしたい □無回答

高校生では、「やせ」の割合が17.5%、「ふつう」の割合が53.5%、「肥満」の割合が3.0%となっています。

また、自分の体重をどのように思っているかを肥満度別でみると、「ふつう」の人でも「減らしたい」の割合が50.0%となっています。

(高校生) 肥満度



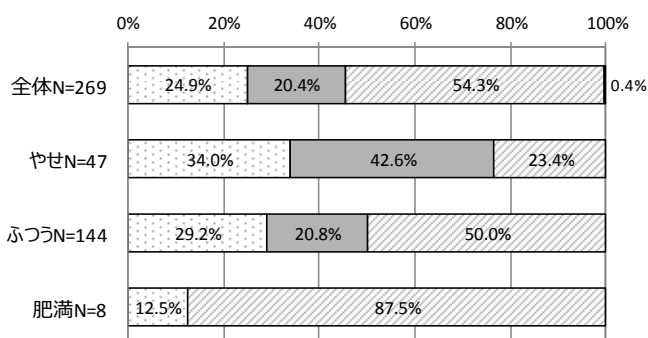
$$\text{BMI} = \text{体重}(\text{kg}) \div \text{身長}(\text{m}) \div \text{身長}(\text{m})$$

※や せ: BMI 18.5 未満

ふ つ う: BMI 18.5 以上 25.0 未満

肥 満: BMI 25.0 以上

肥満度×自分の体重をどのように思っているか

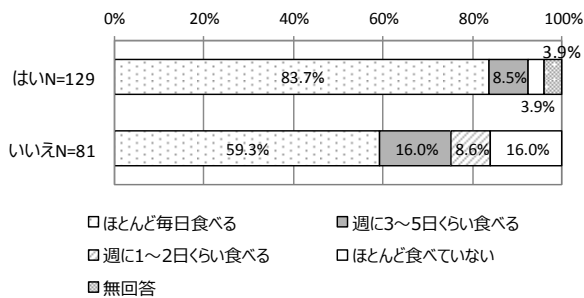


□ちょうどよい □増やしたい □減らしたい □無回答

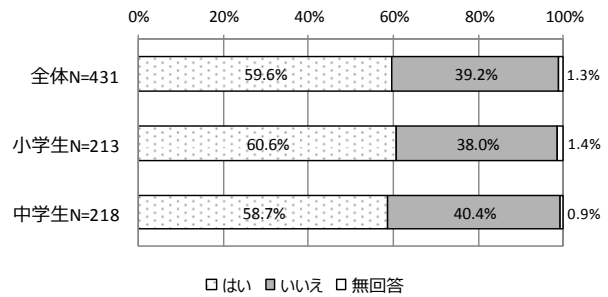
毎日の体の調子について、「はい（良い）」の割合は、小学生で 60.6%、中学生で 58.7%となっています。

また、小学生、中学生ともに、毎日、体の調子が良いと思う人の方が、朝食を「ほとんど毎日食べる」割合が高くなっています。

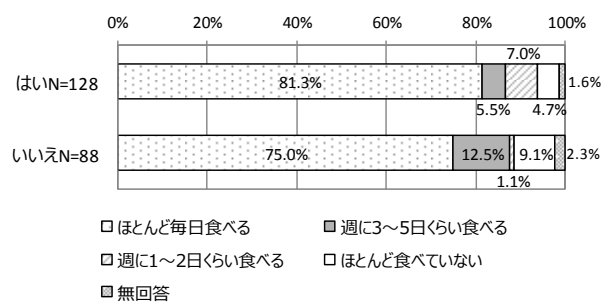
毎日、体の調子が良いと思えるか
×朝食を食べているか（小学生）



毎日、体の調子が良いと思えるか

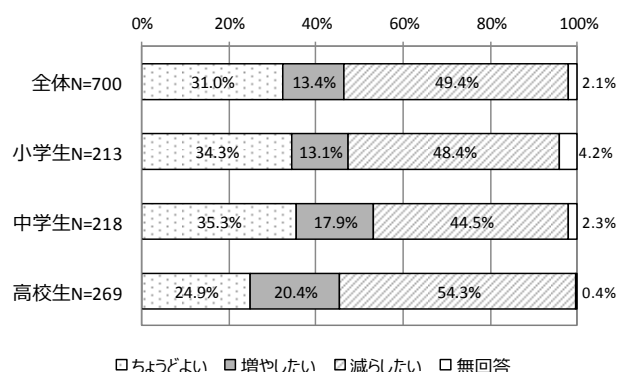


毎日、体の調子が良いと思えるか
×朝食を食べているか（中学生）



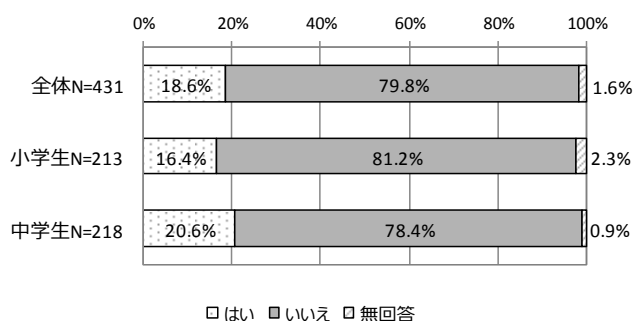
自分の体重をどのように思うかについては、各学年で「減らしたい」の割合が最も高くなっています。年代があがるにつれ「ちょうどよい」の割合が減少しているのに対し、「減らしたい」の割合が増加しています。

自分の体重をどのように思うか



自分の適正体重を知っているかについては、「はい（知っている）」の割合が 18.6%、「いいえ（知らない）」の割合が 79.8%となっています。

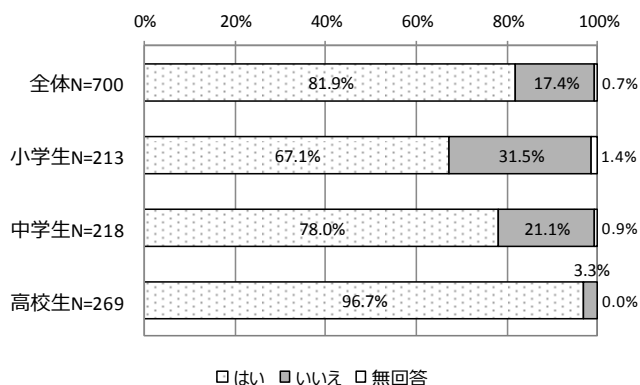
自分の適正体重を知っているか



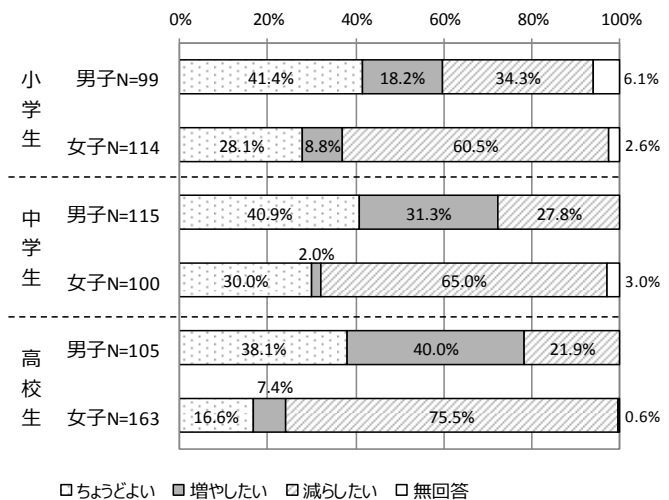
無理なダイエットが健康に悪い影響を及ぼすことの認知状況について、「はい（知っている）」の割合は、小学生で 67.1%、中学生で 78.0%、高校生で 96.7%となっており、年代があがるにつれ認知度が高くなっています。

自分の体重について、性別で見ると、各学年で男子に比べ女子で「減らしたい」の割合が高くなっており、高校生の女子のうち 75.5%が「減らしたい」と思っています。

無理なダイエットが健康に悪い影響を及ぼすことの認知状況



自分の体重をどのように思うか×性別



③ 食生活

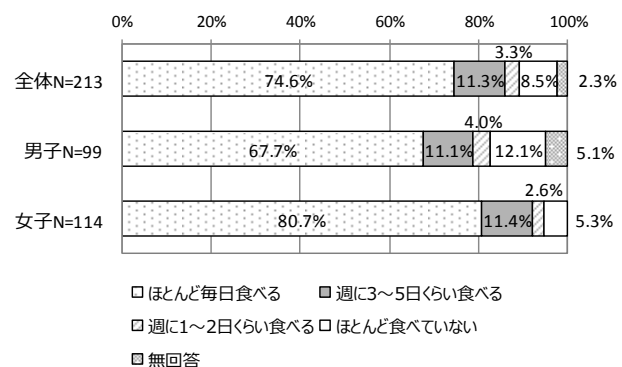
朝食を食べているかについて、小学生では「ほとんど毎日食べる」の割合が 74.6%と最も高く、次いで「週に3～5日くらい食べる」の割合が 11.3%、「ほとんど食べていない」の割合が 8.5%となっています。

中学生では、「ほとんど毎日食べる」の割合が 78.0%と最も高く、次いで「週に3～5日くらい食べる」の割合が 8.3%、「ほとんど食べていない」の割合が 6.4%となっています。

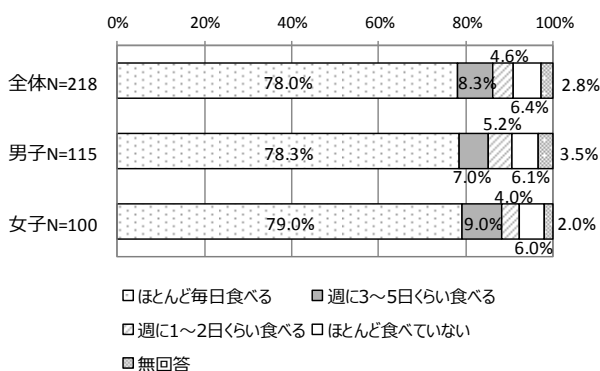
高校生では、「はい（毎日食べている）」の割合が 82.2%、「いいえ（毎日食べていない）」の割合が 17.8%となっています。

男女別でみると、すべての学年で、男子に比べ女子で毎日食べている割合が高くなっています。

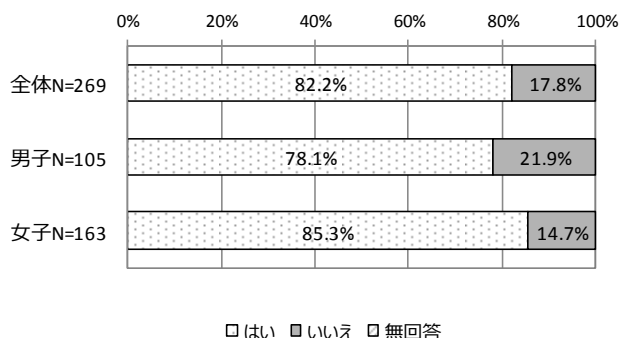
朝食を食べているか（小学生）



朝食を食べているか（中学生）



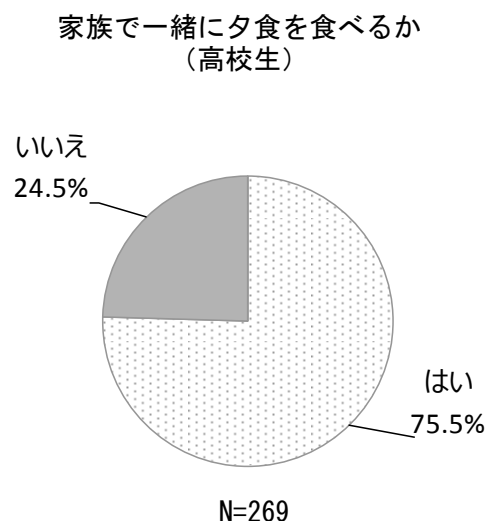
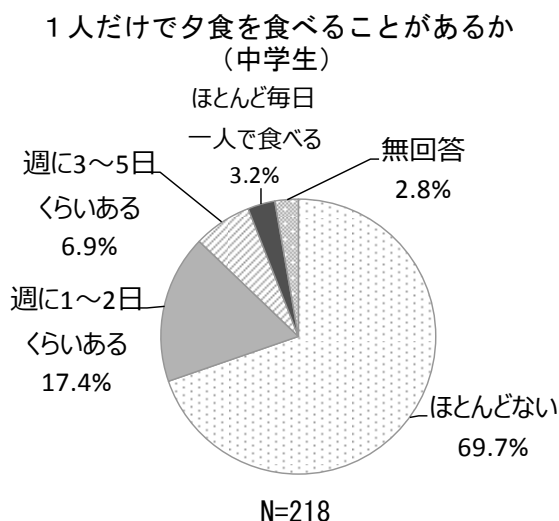
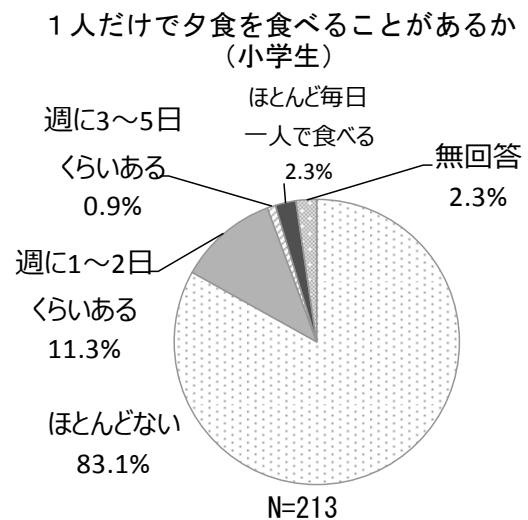
朝食を食べているか（高校生）



1人だけで夕食を食べることがあるかについて、小学生では、「ほとんどない」の割合が83.1%と最も高く、次いで「週に1～2日くらいある」の割合が11.3%、「ほとんど毎日一人で食べる」の割合が2.3%となっています。

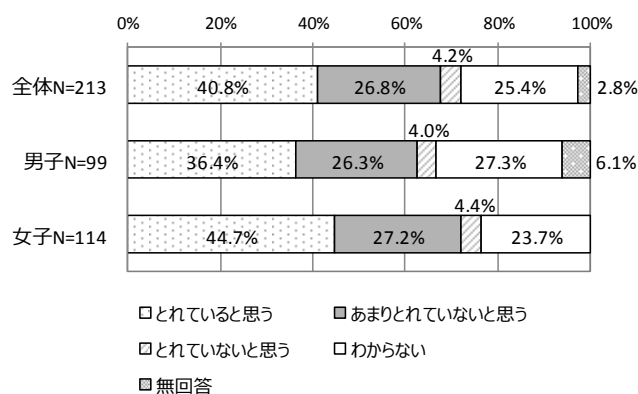
中学生では、「ほとんどない」の割合が69.7%と最も高く、次いで「週に1～2日くらいある」の割合が17.4%、「週に3～5日くらいある」の割合が6.9%となっています。

高校生では、「はい（家族と一緒に夕食を食べる）」の割合が75.5%、「いいえ（家族と一緒に夕食を食べない）」の割合が24.5%となっています。



いつも規則正しいバランスのよい食事をとっていると思うかについて、小学生では、「とれていると思う」の割合が40.8%と最も高く、次いで「あまりとれていない」の割合が26.8%となっています。

いつも規則正しいバランスのよい食事をとっていると思うか（小学生）



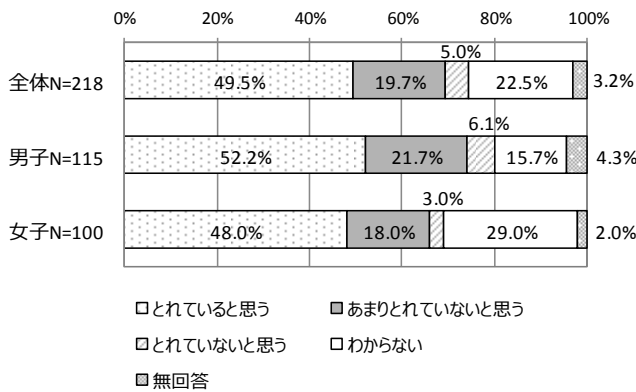
中学生では、「と...」...で「あまりとれて

いない」の割合が19.7%となっています。

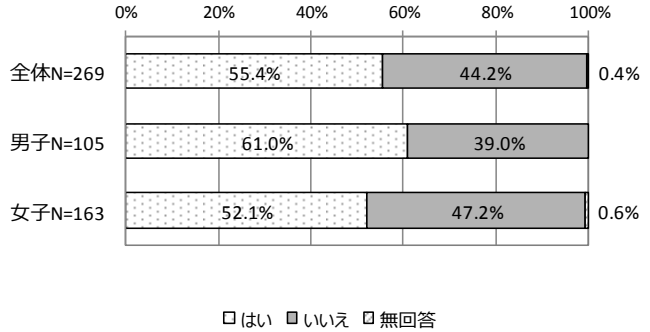
高校生では、「はい（とれていると思う）」の割合が55.4%、「いいえ（とれていると思わない）」の割合が44.2%となっています。

男女別でみると、小学生では、女子の方が「とれていると思う」の割合が高くなっているのに対し、中学生と高校生では、男子の方が「とれていると思う」の割合が高くなっています。

いつも規則正しいバランスのよい食事をとっていると思うか（中学生）



いつも規則正しいバランスのよい食事をとっていると思うか（高校生）



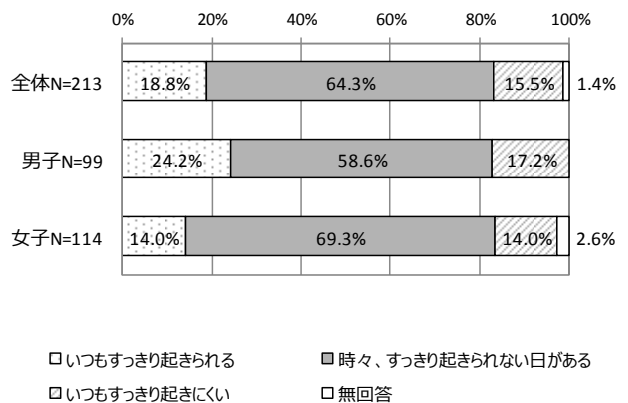
④ 睡眠

朝、すっきり起きられるかについて、小学生では、「時々、すっきり起きられない」の割合が64.3%と最も多く、次いで「いつもすっきり起きられる」の割合が18.8%となっています。

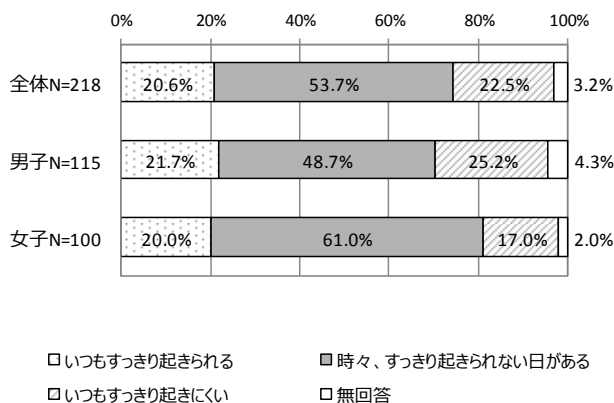
中学生では、「時々、すっきり起きられない」の割合が53.7%と最も多く、次いで「いつもすっきり起きられない」の割合が22.5%となっています。

高校生では、「はい（起きられる）」の割合が39.8%、「いいえ（起きられない）」の割合が59.1%となっています。

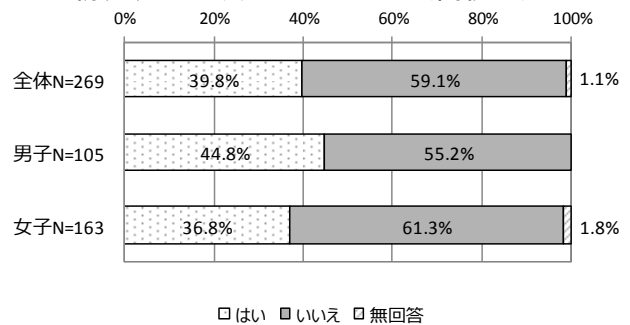
朝、すっきり起きられるか（小学生）



朝、すっきり起きられるか（中学生）



朝、すっきり起きられるか（高校生）



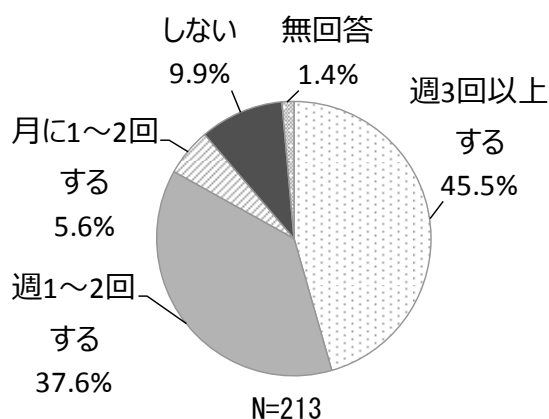
⑤ 運動

体育の授業以外に体を使う遊びや運動の状況は、小学生では、「週3回以上する」の割合が45.5%と最も高く、次いで「週1～2回する」の割合が37.6%、「月に1～2回する」の割合が5.6%となっています。一方、「しない」の割合は9.9%となっています。

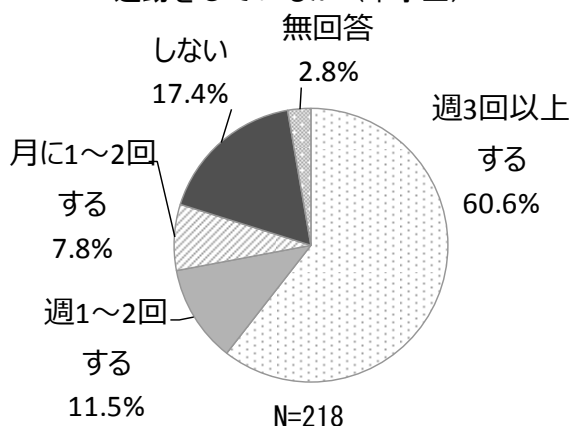
中学生では、「週3回以上する」の割合が60.6%と最も高く、次いで「週1～2回する」の割合が11.5%、「月に1～2回する」の割合が7.8%となっています。一方、「しない」の割合は17.4%となっています。

高校生では、「はい（している）」の割合が38.3%、「いいえ（していない）」の割合が61.7%となっています。

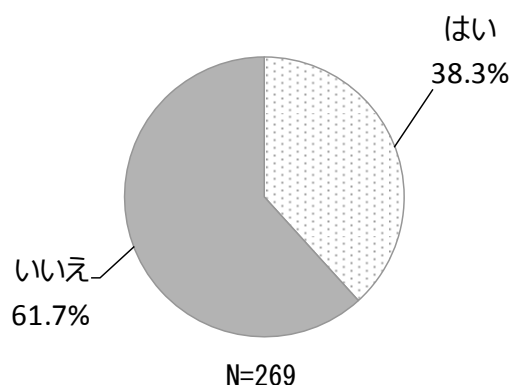
体育の授業以外に体を使う遊びや運動をしているか（小学生）



体育の授業以外に体を使う遊びや運動をしているか（中学生）



週3回以上、体育の時間以外に体を使う遊びや運動をしているか（高校生）



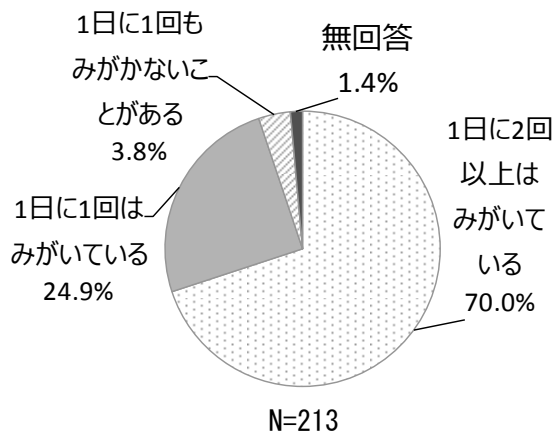
⑥ 歯

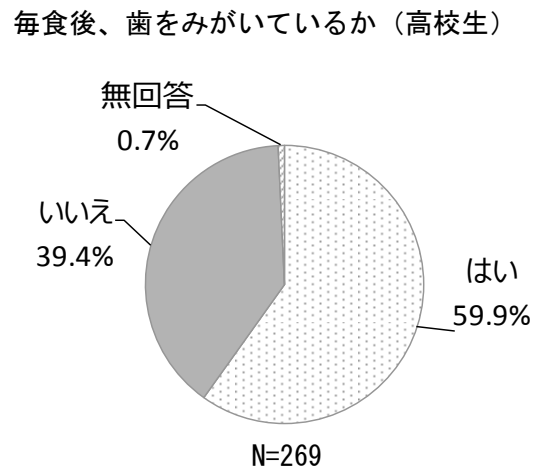
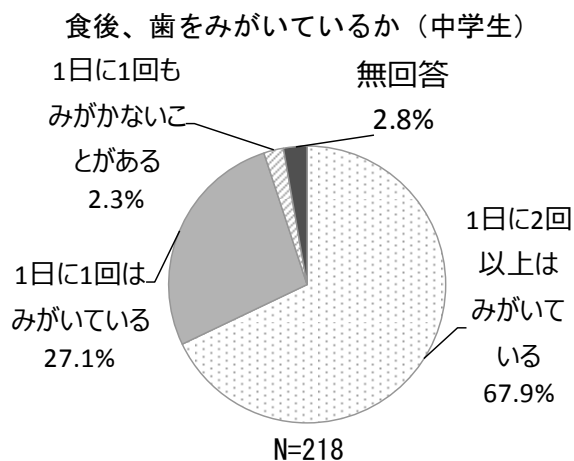
食後の歯磨きの状況については、小学生では、「1日に2回以上はみがいている」の割合が70.0%と最も高く、次いで、「1日に1回はみがいている」の割合が24.9%、「1日に1回もみがかないことがある」の割合が3.8%となっています。

中学生では、「1日に2回以上はみがいている」の割合が67.9%と最も高く、次いで、「1日に1回はみがいている」の割合が27.1%、「1日に1回もみがかないことがある」の割合が2.3%となっています。

高校生では、「はい（毎食後、歯をみがいている）」の割合が59.9%、「いいえ（毎食後、歯をみがいていない）」の割合が39.4%となっています。

食後、歯をみがいているか（小学生）





⑦ 喫煙

たばこを吸うと健康を害することの認知状況は、小学生では、「はい（知っている）」の割合が92.5%、「いいえ（知らない）」の割合が3.3%となっています。

中学生では、「はい（知っている）」の割合が93.1%、「いいえ（知らない）」の割合が3.2%となっています。

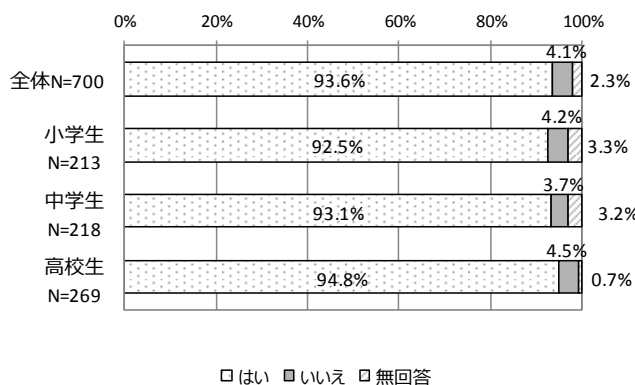
高校生では、「はい（知っている）」の割合が94.8%、「いいえ（知らない）」の割合が0.7%となっています。

未成年の喫煙が法律で禁止されていることの認知状況は、小学生では、「はい（知っている）」の割合が91.5%、「いいえ（知らない）」の割合が5.6%となっています。

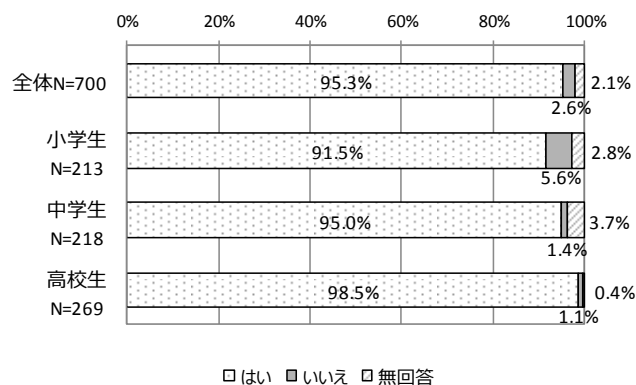
中学生では、「はい（知っている）」の割合が95.0%、「いいえ（知らない）」の割合が1.4%となっています。

高校生では、「はい（知っている）」の割合が98.5%、「いいえ（知らない）」の割合が0.4%となっています。

たばこを吸うと健康を害することを知っているか



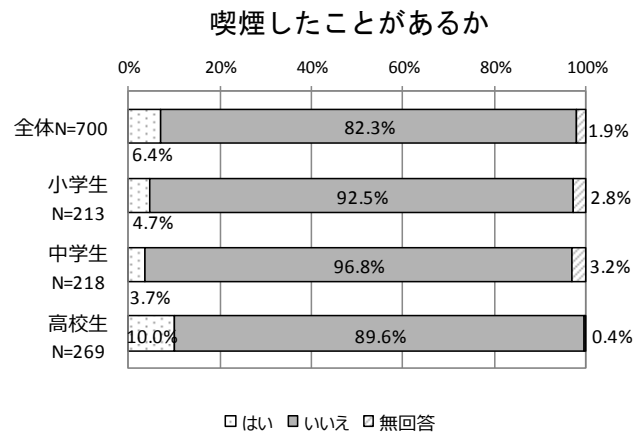
未成年の喫煙が法律で禁止されていることの認知状況



喫煙したことがあるかについては、小学生では、「はい（ある）」の割合が 4.7%、「いいえ（ない）」の割合が 92.5%となっています。

中学生では、「はい（ある）」の割合が 3.7%、「いいえ（ない）」の割合が 96.8%となっています。

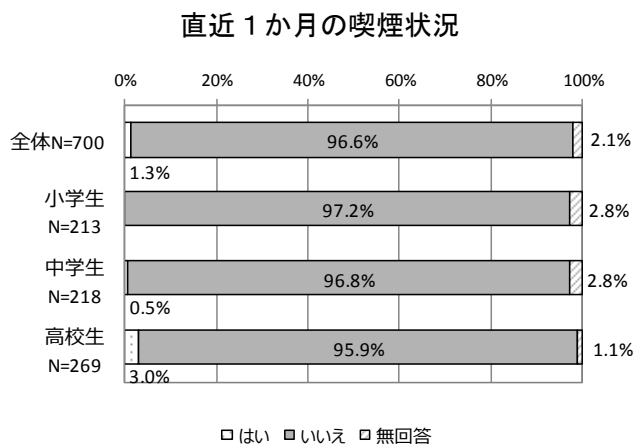
高校生では、「はい（ある）」の割合が 10.0%、「いいえ（ない）」の割合が 89.6%となっています。



直近 1 か月の喫煙については、小学生では、「はい（ある）」の割合が 0.0%、「いいえ（ない）」の割合が 97.2%となっています。

中学生では、「はい（ある）」の割合が 0.5%、「いいえ（ない）」の割合が 96.8%となっています。

高校生では、「はい（ある）」の割合が 3.0%、「いいえ（ない）」の割合が 95.9%となっています。

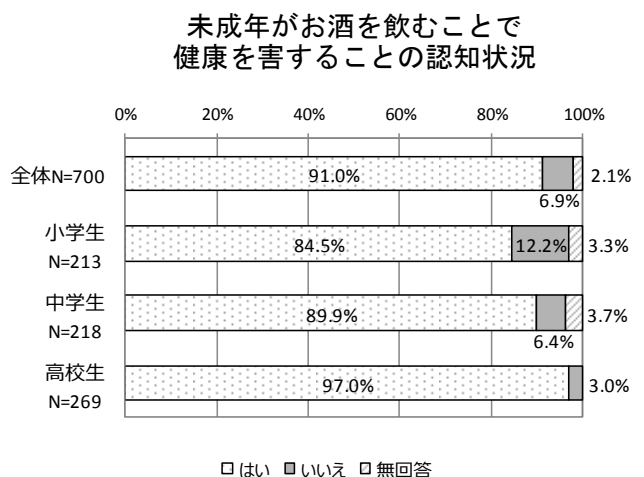


⑧ 飲酒

未成年がお酒を飲むことで健康を害することの認知状況は、小学生では、「はい（知っている）」の割合が 84.5%、「いいえ（知らない）」の割合が 12.2%となっています。

中学生では、「はい（知っている）」の割合が 89.9%、「いいえ（知らない）」の割合が 6.4%となっています。

高校生では、「はい（知っている）」の割合が 97.0%、「いいえ（知らない）」の割合が 3.0%となっています。

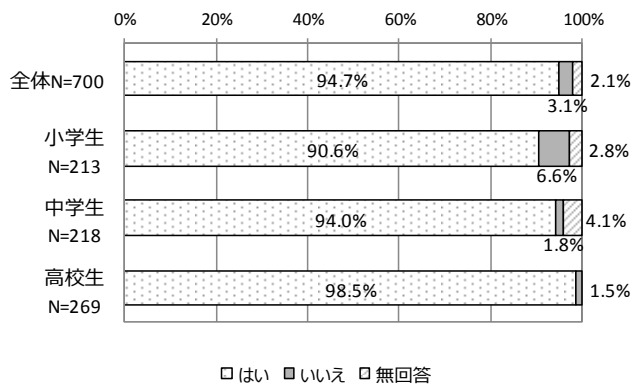


未成年の飲酒が法律で禁止されていることの認知状況は、小学生では、「はい（知っている）」の割合が 90.6%、「いいえ（知らない）」の割合が 6.6%となっています。

中学生では、「はい（知っている）」の割合が 94.0%、「いいえ（知らない）」の割合が 1.8%となっています。

高校生では、「はい（知っている）」の割合が 98.5%、「いいえ（知らない）」の割合が 1.5%となっています。

未成年の飲酒が法律で禁止されていることの認知状況

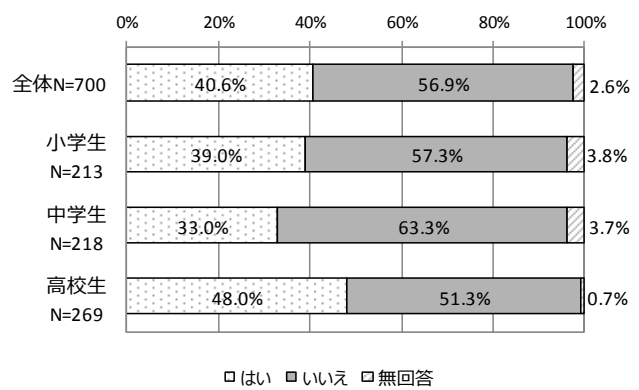


飲酒したことがあるかについては、小学生では、「はい（ある）」の割合が 39.0%、「いいえ（ない）」の割合が 57.3%となっています。

中学生では、「はい（ある）」の割合が 33.0%、「いいえ（ない）」の割合が 63.3%となっています。

高校生では、「はい（ある）」の割合が 48.0%、「いいえ（ない）」の割合が 51.3%となっています。

飲酒したことがあるか

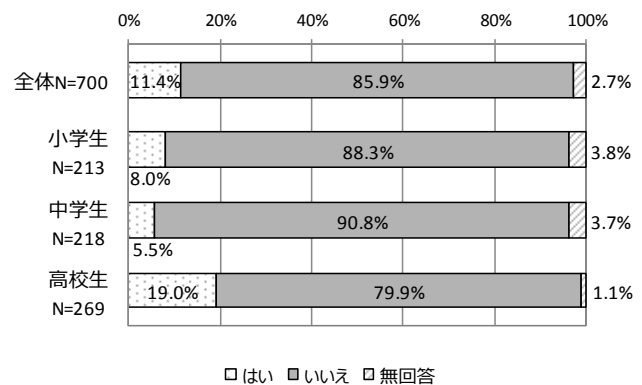


直近 1 か月の飲酒については、小学生では、「はい（ある）」の割合が 8.0%、「いいえ（ない）」の割合が 88.3%となっています。

中学生では、「はい（ある）」の割合が 5.5%、「いいえ（ない）」の割合が 90.8%となっています。

高校生では、「はい（ある）」の割合が 19.0%、「いいえ（ない）」の割合が 79.9%となっています。

直近 1 か月の飲酒状況



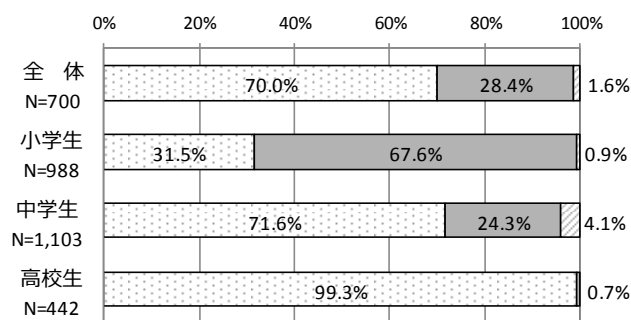
⑨ 性感染症など

エイズや性感染症などの病気の認知状況は、小学生では、「はい（知っている）」の割合が 31.5%、「いいえ（知らない）」の割合が 67.6%となっています。

中学生では、「はい（知っている）」の割合が 71.6%、「いいえ（知らない）」の割合が 24.3%となっています。

高校生では、「はい（知っている）」の割合が 99.3%、「いいえ（知らない）」の割合が 0.7%となっています。

エイズや性感染症などの病気の認知状況



□ はい □ いいえ □ 無回答

⑩ 日常生活

何でも話せ、楽しく遊べる友達がいるかについては、小学生では「はい（いる）」の割合が 89.2%、「いいえ（いない）」の割合が 9.4%となっています。

中学生では、「はい（いる）」の割合が 93.1%、「いいえ（いない）」の割合が 5.5%となっています。

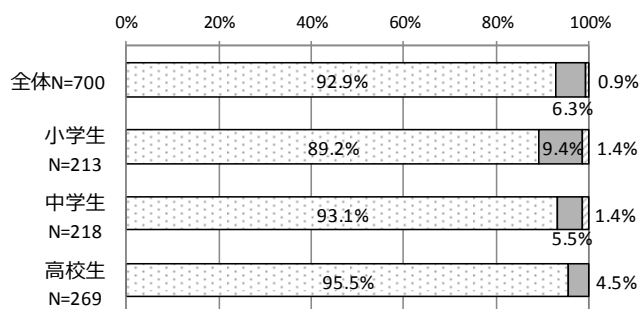
高校生では、「はい（いる）」の割合が 95.5%、「いいえ（いない）」の割合が 4.5%となっています。

将来の夢や希望があるかについては、小学生では「はい（ある）」の割合が 77.5%、「いいえ（ない）」の割合が 21.6%となっています。

中学生では、「はい（ある）」の割合が 62.8%、「いいえ（ない）」の割合が 35.8%となっています。

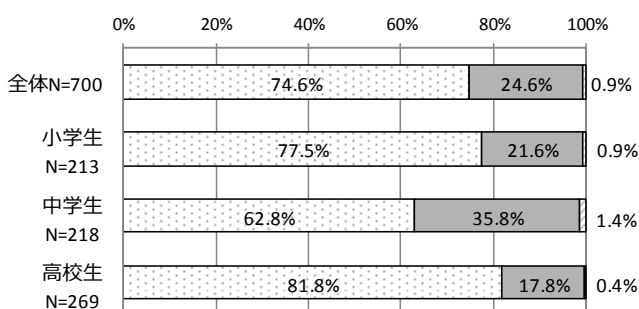
高校生では、「はい（ある）」の割合が 81.8%、「いいえ（ない）」の割合が 17.8%となっています。

何でも話せ、楽しく遊べる友達がいるか



□ はい □ いいえ □ 無回答

将来の夢や希望があるか



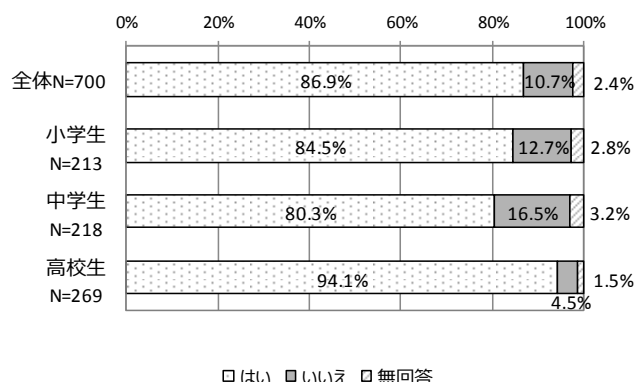
□ はい □ いいえ □ 無回答

困っている人を助けることができるかについては、小学生では「はい（できる）」の割合が 84.5%、「いいえ（できない）」の割合が 12.7%となっています。

中学生では、「はい（できる）」の割合が 80.3%、「いいえ（できない）」の割合が 16.5%となっています。

高校生では、「はい（できる）」の割合が 94.1%、「いいえ（できない）」の割合が 4.5%となっています。

困っている人を助けることができるか

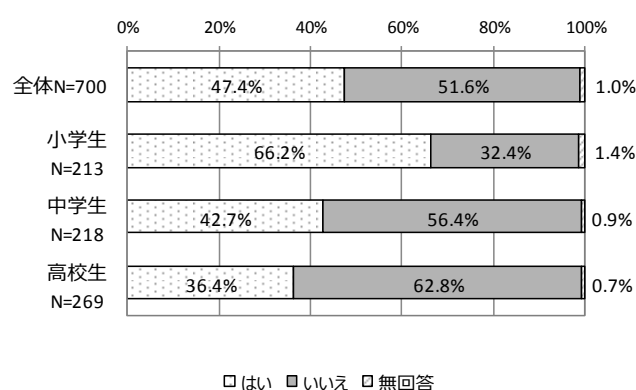


町会などの地域の行事に参加しているかについては、小学生では「はい（参加している）」の割合が 66.2%、「いいえ（参加していない）」の割合が 32.4%となっています。

中学生では、「はい（参加している）」の割合が 42.7%、「いいえ（参加していない）」の割合が 56.4%となっています。

高校生では、「はい（参加している）」の割合が 36.4%、「いいえ（参加していない）」の割合が 62.8%となっています。

町会などの地域の行事に参加しているか

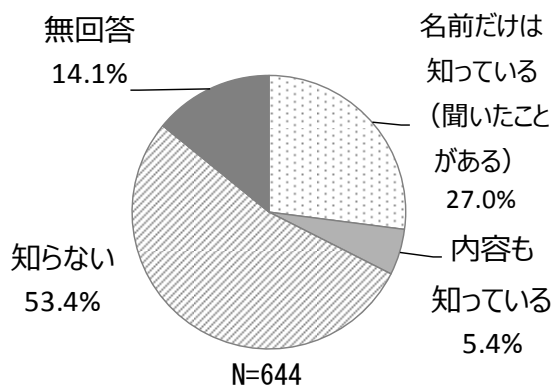


（３）青年期（おおむね 19～39 歳）

① 岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度

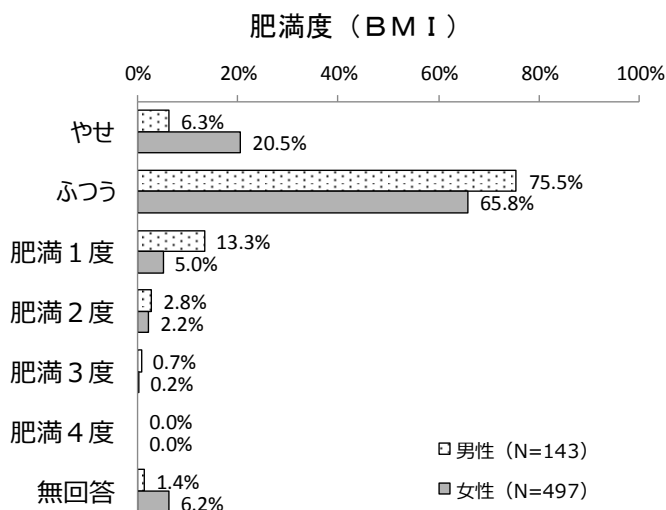
岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度は、「名前だけは知っている（聞いたことがある）」の割合が 27.0%、「内容も知っている」の割合が 5.4%、「知らない」の割合が 53.4%となっています。

岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度



② 健康管理

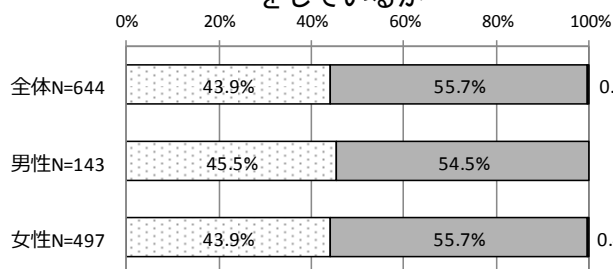
肥満度（BMI）は、男女ともに「ふつう」の割合が高く、男性で75.5%、女性で65.8%となっています。また、男性で「肥満1度」の割合が、女性で「やせ」の割合が高くなっています。



体重のコントロール（適正体重の維持）をしているかについては、「はい（している）」の割合が43.9%、「いいえ（していない）」の割合が55.7%となっています。

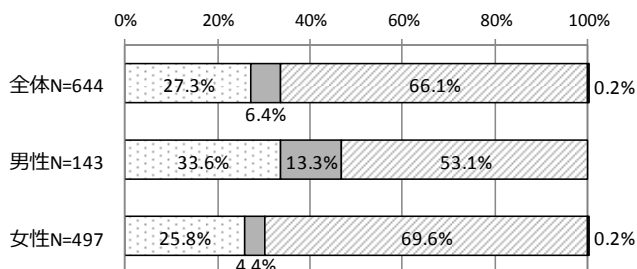
自分の体重については、「減らしたい」の割合が66.1%と最も高く、次いで「ちょうどよい」の割合が27.3%、「増やしたい」の割合が6.4%となっています。

体重のコントロール（適正体重の維持）
をしているか



□ はい □ いいえ □ 無回答

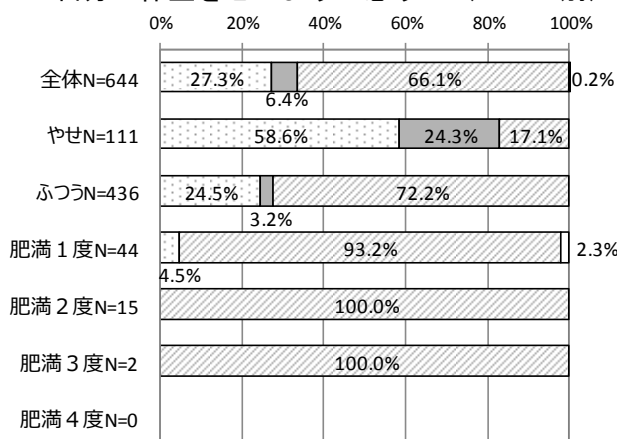
自分の体重をどのように思うか



□ ちょうどよい □ 増やしたい □ 減らしたい □ 無回答

BMI 別では、やせの人のうち約8割が「ちょうどよい」「減らしたい」と回答しています。

自分の体重をどのように思うか（BMI 別）



□ ちょうどよい □ 増やしたい □ 減らしたい □ 無回答

※BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)

※やせ: BMI18.5 未満

ふつう: BMI18.5 以上 25.0 未満

肥満1度: BMI25.0 以上 30.0 未満

肥満2度: BMI30.0 以上 35.0 未満

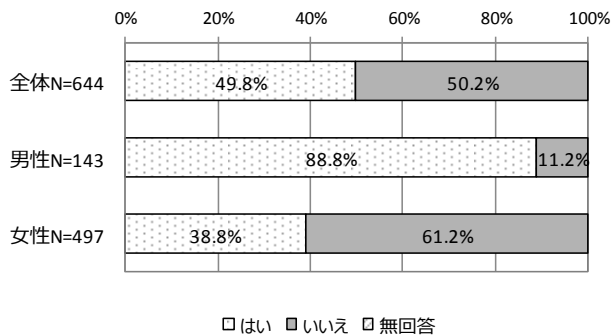
肥満3度: BMI35.0 以上 40.0 未満

肥満4度: BMI40.0 以上

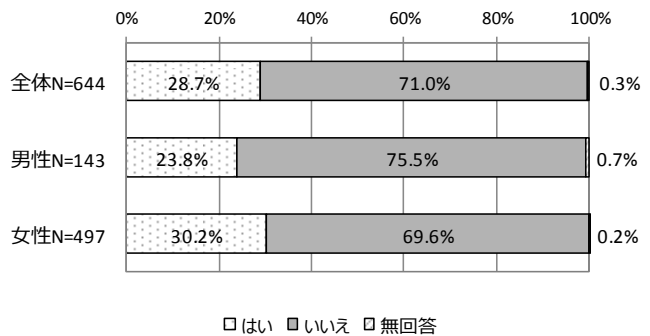
定期的に健康診断（血圧・検尿・血液検査）を毎年受けているかについては、「はい（受けている）」の割合が 49.8%、「いいえ（受けていない）」の割合が 50.2%となっています。

定期的に歯科健診を受けているかについては、「はい（受けている）」の割合が 28.7%、「いいえ（受けていない）」の割合が 71.0%となっています。

定期的に健康診断（血圧・検尿・血液検査）を毎年受けているか



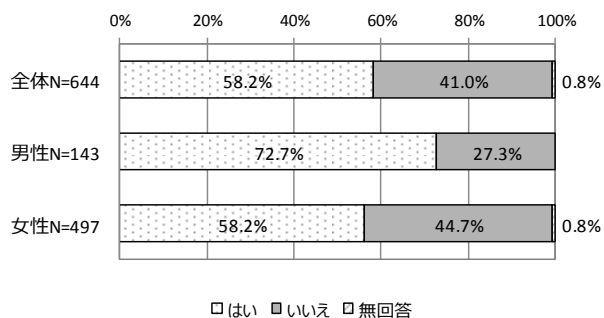
定期的に歯科健診を受けているか



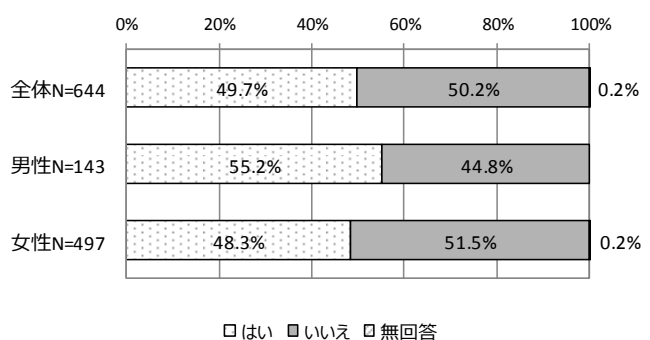
健康について気をつけていることの有無については、「はい（ある）」の割合が 58.2%、「いいえ（ない）」の割合が 41.0%となっています。

適切な飲酒の量の認知状況については、「はい（知っている）」の割合が 49.7%、「いいえ（知らない）」の割合が 50.2%となっています。

健康について気をつけていることの有無

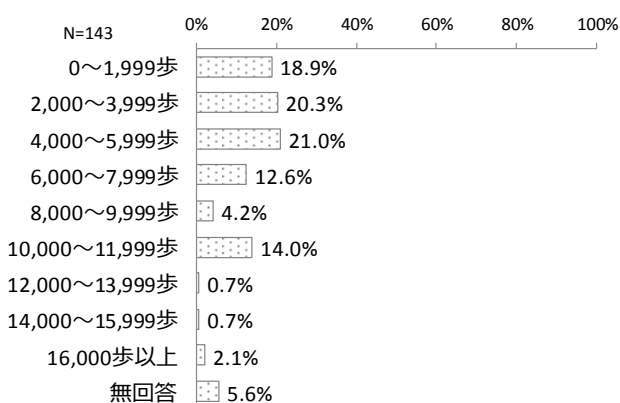


適切な飲酒の量の認知状況

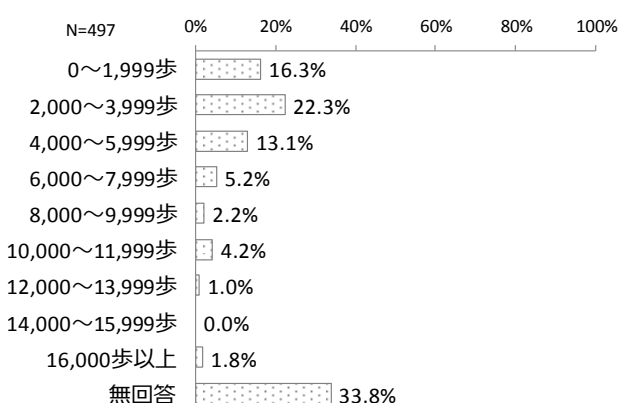


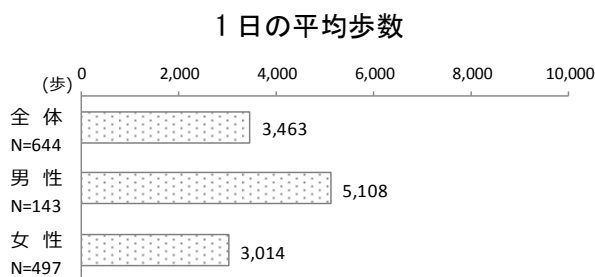
1日の平均歩数は、男性が「5,108歩」、女性が「3,014歩」となっています。

1日に歩いている歩数（男性）

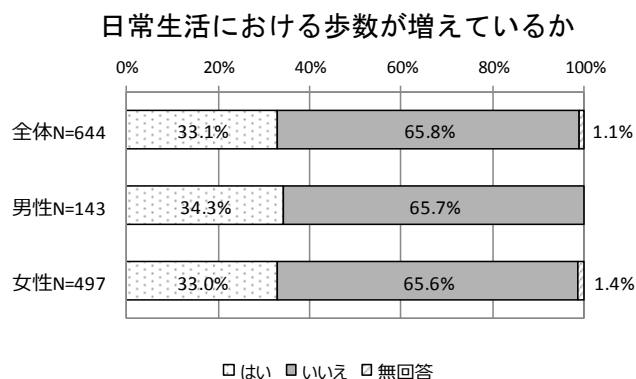


1日に歩いている歩数（女性）



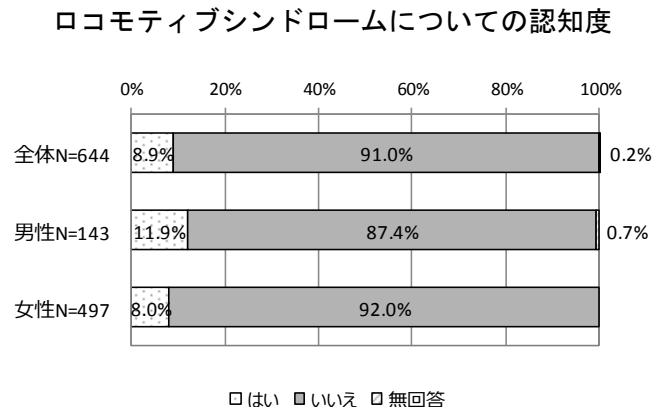
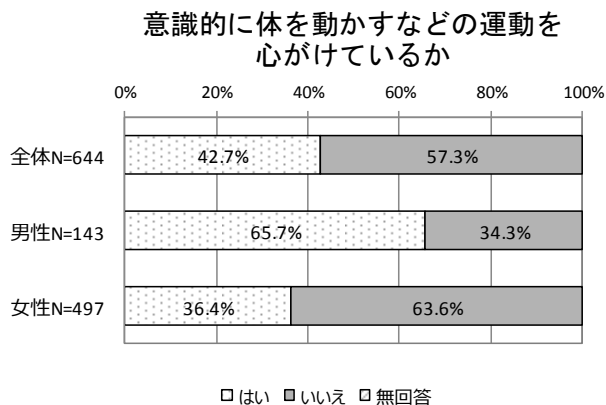


日常生活における歩数が増えているかについては、「はい（増えている）」の割合が33.1%、「いいえ（増えていない）」の割合が65.8%となっています。



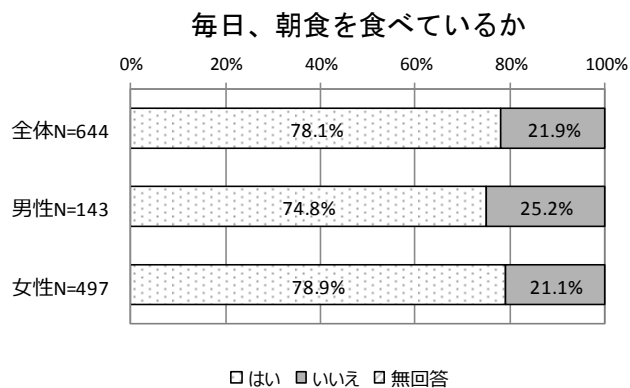
意識的に体を動かすなどの運動を心がけているかについては、「はい（心がけている）」の割合が42.7%、「いいえ（心がけていない）」の割合が57.3%となっています。

ロコモティブシンドロームについての認知度は、「はい（知っている）」の割合が8.9%、「いいえ（知らない）」の割合が91.0%となっています。



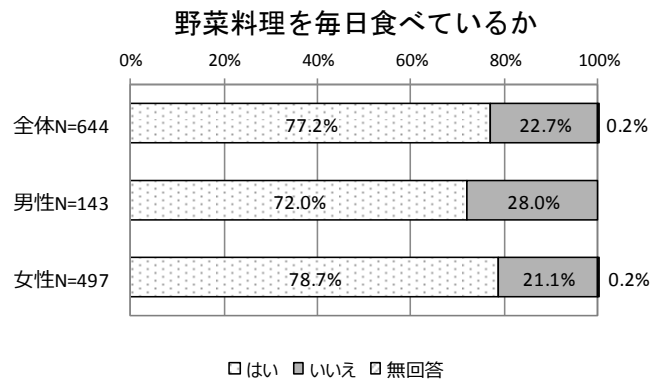
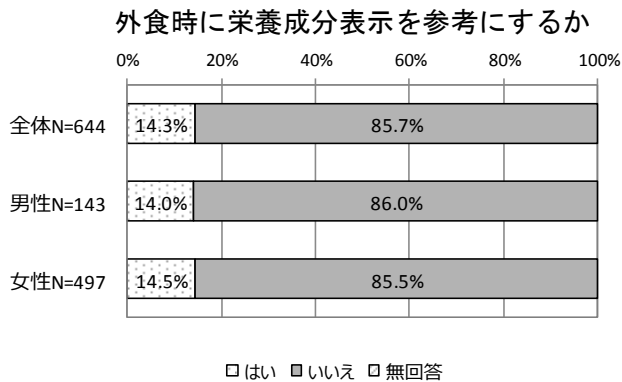
③ 食生活

毎日、朝食を食べているかについては、「はい（食べている）」の割合が78.1%、「いいえ（食べていない）」の割合が21.9%となっています。

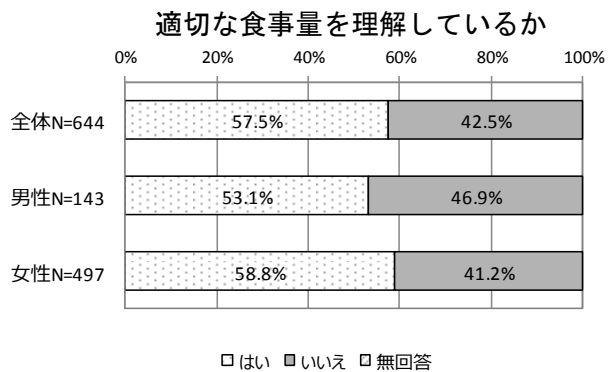


外食時に栄養成分表示を参考にするかについては、「はい（する）」の割合が 14.3%、「いいえ（しない）」の割合が 85.7%となっています。

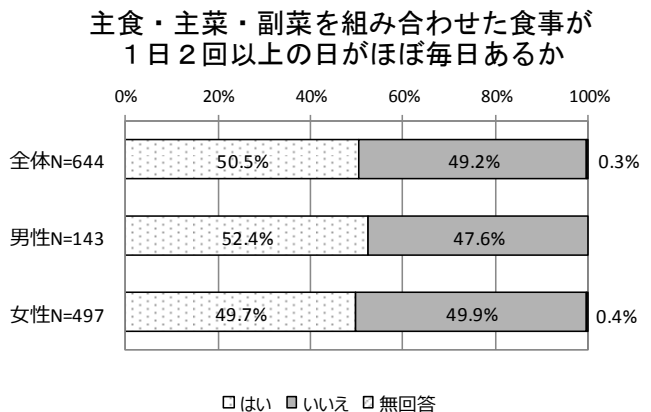
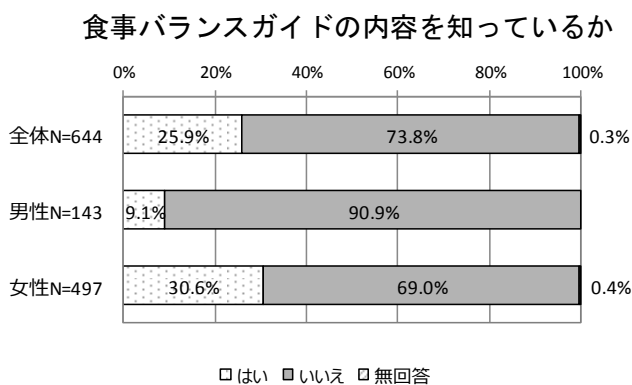
野菜料理を毎日食べているかについては、「はい（食べている）」の割合が 77.2%、「いいえ（食べていない）」の割合が 22.7%となっています。



適切な食事量を理解しているかについては、「はい（理解している）」の割合が 57.5%、「いいえ（理解していない）」の割合が 42.5%となっています。



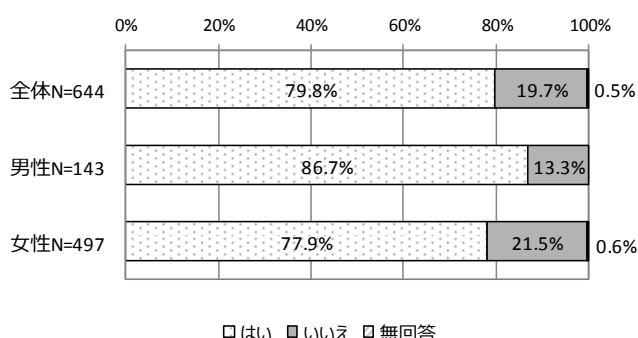
食事バランスガイドの内容を知っているかについては、「はい（知っている）」の割合が 25.9%、「いいえ（知らない）」の割合が 73.8%となっています。主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日あるかについては、「はい（ある）」の割合が 50.5%、「いいえ（ない）」の割合が 49.2%となっています。



④ ストレス

最近1か月でストレスを感じたことがあるかについては、「はい（ある）」の割合が79.8%、「いいえ（ない）」の割合が19.7%となっています。

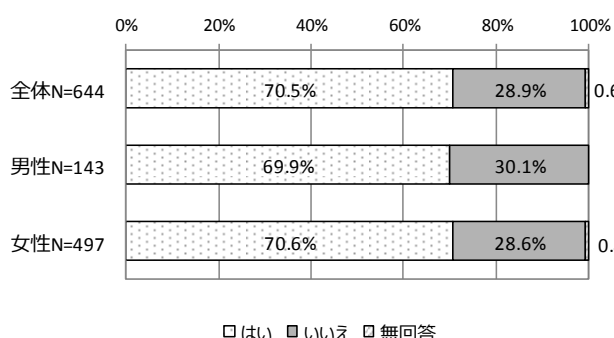
最近1か月でストレスを感じたことがあるか



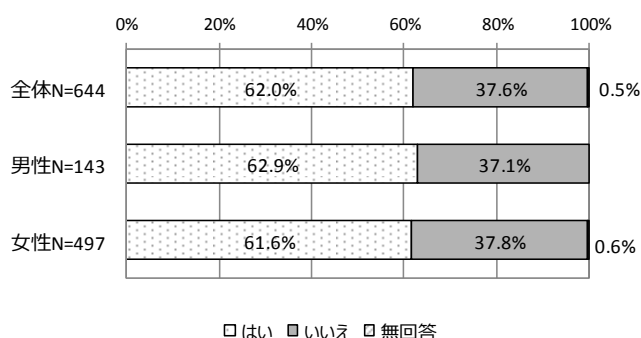
ストレスを発散できているかについては、「はい（できている）」の割合が70.5%、「いいえ（できていない）」の割合が28.9%となっています。

睡眠によって休養が十分に取れているかについては、「はい（取れている）」の割合が62.0%、「いいえ（取れていない）」の割合が37.6%となっています。

ストレスを発散できているか



睡眠によって休養が十分に取れているか

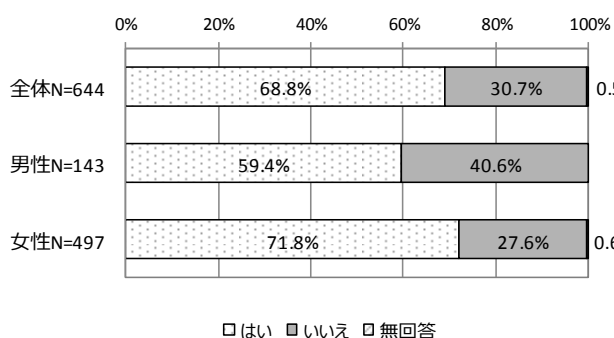


⑤ 家族のコミュニケーション

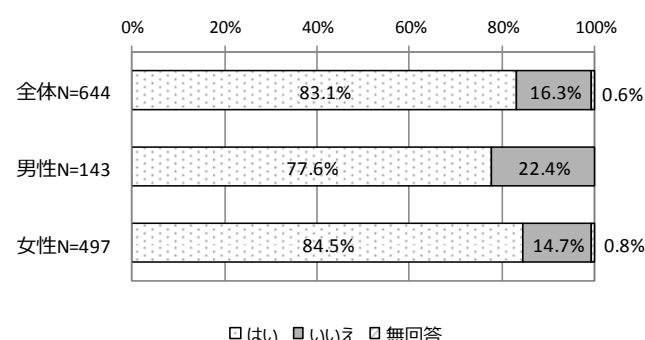
1日に最低1食、家族で30分以上かけて楽しく食事をしているかについては、「はい（している）」の割合が68.8%、「いいえ（していない）」の割合が30.7%となっています。

家族がそれぞれ家事・育児など協力しているかについては、「はい（している）」の割合が83.1%、「いいえ（していない）」の割合が16.3%となっています。

1日に最低1食、家族で30分以上かけて楽しく食事をしているか



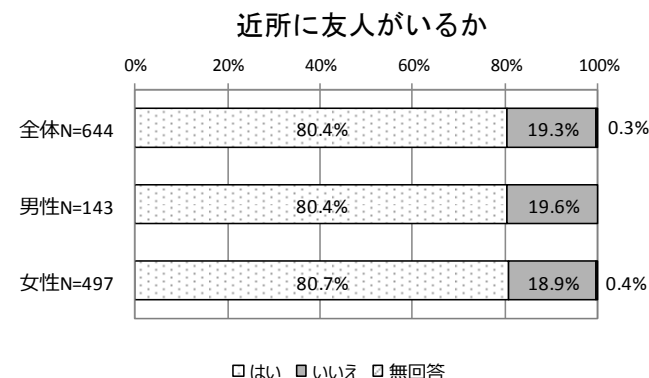
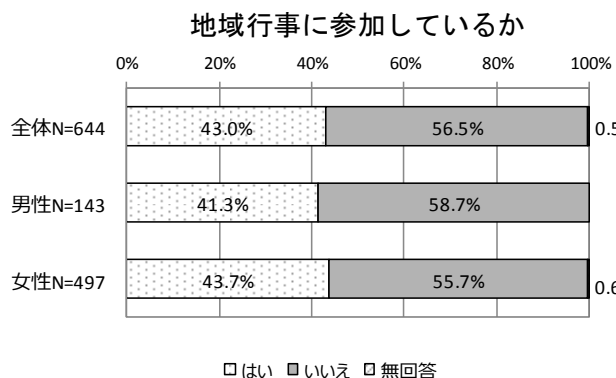
家族がそれぞれ家事・育児など協力しているか



⑥ 地域の人との交流

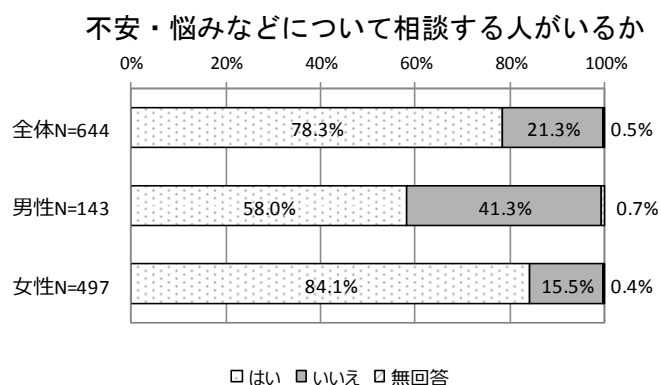
地域行事に参加しているかについては、「はい（している）」の割合が 43.0%、「いいえ（していない）」の割合が 56.5%となっています。

近所に友人がいるかについては、「はい（いる）」の割合が 80.4%、「いいえ（いない）」の割合が 19.3%となっています。



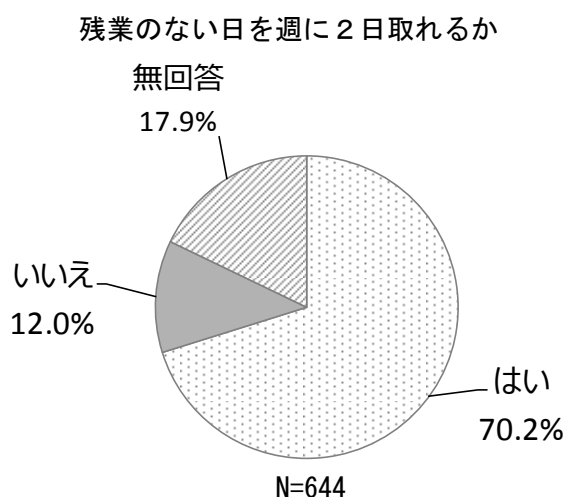
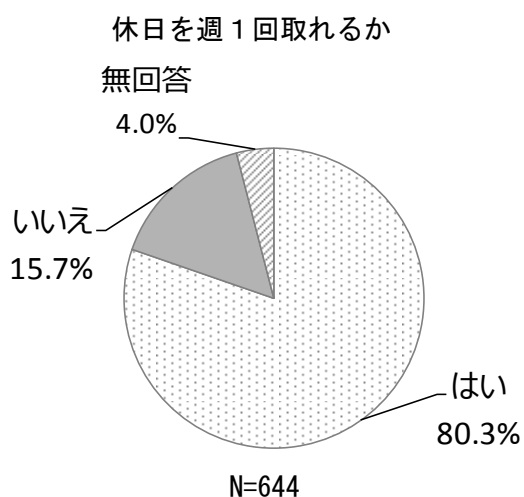
⑦ 安心して働くこと

不安・悩みなどについて相談する人がいるかについては、「はい（いる）」の割合が 78.3%、「いいえ（いない）」の割合が 21.3%となっています。



休日を週1回取れるかについては、「はい（取れる）」の割合が 80.3%、「いいえ（取れない）」の割合が 15.7%となっています。

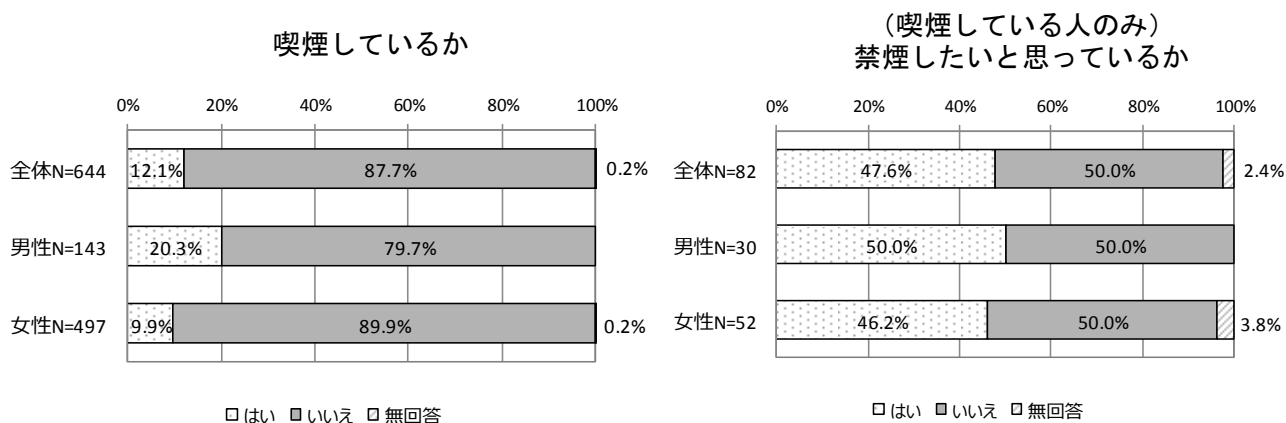
残業のない日を週に2日取れるかについては、「はい（取れる）」の割合が 70.2%、「いいえ（取れない）」の割合が 12.0%となっています。



⑧ 喫煙

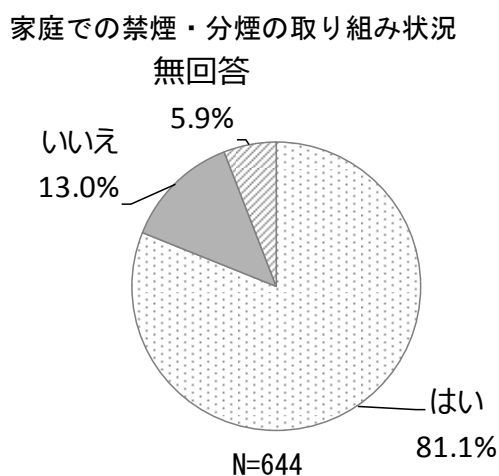
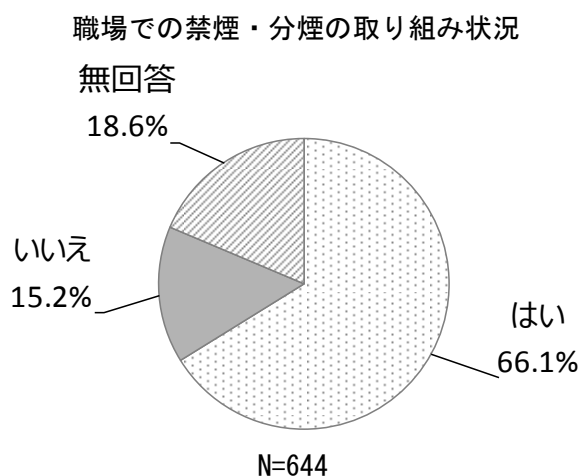
喫煙しているかについては、「はい（している）」の割合が 12.1%、「いいえ（していない）」の割合が 87.7%となっています。

喫煙している人のうち、禁煙したいと思っているかについては、「はい（思っている）」の割合が 47.6%、「いいえ（思っていない）」の割合が 50.0%となっています。

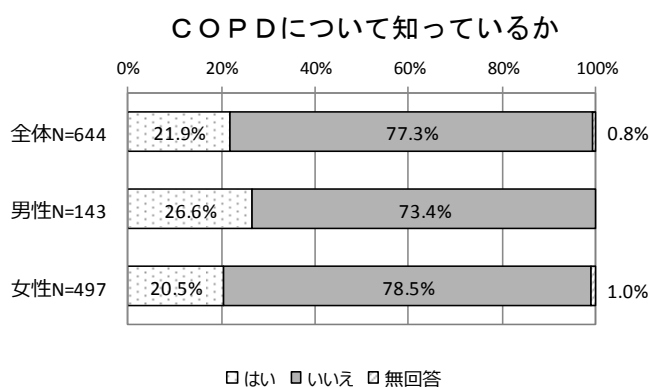


職場での禁煙・分煙の取り組み状況については、「はい（取り組んでいる）」の割合が 66.1%、「いいえ（取り組んでいない）」の割合が 15.2%となっています。

家庭での禁煙・分煙の取り組み状況については、「はい（取り組んでいる）」の割合が 81.1%、「いいえ（取り組んでいない）」の割合が 13.0%となっています。



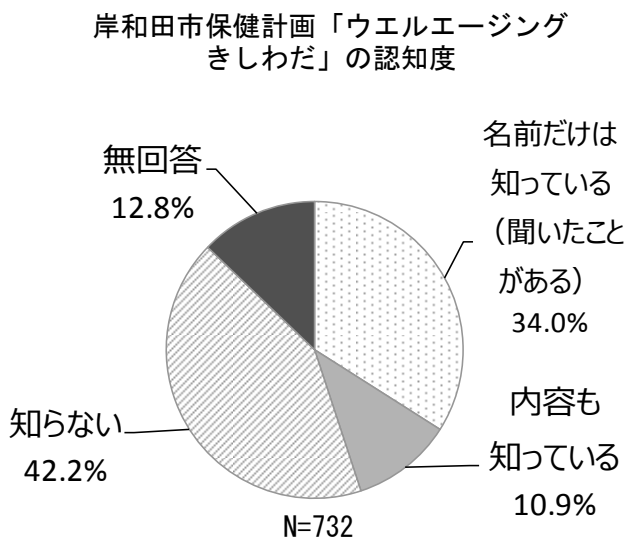
COPDについて知っているかについては、「はい（知っている）」の割合が 21.9%、「いいえ（知らない）」の割合が 77.3%となっています。



(4) 壮年期（おおむね 40～64 歳）

① 岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度

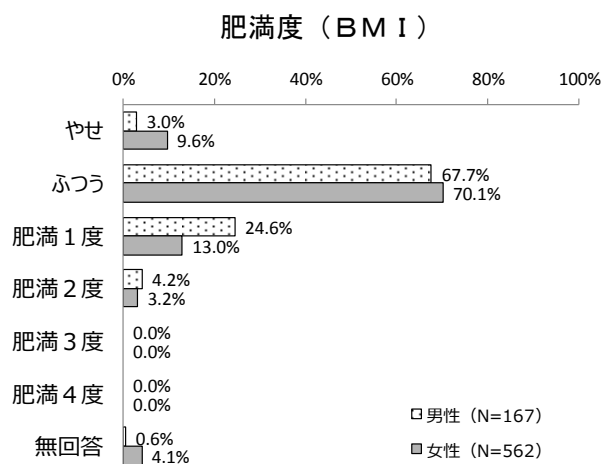
岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度については、「名前だけは知っている（聞いたことがある）」の割合が 34.0%、「内容も知っている」の割合が 10.9%、「知らない」の割合が 42.2% となっています。



② 健康管理

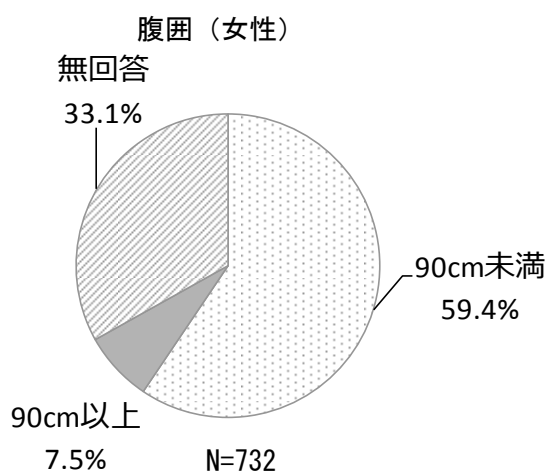
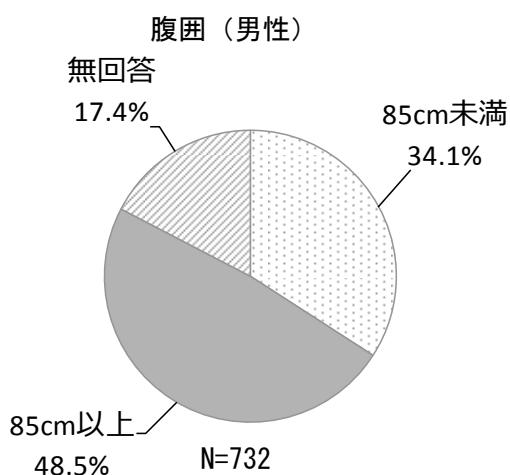
肥満度（BMI）は、男女ともに「ふつう」の割合が高く、男性では 67.7%、女性では 70.1% となっています。

また、男性に比べ女性で「やせ」の割合が、女性に比べ男性で「肥満 1 度」の割合が高くなっています。



男性の腹囲は、「85cm 未満」の割合が 34.1% 「85cm 以上」の割合が 48.5% となっています。

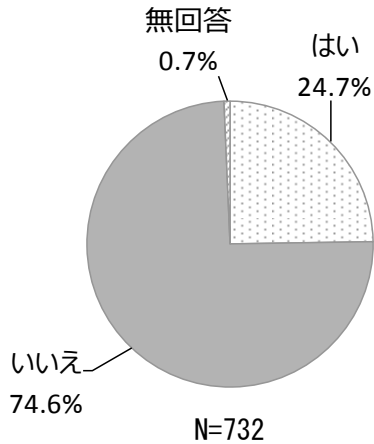
一方、女性の腹囲は「90cm 未満」の割合が 59.4%、「90cm 以上」の割合が 7.5% となっています。



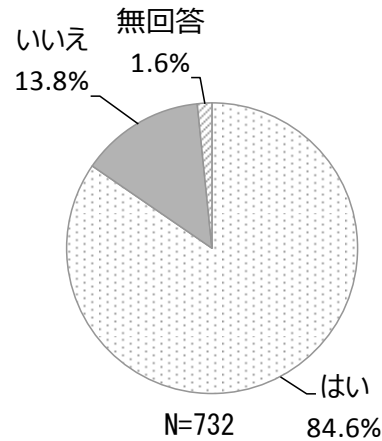
定期的に腹囲を測っているかについては、「はい（測っている）」の割合が 24.7%、「いいえ（測っていない）」の割合が 74.6%となっています。

メタボリックシンドロームの認知度については、「はい（知っている）」の割合が 84.6%、「いいえ（知らない）」の割合が 13.8%となっています。

定期的に腹囲を測っているか



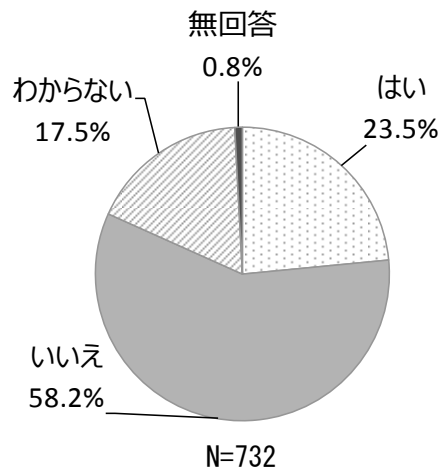
メタボリックシンドロームの認知度



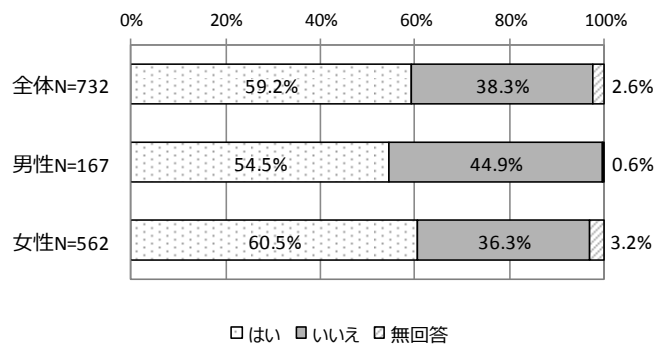
メタボリックシンドロームかどうか（予備群含む）については、「はい（該当する）」の割合が 23.5%、「いいえ（該当しない）」の割合が 58.2%となっています。

適正体重を維持しているかについては、「はい（維持している）」の割合が 59.2%、「いいえ（維持していない）」の割合が 38.3%となっています。

メタボリックシンドロームかどうか
（予備群含む）

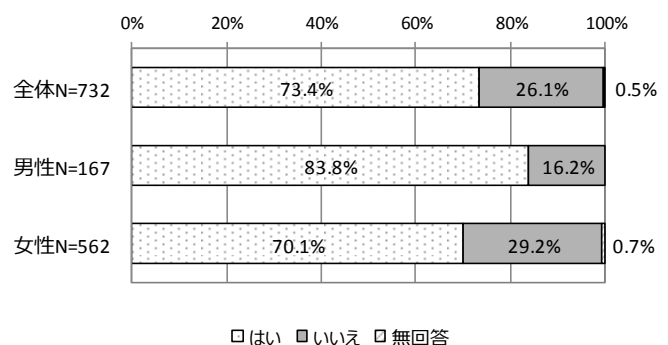


適正体重を維持しているか

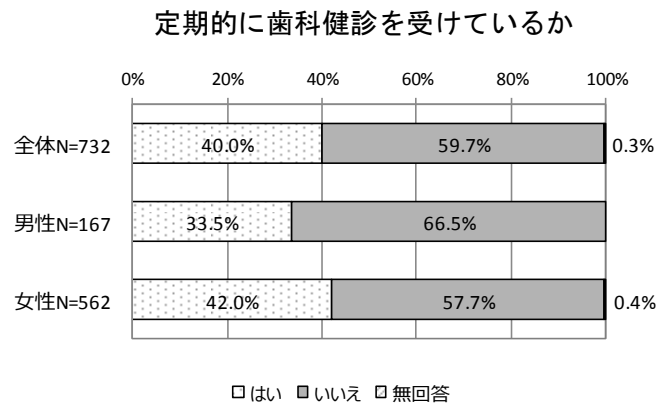


定期的に健康診断（血圧・検尿・血液検査）を毎年受けているかについては、「はい（受けている）」の割合が 73.4%、「いいえ（受けていない）」の割合が 26.1%となっています。

定期的に健康診断（血圧・検尿・血液検査）を毎年受けているか

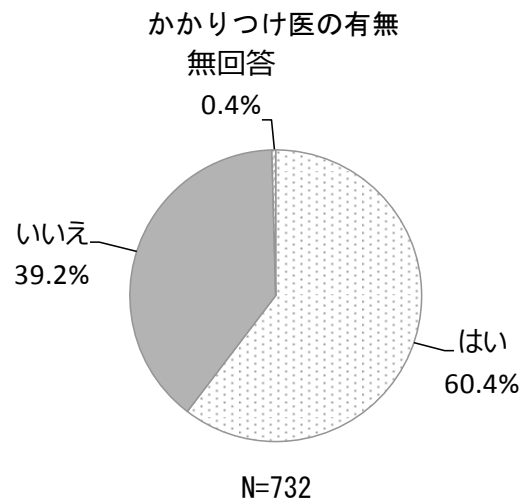
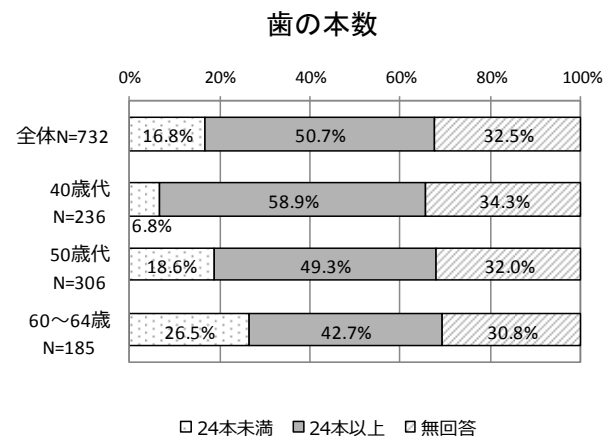


定期的に歯科健診を受けているかについては、「はい（受けている）」の割合が40.0%、「いいえ（受けていない）」の割合が59.7%となっています。

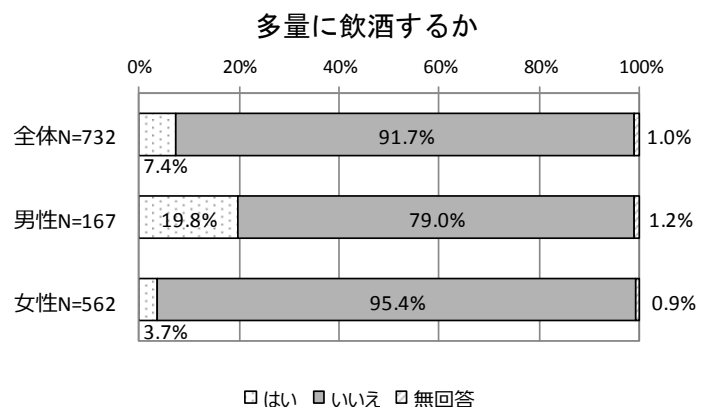


歯の本数については、「24本未満」の割合が16.8%、「24本以上」の割合が50.7%となっています。

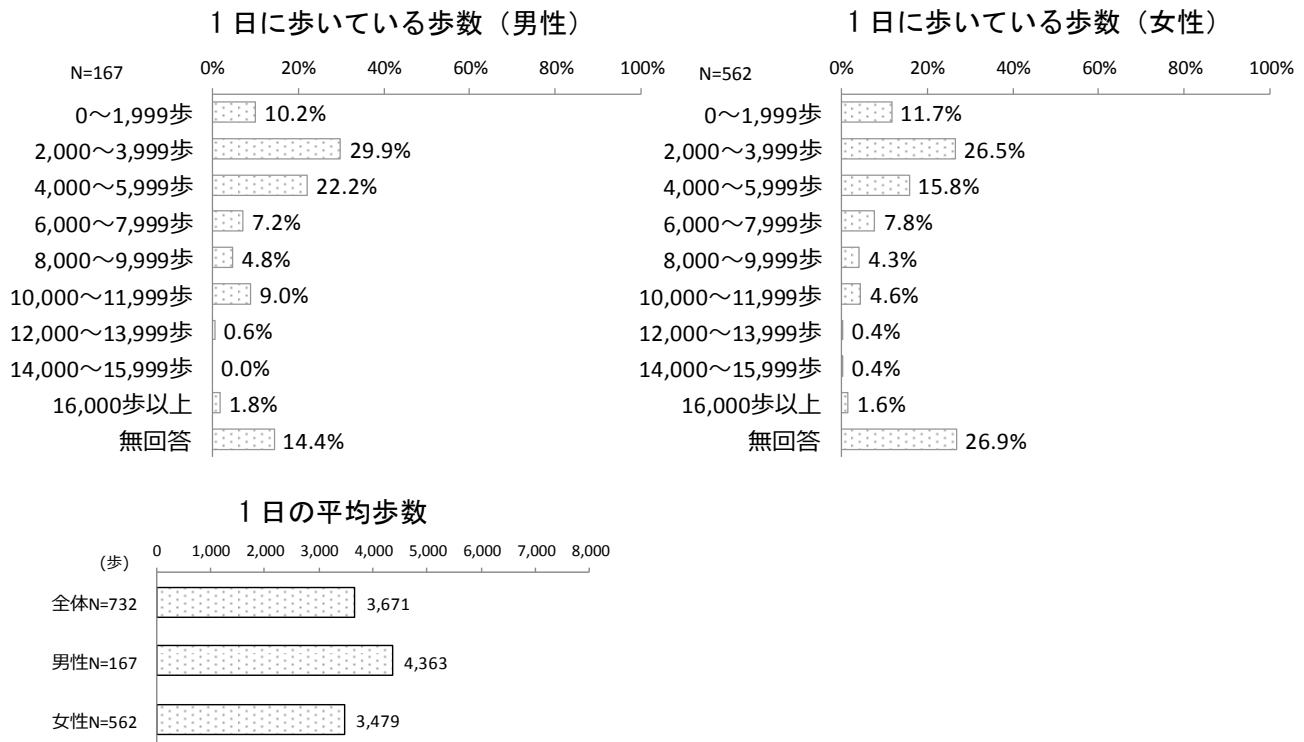
かかりつけ医の有無については、「はい（いる）」の割合が60.4%、「いいえ（いない）」の割合が39.2%となっています。



多量に飲酒するかについては、「はい（する）」の割合が7.4%、「いいえ（しない）」の割合が91.7%となっています。

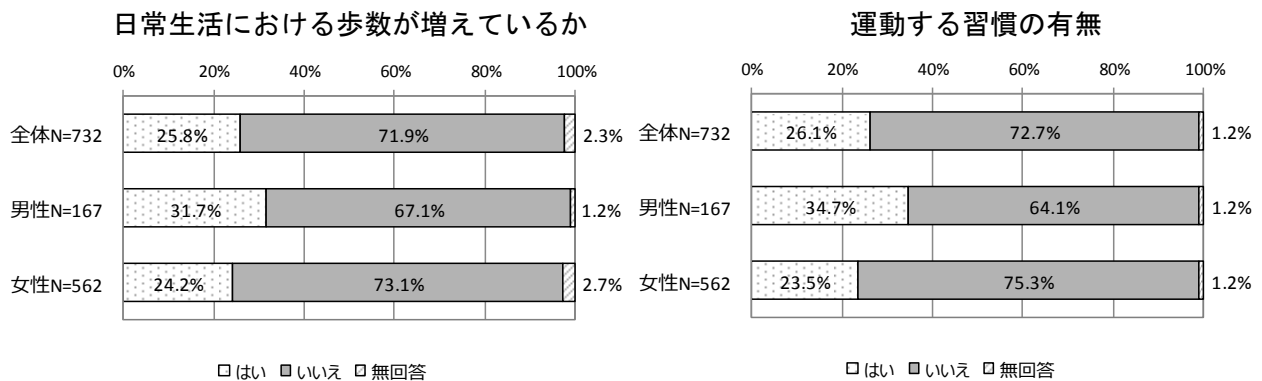


1日の平均歩数は、男性が「4,363歩」、女性が「3,479歩」となっています。

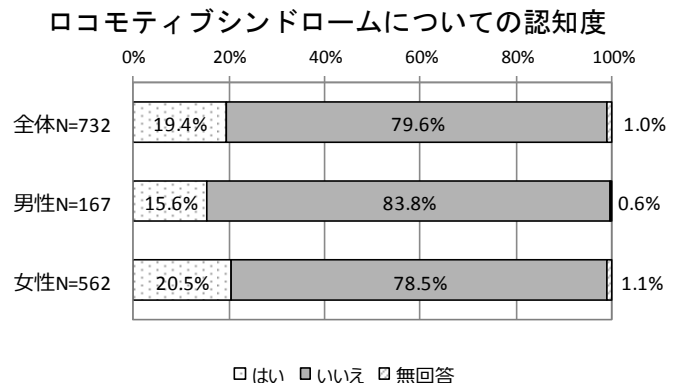


日常生活における歩数が増えているかについては、「はい(増えている)」の割合が25.8%、「いいえ(増えていない)」の割合が71.9%となっています。

運動する習慣の有無については、「はい(習慣がある)」の割合が26.1%、「いいえ(習慣がない)」の割合が72.7%となっています。



ロコモティブシンドロームについての認知度については、「はい(知っている)」の割合が19.4%、「いいえ(知らない)」の割合が79.6%となっています。

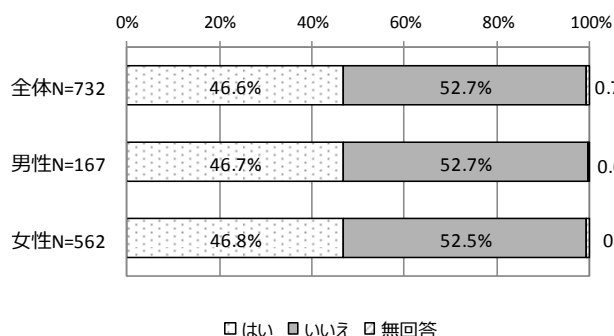


③ 食生活

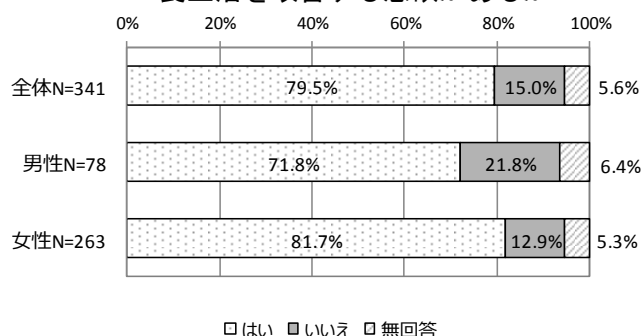
自分の食生活に問題があると思うかについては、「はい（問題がある）」の割合が 46.6%、「いいえ（問題がない）」の割合が 52.7%となっています。

問題があると思う人のうち、食生活を改善する意欲があるかについては、「はい（意欲がある）」の割合が 79.5%、「いいえ（意欲がない）」の割合が 15.0%となっています。

自分の食生活に問題があると思うか

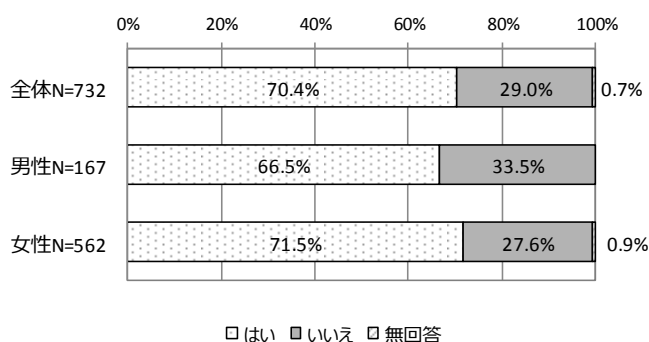


(問題があると思う人のみ)
食生活を改善する意欲があるか



漬け物以外の野菜を毎日たべているかについては、「はい（食べている）」の割合が 70.4%、「いいえ（食べていない）」の割合が 29.0%となっています。

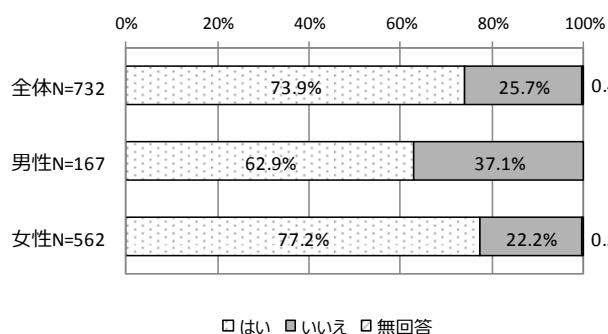
漬け物以外の野菜を毎日たべているか



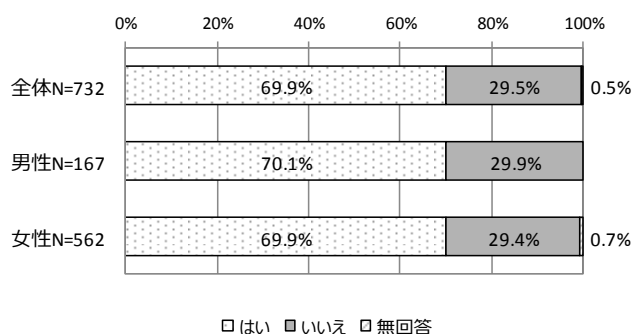
食生活で塩分を摂りすぎないように気をつけているかについては、「はい（気をつけている）」の割合が 73.9%、「いいえ（気をつけていない）」の割合が 25.7%となっています。

食生活で糖분을摂りすぎないように気をつけているかについては、「はい（気をつけている）」の割合が 69.9%、「いいえ（気をつけていない）」の割合が 29.5%となっています。

食生活で塩分を摂りすぎないように
気をつけているか

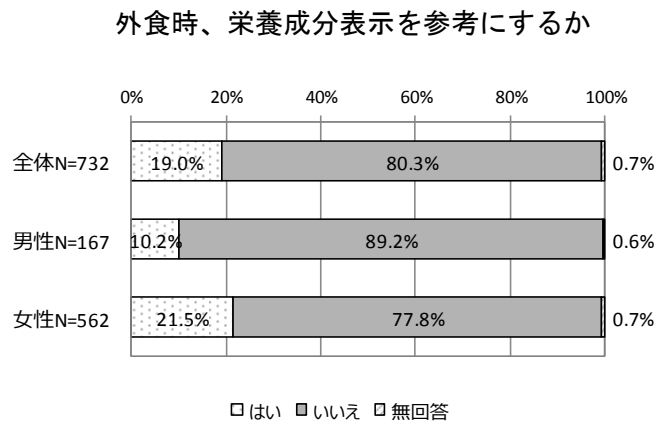
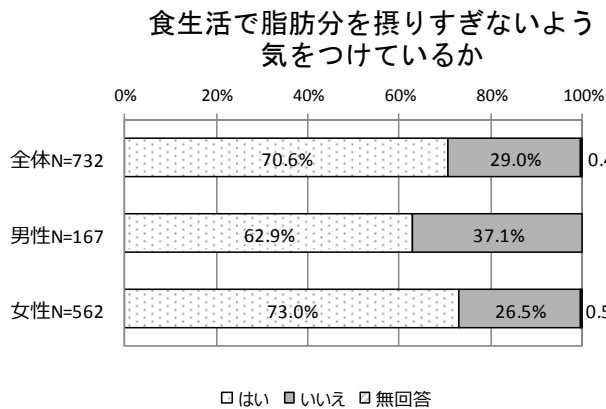


食生活で糖분을摂りすぎないように
気をつけているか



食生活で脂肪分を摂りすぎないように気をつけているかについては、「はい（気をつけている）」の割合が70.6%、「いいえ（気をつけていない）」の割合が29.0%となっています。

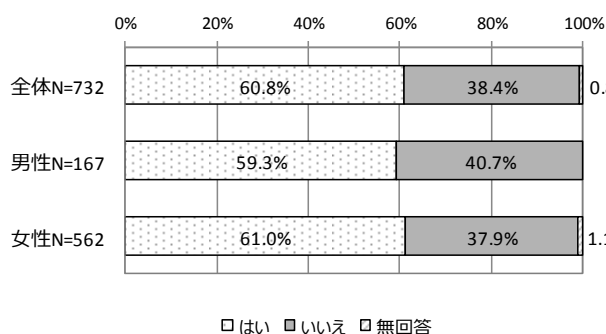
外食時、栄養成分表示を参考にするかについては、「はい（する）」の割合が19.0%、「いいえ（しない）」の割合が80.3%となっています。



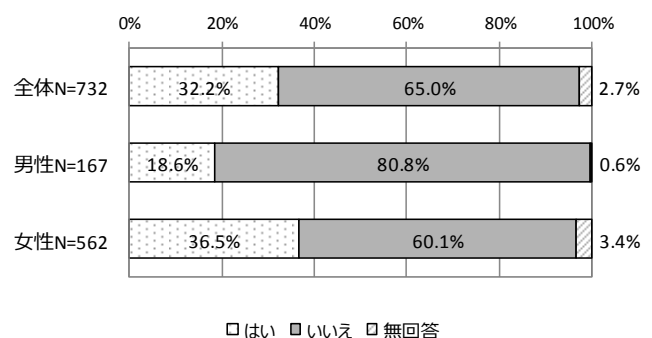
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日あるかについては、「はい（ある）」の割合が60.8%、「いいえ（ない）」の割合が38.4%となっています。

食事バランスガイドの内容を知っているかについては、「はい（知っている）」の割合が32.2%、「いいえ（知らない）」の割合が65.0%となっています。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日あるか



食事バランスガイドの内容を知っているか

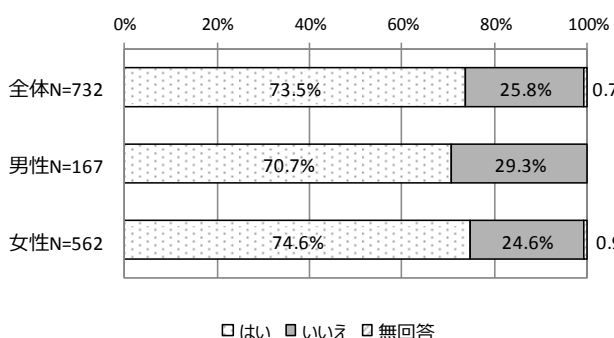


④ ストレス

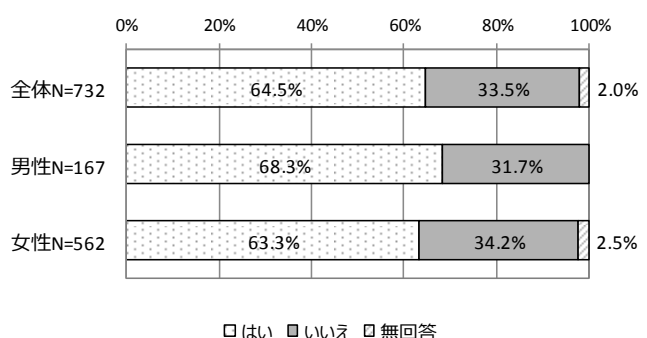
最近1か月でストレスを感じたことがあるかについては、「はい（ある）」の割合が73.5%、「いいえ（ない）」の割合が25.8%となっています。

ストレスを発散できているかについては、「はい（できている）」の割合が64.5%、「いいえ（できていない）」の割合が33.5%となっています。

最近1か月でストレスを感じたことがあるか

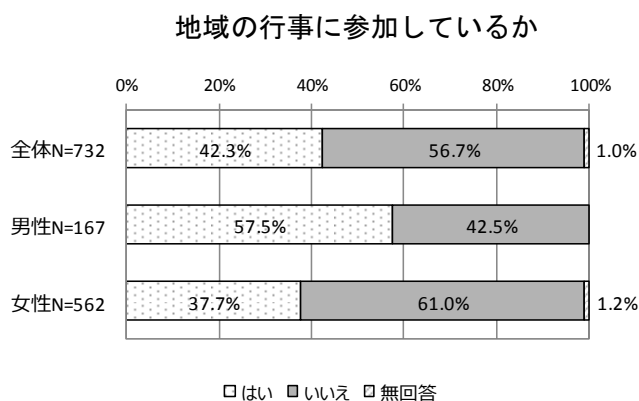


ストレスを発散できているか

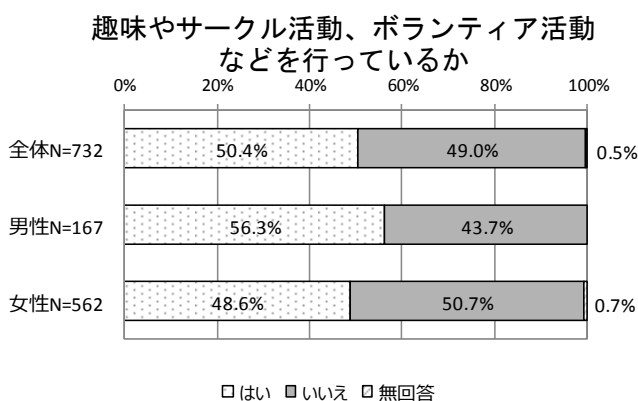


⑤ 地域の人との交流

地域の行事に参加しているかについては、「はい（している）」の割合が 42.3%、「いいえ（していない）」の割合が 56.7%となっています。



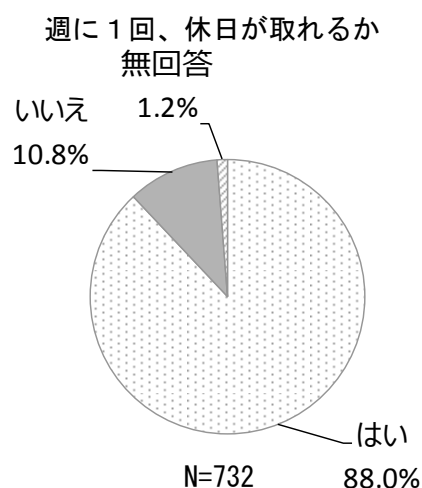
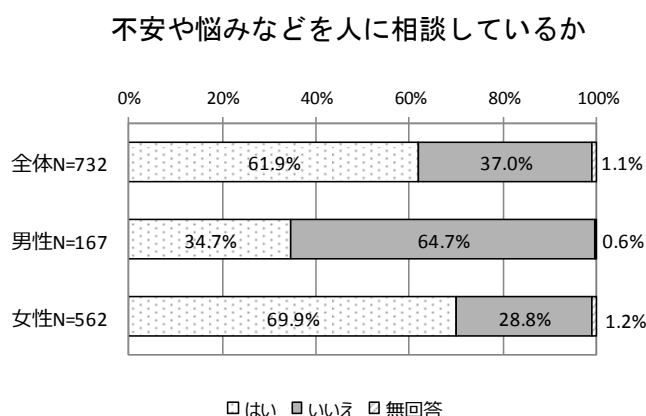
趣味やサークル活動、ボランティア活動などを行っているかについては、「はい（行っている）」の割合が 50.4%、「いいえ（行っていない）」の割合が 49.0%となっています。



⑥ 安心して働くこと

不安や悩みなどを人に相談しているかについては、「はい（している）」の割合が 61.9%、「いいえ（していない）」の割合が 37.0%となっています。

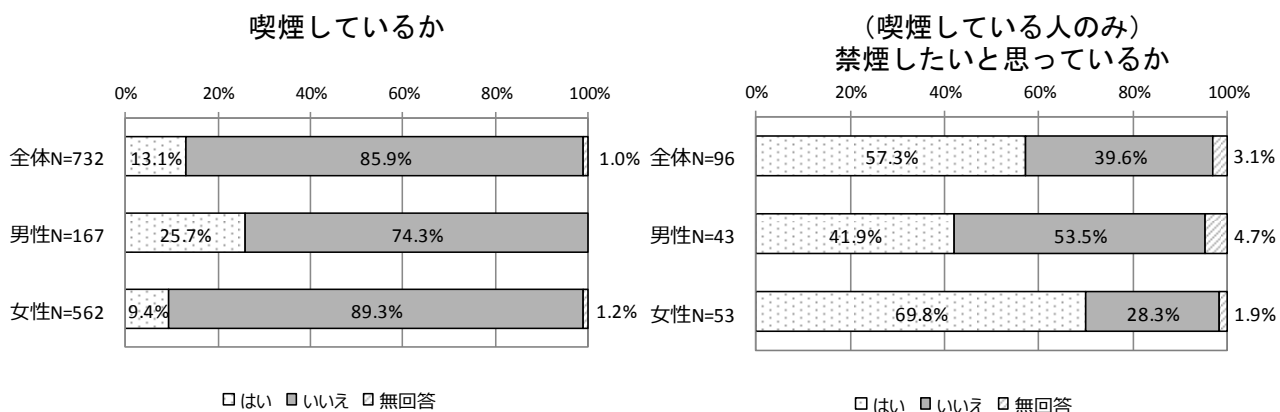
週に1回、休日が取れるかについては、「はい（取れる）」の割合が 88.0%、「いいえ（取れない）」の割合が 10.8%となっています。



⑦ 喫煙

喫煙しているかについては、「はい（している）」の割合が 13.1%、「いいえ（していない）」の割合が 85.9%となっています。

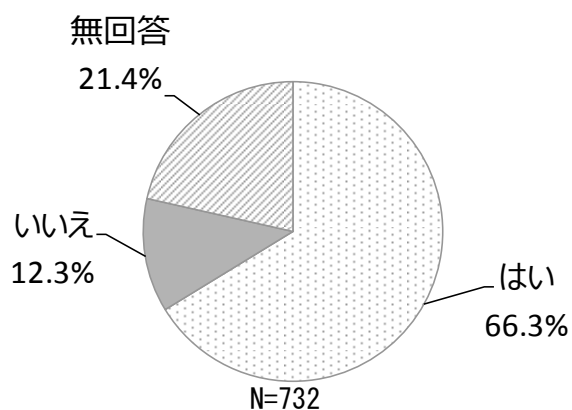
喫煙している人のうち、禁煙したいと思っているかについては、「はい（思っている）」の割合が 57.3%、「いいえ（思っていない）」の割合が 39.6%となっています。



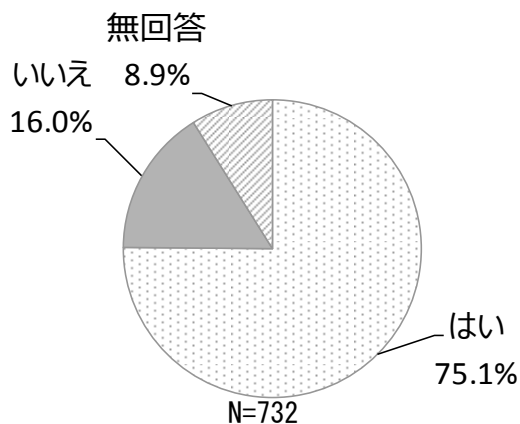
職場での禁煙・分煙の取り組み状況については、「はい（取り組んでいる）」の割合が66.3%、「いいえ（取り組んでいない）」の割合が12.3%となっています。

家庭での禁煙・分煙の取り組み状況については、「はい（取り組んでいる）」の割合が75.1%、「いいえ（取り組んでいない）」の割合が16.0%となっています。

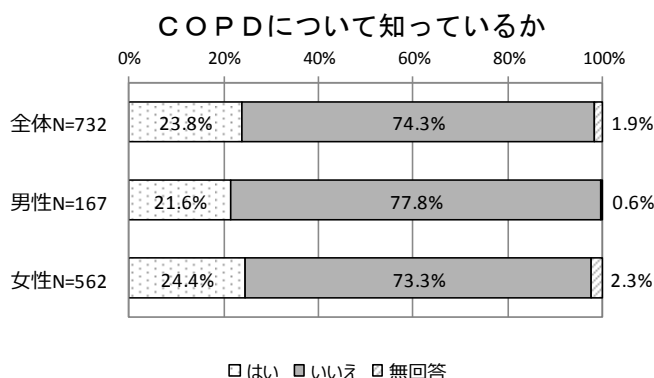
職場での禁煙・分煙の取り組み状況



家庭での禁煙・分煙の取り組み状況



COPDについて知っているかについては、「はい（知っている）」の割合が74.3%、「いいえ（知らない）」の割合が23.8%となっています。

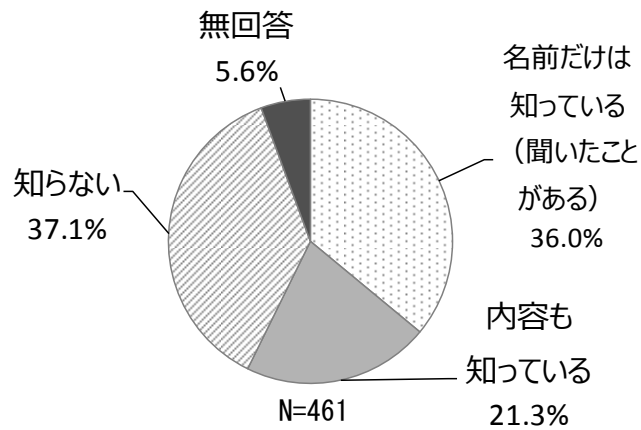


(5) 老年期（おおむね 65 歳以上）

① 岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度

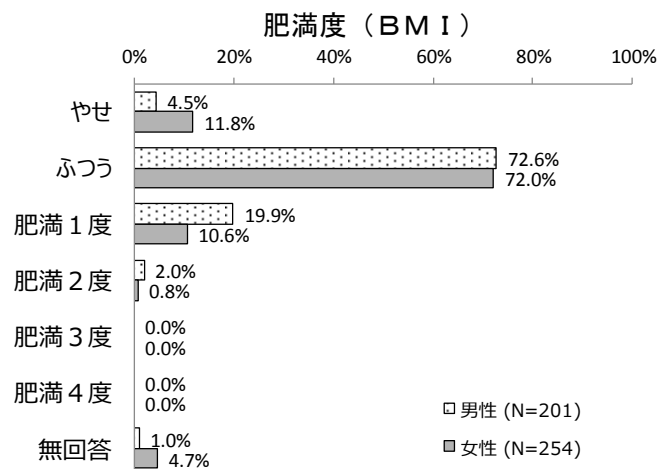
岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」の認知度は、「名前だけは知っている（聞いたことがある）」の割合が36.0%、「内容も知っている」の割合が21.3%、「知らない」の割合が37.1%となっています。

岸和田市保健計画「ウエルエージングきしわだ」
の認知度

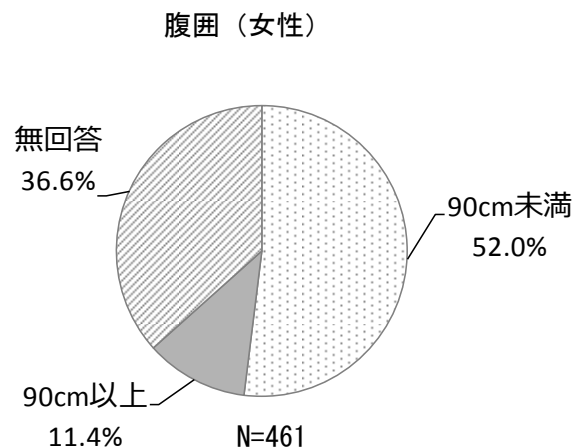
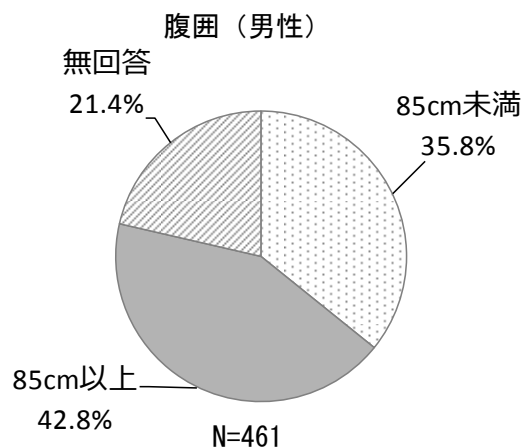


② 健康管理

肥満度（BMI）は、男女ともに「ふつう」の割合が高く、男性で 72.6%、女性で 72.0%となっています。



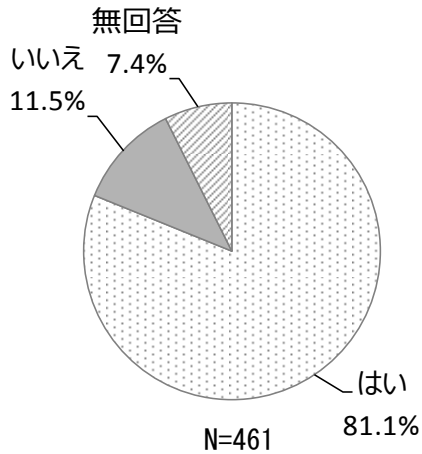
男性の腹囲は、「85cm 未満」の割合が 35.8%、「85cm 以上」の割合が 42.8%となっています。一方、女性の腹囲は、「90cm 未満」の割合が 52.0%、「90cm 以上」の割合が 11.4%となっています。



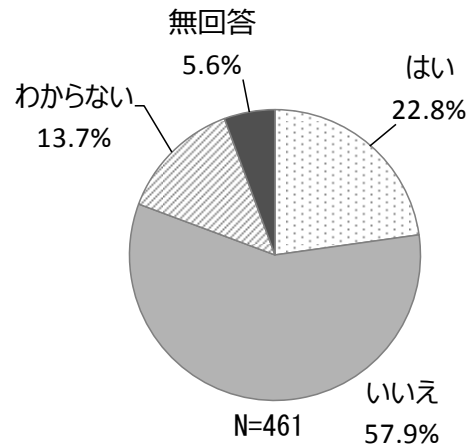
メタボリックシンドロームの認知度については、「はい (知っている)」の割合が 81.1%、「いいえ (知らない)」の割合が 11.5%となっています。

メタボリックシンドロームかどうか (予備群含む) については、「はい (該当する)」の割合が 22.8%、「いいえ (該当しない)」の割合が 57.9%となっています。

メタボリックシンドロームの認知度



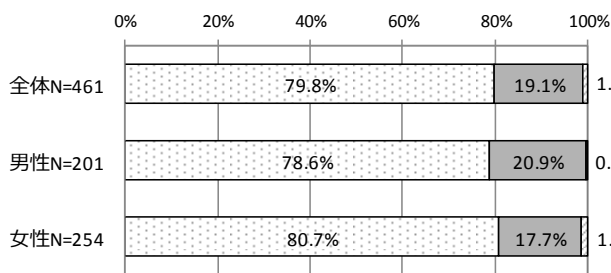
メタボリックシンドロームかどうか (予備群含む)



かかりつけ医の有無については、「はい（いる）」の割合が 79.8%、「いいえ（いない）」の割合が 19.1%となっています。

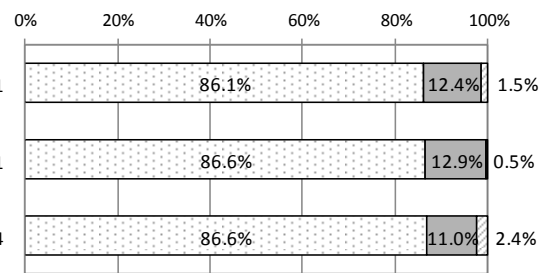
健康状態がよい、まあよいと思えるかについては、「はい（思える）」の割合が 86.1%、「いいえ（思えない）」の割合が 12.4%となっています。

かかりつけ医の有無



□ はい ■ いいえ □ 無回答

健康状態がよい、まあよいと思えるか

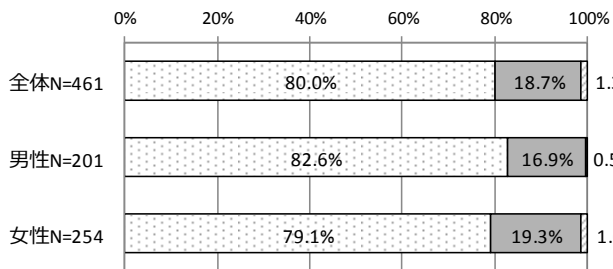


□ はい ■ いいえ □ 無回答

毎年健康診断を受けているかについては、「はい（受けている）」の割合が 80.0%、「いいえ（受けていない）」の割合が 18.7%となっています。

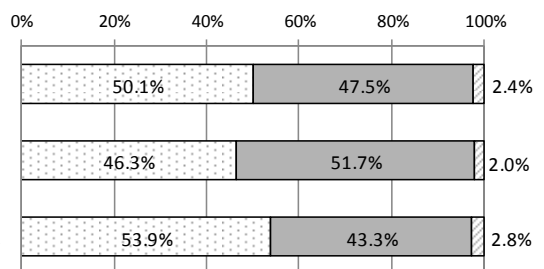
毎年歯科健診を受けているかについては、「はい（受けている）」の割合が 50.1%、「いいえ（受けていない）」の割合が 47.5%となっています。

毎年健康診断を受けているか



□ はい ■ いいえ □ 無回答

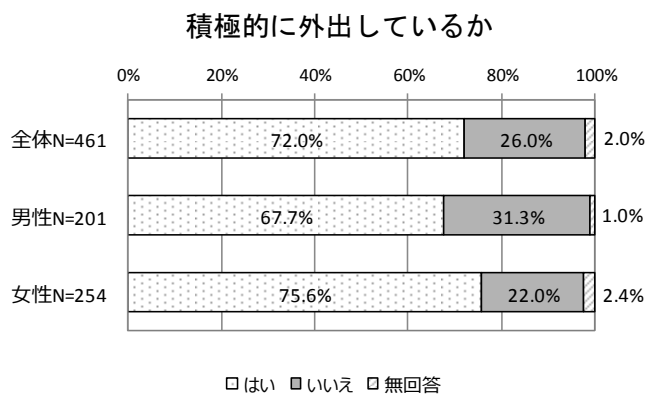
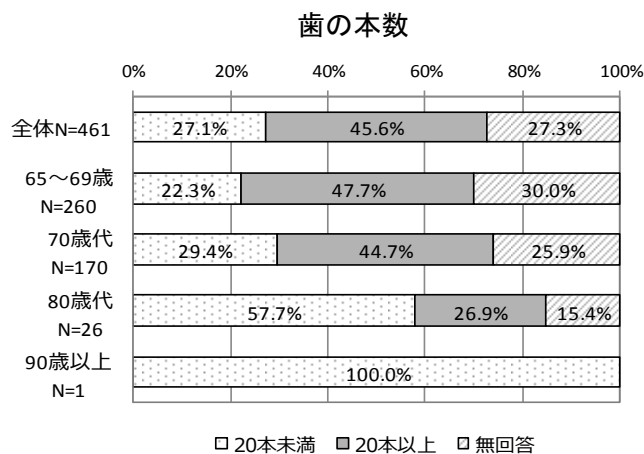
毎年歯科健診を受けているか



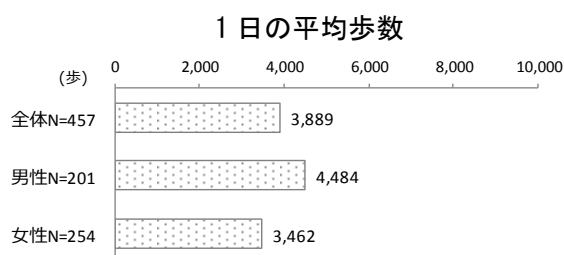
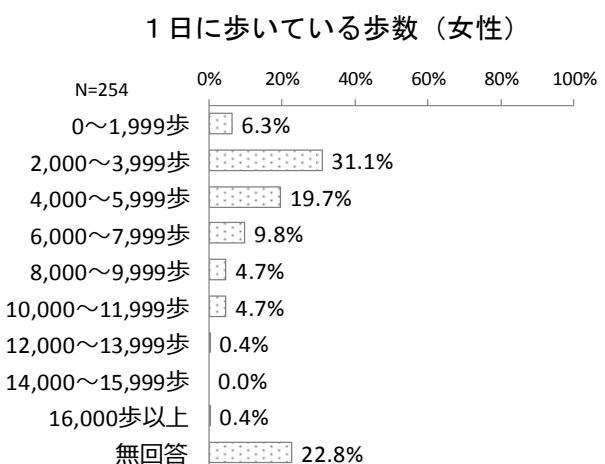
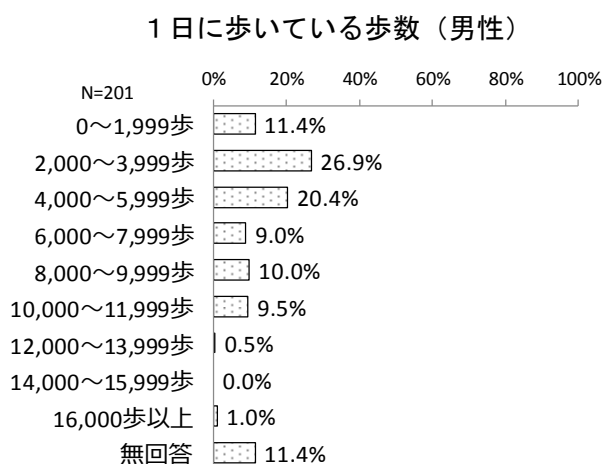
□ はい ■ いいえ □ 無回答

歯の本数については、「20 本未満」の割合が 27.1%、「20 本以上」の割合が 45.6%となっています。

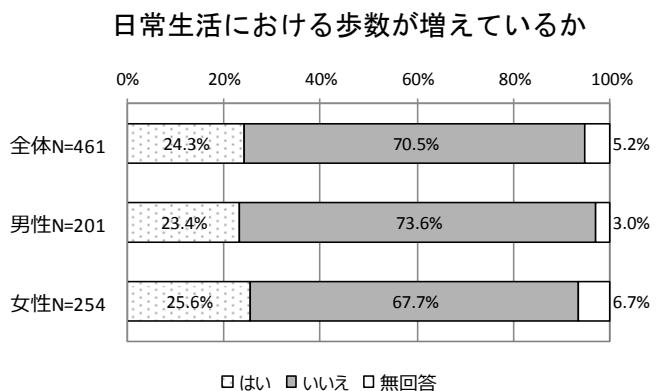
積極的に外出しているかについては、「はい（している）」の割合が 72.0%、「いいえ（していない）」の割合が 26.0%となっています。



1 日の平均歩数は、男性が「4,484 歩」、女性が「3,462 歩」となっています。



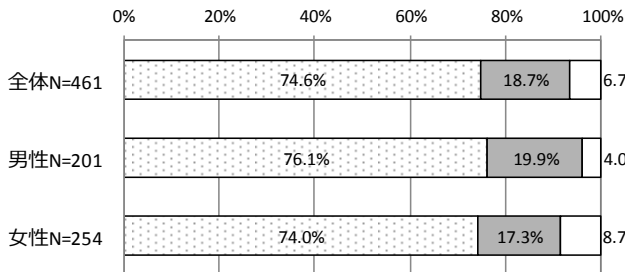
日常生活における歩数が増えているかについては、「はい（増えている）」の割合が 24.3%、「いいえ（増えていない）」の割合が 70.5%となっています。



両眼を開いた状態で片足で 20 秒以上立っていただけるかについては、「はい（立っていただける）」の割合が 74.6%、「いいえ（立っていただけない）」の割合が 18.7%となっています。

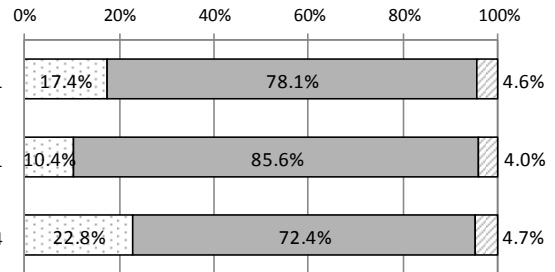
ロコモティブシンドロームについて知っているかについては、「はい（知っている）」の割合が 17.4%、「いいえ（知らない）」の割合が 78.1%となっています。

両眼を開いた状態で片足で 20 秒以上
立っていただけるか



□ はい □ いいえ □ 無回答

ロコモティブシンドロームについて
知っているか



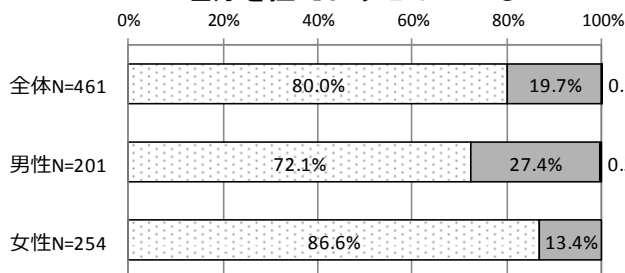
□ はい □ いいえ □ 無回答

③ 食生活

塩分を控えようとしているかについては、「はい（している）」の割合が 80.0%、「いいえ（していない）」の割合が 19.7%となっています。

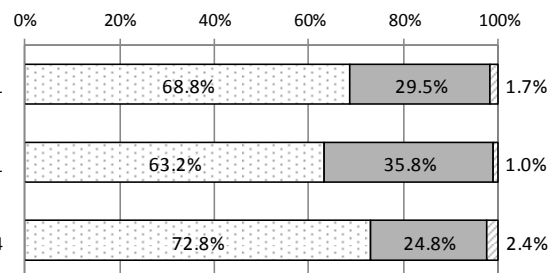
緑黄色野菜を毎日食べているかについては、「はい（食べている）」の割合が 68.8%、「いいえ（食べていない）」の割合が 29.5%となっています。

塩分を控えようとしているか



□ はい □ いいえ □ 無回答

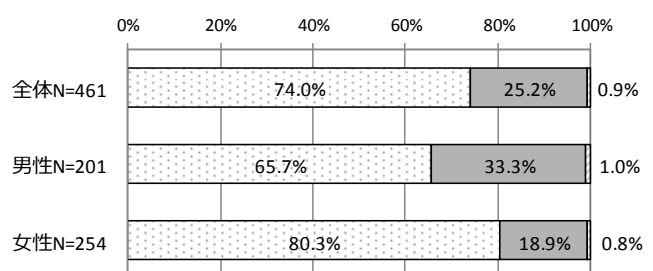
緑黄色野菜を毎日食べているか



□ はい □ いいえ □ 無回答

漬け物以外の野菜を毎食たべているかについては、「はい（食べている）」の割合が 74.0%、「いいえ（食べていない）」の割合が 25.2%となっています。

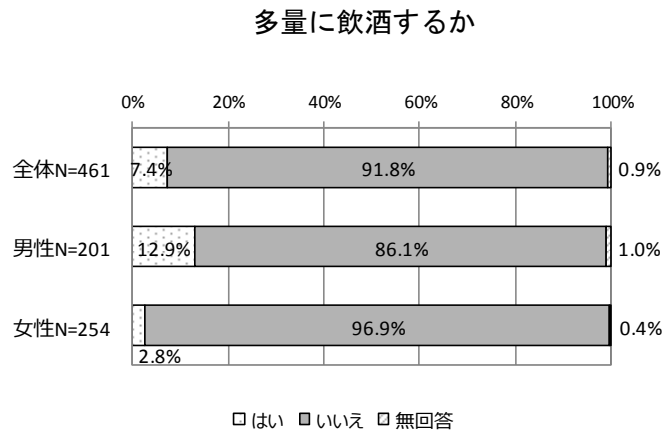
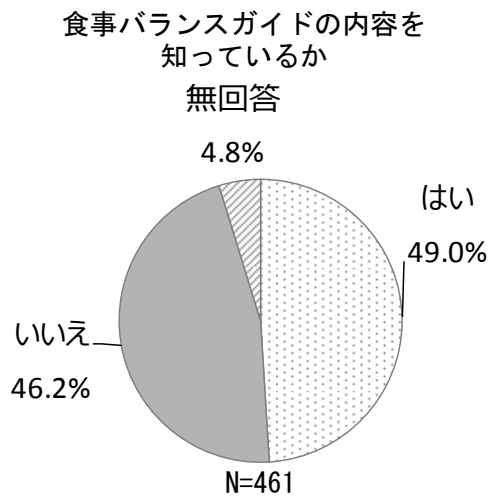
漬け物以外の野菜を毎食
たべているか



□ はい □ いいえ □ 無回答

食事バランスガイドの内容を知っているかについては、「はい（知っている）」の割合が49.0%、「いいえ（知らない）」の割合が46.2%となっています。

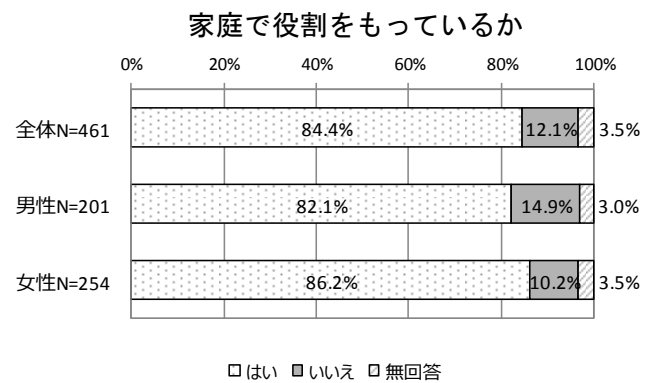
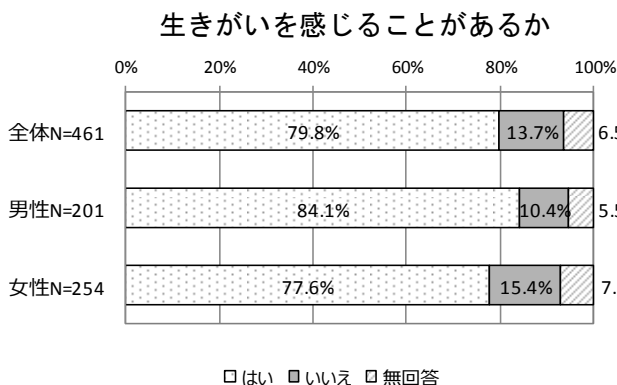
多量に飲酒するかについては、「はい（する）」の割合が7.4%、「いいえ（しない）」の割合が91.8%となっています。



④ 生活

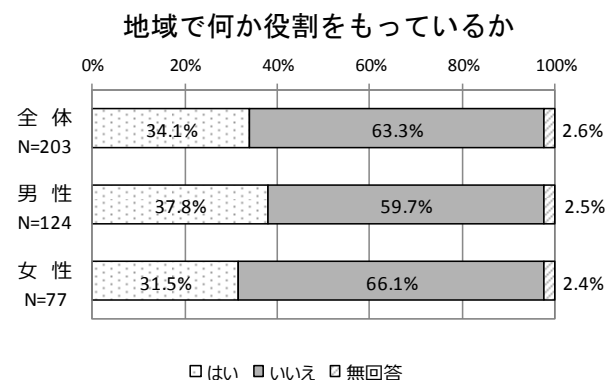
生きがいを感じることがあるかについては、「はい（ある）」の割合が79.8%、「いいえ（ない）」の割合が13.7%となっています。

家庭で役割をもっているかについては、「はい（もっている）」の割合が84.4%、「いいえ（持っていない）」の割合が12.1%となっています。

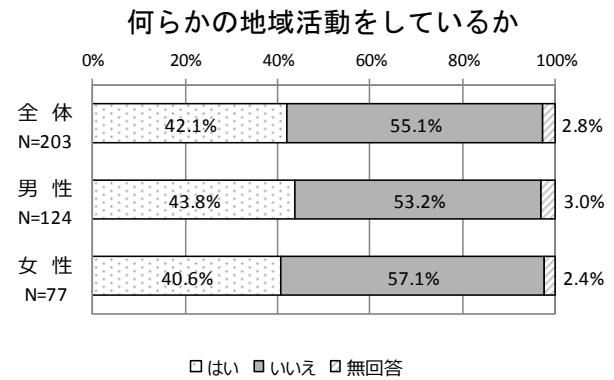


⑤ 地域の人との交流

地域で何か役割をもっているかについては、「はい（もっている）」の割合が34.1%、「いいえ（持っていない）」の割合が63.3%となっています。

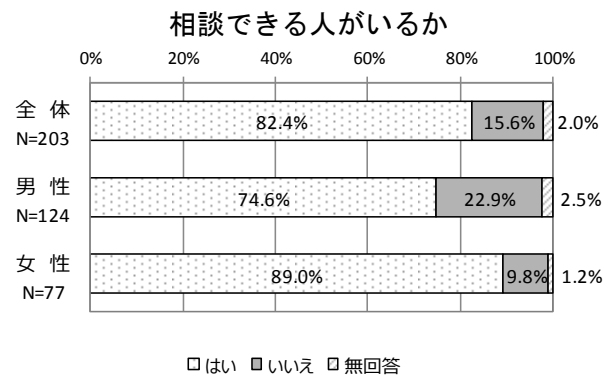
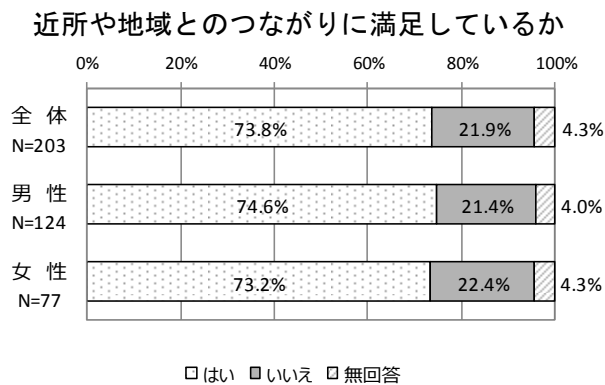


何らかの地域活動をしているかについては、「はい（している）」の割合が 42.1%、「いいえ（していない）」の割合が 55.1%となっています。

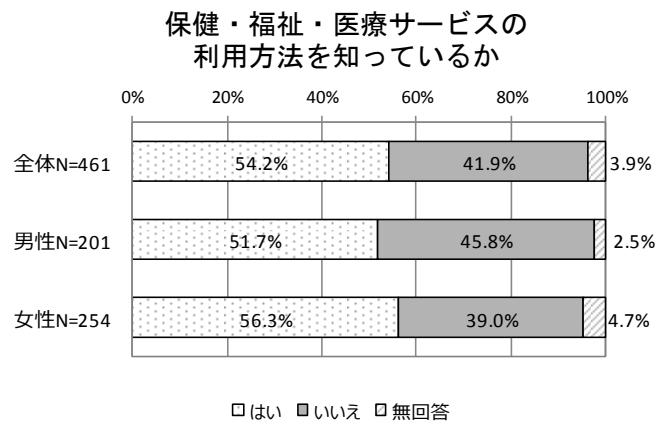


近所や地域とのつながりに満足しているかについては、「はい（している）」の割合が 73.8%、「いいえ（していない）」の割合が 21.9%となっています。

相談できる人がいるかについては、「はい（いる）」の割合が 82.4%、「いいえ（いない）」の割合が 15.6%となっています。



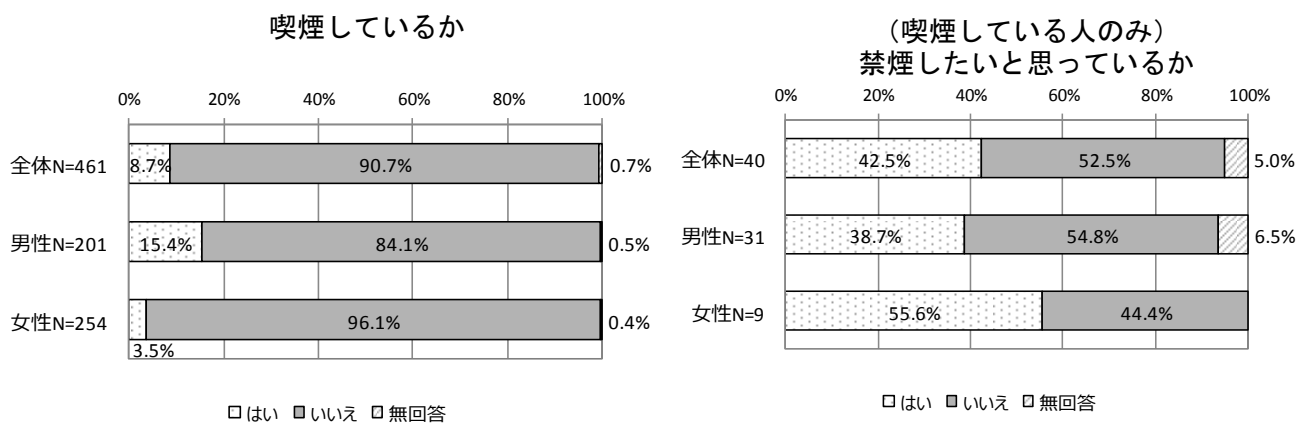
保健・福祉・医療サービスの利用方法を知っているかについては、「はい（知っている）」の割合が 54.2%、「いいえ（知らない）」の割合が 41.9%となっています。



⑥ 喫煙

喫煙しているかについては、「はい（している）」の割合が 8.7%、「いいえ（していない）」の割合が 90.7%となっています。

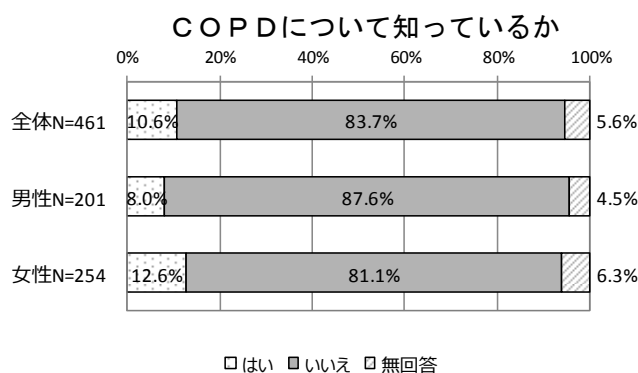
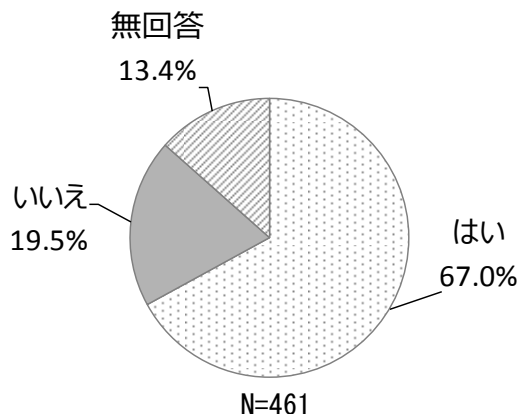
喫煙している人のうち、禁煙したいと思っているかについては、「はい（思っている）」の割合が 42.5%、「いいえ（思っていない）」の割合が 52.5%となっています。



家庭での禁煙・分煙の取り組み状況については、「はい（取り組んでいる）」の割合が67.0%、「いいえ（取り組んでいない）」の割合が19.5%となっています。

COPDについて知っているかについては、「はい（知っている）」の割合が10.6%、「いいえ（知らない）」の割合が83.7%となっています。

家庭での禁煙・分煙の取り組み状況



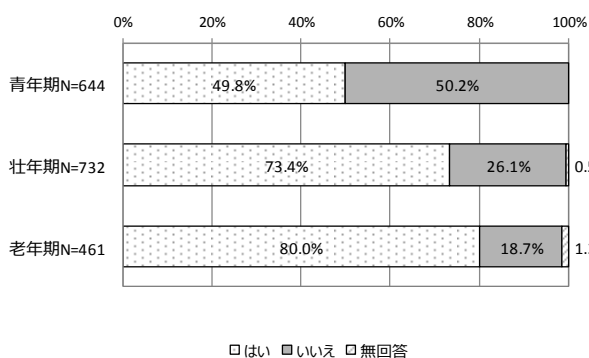
（6）青年期・壮年期・老年期での同じ調査項目の比較

※各ライフステージの同じ調査項目を再度掲載し、比較しています。

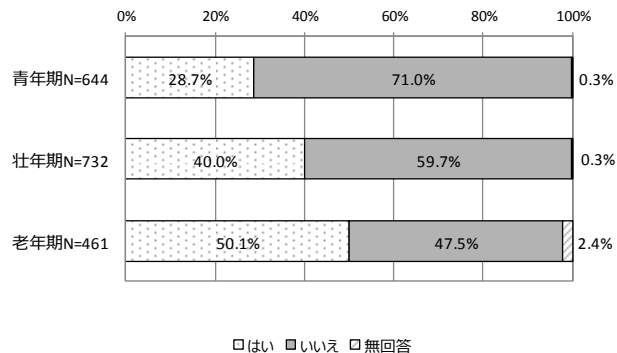
① 健康管理

健康診断・歯科健診の受診状況は、年代があがるにつれ、「はい（受けている）」の割合が高くなっており、老年期の受診率は、健康診断で約80.0%、歯科健診で約50.1%となっています。

定期的に健康診断（血圧・検尿・血液検査）を受けているか

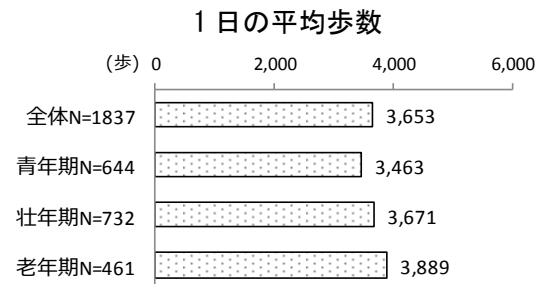
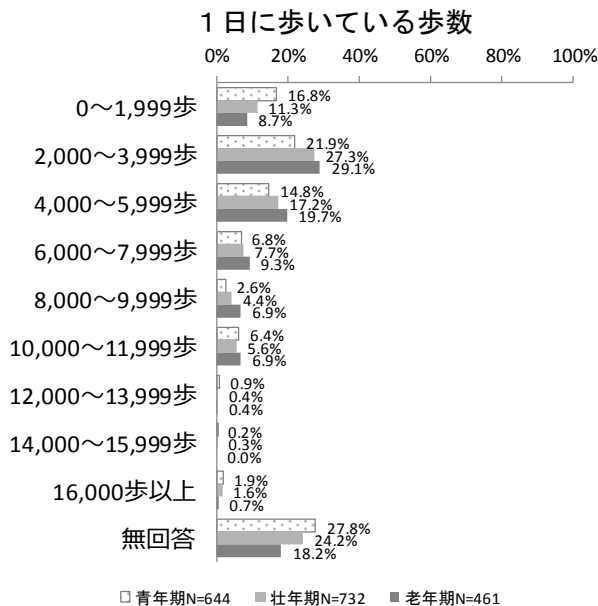


定期的に歯科健診を受けているか



1日に歩いている歩数は、すべてのライフステージで「2,000～3,999歩」の割合が最も高くなっています。

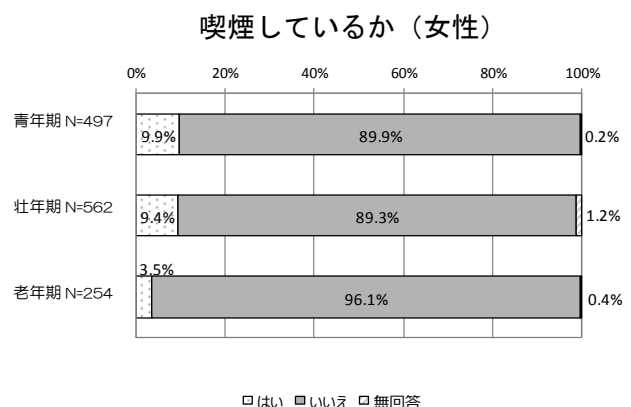
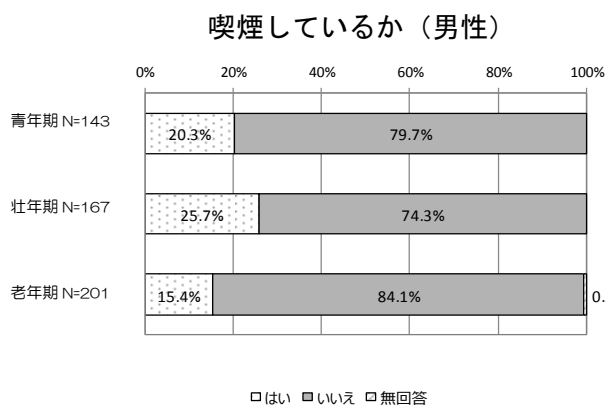
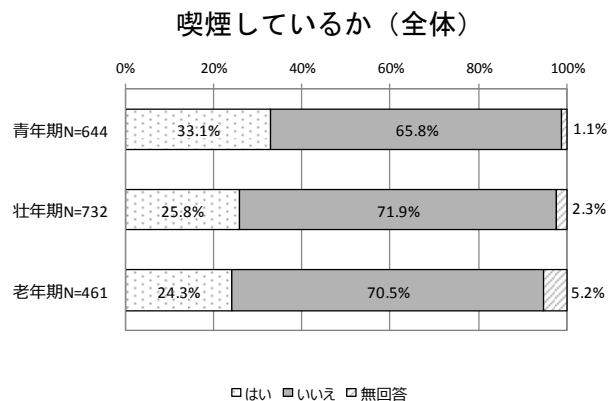
すべてのライフステージにおける平均歩数は「3,653歩」です。



② 喫煙

喫煙している人の割合は、性別でみると、すべてのライフステージで女性より男性で高くなっています。

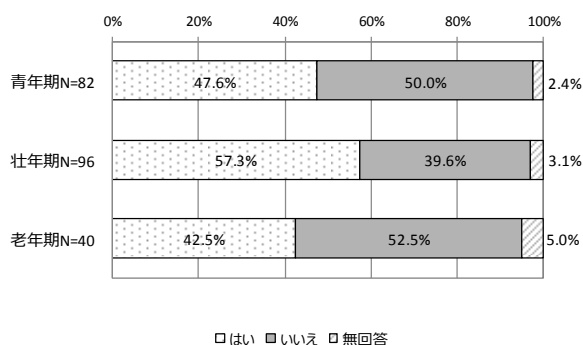
また、男性では壮年期、女性では青年期で喫煙している人の割合が高くなっています。



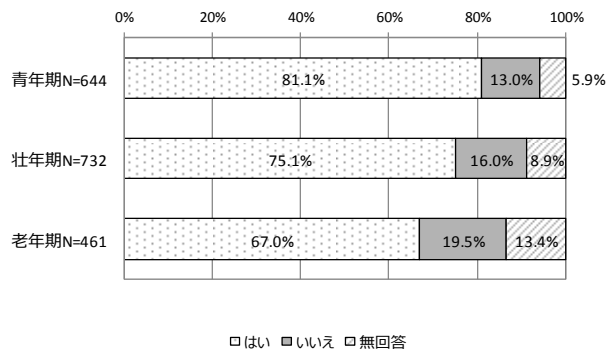
喫煙している人のうち、禁煙したいと思っている人の割合は、他のライフステージに比べ、壮年期で高く 57.3%となっています。

また、家庭での禁煙・分煙の取り組み状況については、青年期で「はい（取り組んでいる）」の割合が最も高く 81.1%となっており、「いいえ（取り組んでいない）」の割合は老年期で最も高く 19.5%となっています。

(喫煙している人のみ)
禁煙したいと思っているか



家庭での禁煙・分煙の取り組み状況



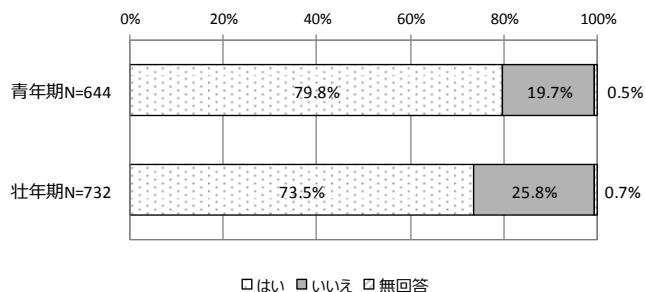
③ ストレス

最近1か月でストレスを感じたことがある人の割合は、壮年期に比べ青年期の方が高く、79.8%となっています。

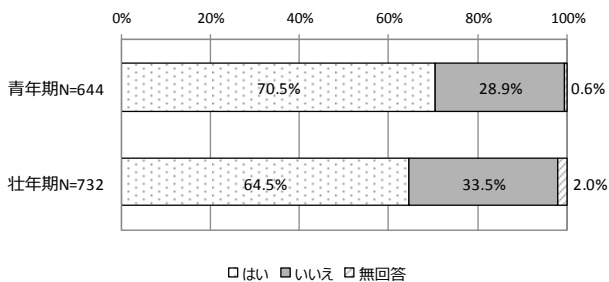
ストレスを発散できている人の割合については、壮年期に比べ青年期の方が高く、70.5%となっています。

不安や悩みなどを人に相談しているかについては、青年期に比べ壮年期で「はい（相談している）」の割合が16.4ポイント低くなっています。

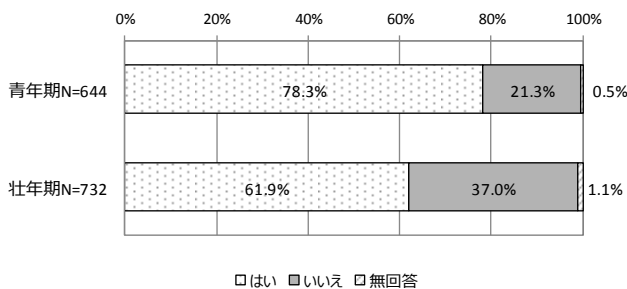
最近1か月でストレスを感じたことがあるか



ストレスを発散できているか



不安や悩みなどを人に相談しているか



(7) 食育について

① 食育への関心

全体では、「はい（関心を持っている）」の割合が 67.5%、「いいえ（関心を持っていない）」の割合が 30.9%となっています。

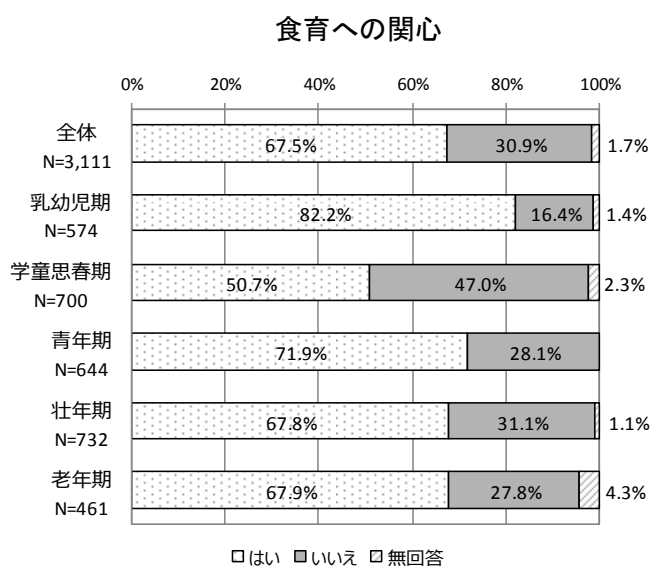
乳幼児期の保護者は、「はい（関心がある）」の割合が 82.2%、「いいえ（関心がない）」の割合が 16.4%となっています。

学童思春期では「はい（関心がある）」の割合が 50.7%、「いいえ（関心がない）」の割合が 47.0%となっています。

青年期では、「はい（関心を持っている）」の割合が 71.9%、「いいえ（関心を持っていない）」の割合が 28.1%となっています。

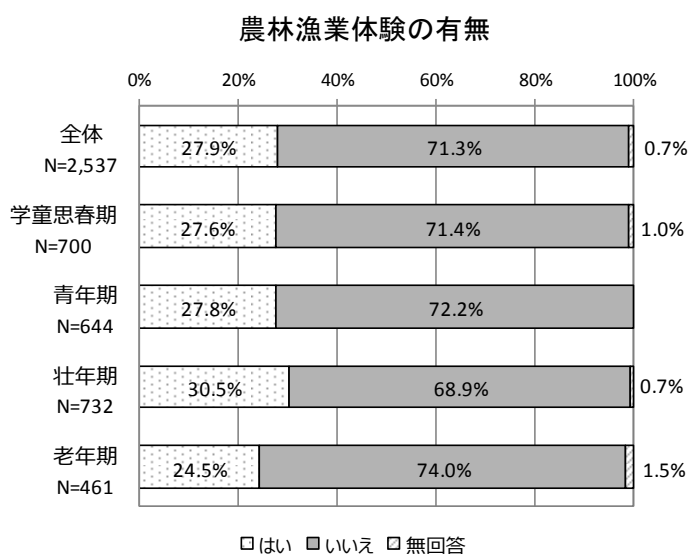
壮年期では、「はい（関心を持っている）」の割合が 67.8%、「いいえ（関心を持っていない）」の割合が 31.1%となっています。

老年期では、「はい（関心を持っている）」の割合が 67.9%、「いいえ（関心を持っていない）」の割合が 27.8%となっています。



② 農林漁業体験の有無

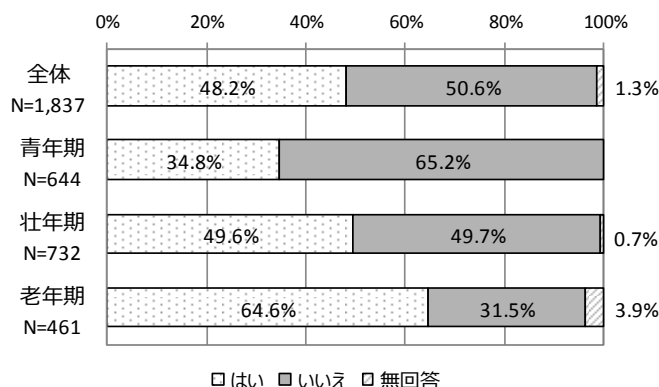
全体で、「はい（ある）」の割合が 27.9%、「いいえ（ない）」の割合が 71.3%となっています。



③ 食品の安全に関する知識を持っていると思うか

全体で、「はい（持っている）」の割合が 48.2%、「いいえ（持っていない）」の割合が 50.6%となっています。

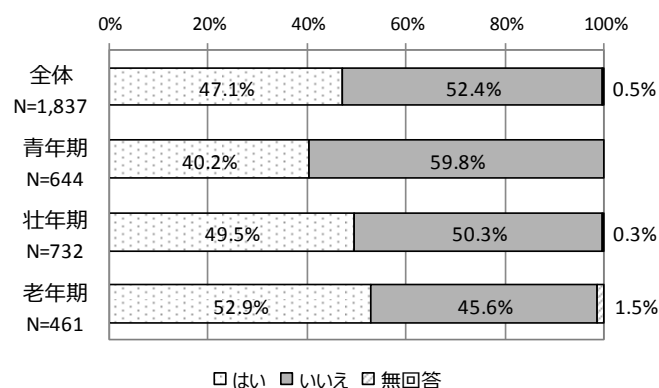
食品の安全に関する知識を持っていると思うか



④ 食品購入時に地元産の農林水産物を意識して購入しているか

全体で、「はい（している）」の割合が 47.1%、「いいえ（していない）」の割合が 52.4%となっています。

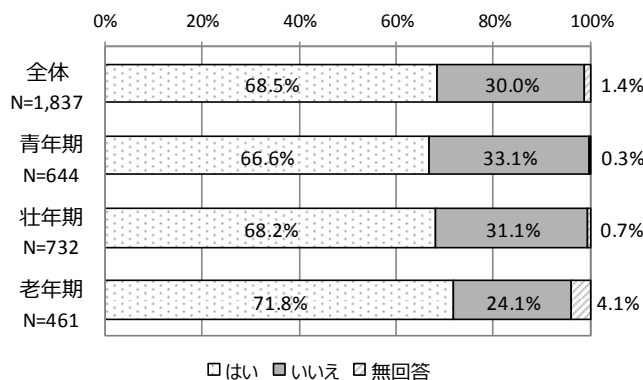
食品購入時に地元産の農林水産物を意識して購入しているか



⑤ 無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っているか

全体で、「はい（行っている）」の割合が 68.5%、「いいえ（行っていない）」の割合が 30.0%となっています。

無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っているか



第3章

ライフステージ別の取り組みの展開

1 乳幼児期

【現状からみえる課題】

生涯を通じ健やかで心豊かに生活するためには、妊娠前・妊娠期の心身の健康づくりを行うとともに、子どもの健やかな成長のために、より良い生活習慣を形成することが重要です。

○う歯のない子どもの割合がやや増加していますが、個人差が非常に大きいことが課題となっています。乳歯のう歯と永久歯のう歯には強い関連があるため、乳幼児期は歯口清掃や食習慣への配慮など、この時期に、う歯の予防に向けた基本的な生活習慣を身につけることが非常に重要です。

○朝食を欠食する子どもが見られることから、保護者に対して、自分や子どもの食習慣を見直し、健康的な食習慣を身につけることができるよう、適切な情報提供が必要です。

○妊娠中の喫煙率や飲酒率は減少しているものの、依然として妊婦の喫煙や飲酒が見られます。妊娠中の喫煙や飲酒が子どもに与える影響を知らせ、妊娠中、出産後の喫煙・飲酒者をなくすとともに、母親だけでなく、家族全体への禁煙支援が必要です。

○妊娠中から産後6か月未満に精神的に不安定になる母親は減少しています。しかし、産後のホルモンバランスの乱れや育児不安が原因で、母親がうつ状態になること等が問題視されており、産後うつの早期発見・早期対応や、育児不安を解消するため、適切な子育て情報の提供や相談体制の充実が必要です。

○女性の出産年齢が高くなっていることや、母親の痩身志向や生活習慣が低出生体重児のリスクを高めることが危惧されており、妊娠・出産の可能性のある年代の女性に対する適正な体重管理の啓発等が必要です。

【めざす姿】

ウエルエーシング～上手に年をとる 健康で実り豊かな生涯づくり～

愛情をいっぱい受けて、元気ですくすく育つ

目標

すべての子どもが基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに健やかに成長できる

家族みんなで育児を楽しみ、地域で子育てできる

【 健康分野別の取り組み 】

① 栄養・食生活

個人・家庭の取組	○ 子どもの時からバランスよく食べ、様々な食材やうす味に慣れることができるよう、家族全員が食事内容や量について関心を持ちます。 ○ 子どもと一緒に食事ができるよう心がけます。 ○ 子ども（幼児）が朝・昼・夕の三度の食事をきちんと食べ、健康な心身が育つよう、大人も規則正しい生活を心がけます。
地域・職域・団体等の取組	○ 大人自身が自分の食事（間食）について、回数や量、内容（バランス・味付け等）、食べ方やマナー等を見直す取り組みを行います。 ○ 「早寝、早起き、朝ごはん」が大切であるという意味を知り、実践できる大人が増えるよう関係機関・団体が今後も継続して啓発を進めます。 ○ 子ども（幼児）が家族と一緒に食事をつくり、一緒に食べる楽しさを体験する機会を今後も継続して設けていきます。
行政の取組	○ 「食事バランスガイドを見たことがある」人が増える等、大人が、食事内容について関心を持てるよう今後も継続して啓発を進めていきます。 ○ 子どもの栄養状態や食生活の現状を伝え、子どもの成長にとって望ましい食生活を学ぶ機会や相談する機会を設けます。 ○ 家族と一緒に楽しく食卓を囲む時間も、子どもの心がすこやかに育つために大切であるということを多くの大人に周知し、実践してもらえるよう、関係機関・団体と協力して取り組みます。

② 身体活動・運動

個人・家庭の取組	○ 子どもは遊びの中で、健全な心身を育んでいくということを大人が知る機会を持ちます。 ○ 子どもと一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを体験し、親子のコミュニケーションを深めます。
地域・職域・団体等の取組	○ 子どもと大人が安心して遊べる遊び場や遊ぶ機会を提供します。

行政の取組

- 子どもの頃からの運動や体力づくりが、心身の健全な成長のために必要であることを関係機関・団体と協力し、啓発に努めます。
- 季節や生活環境に応じて、楽しめる遊び・運動について関係機関・団体と協力し、普及していきます。

③ 休養・こころの健康

個人・家庭の取組

- 子どもの成長・発達について知識を持ち、適切な関わりができるように学びます。
- 子育てに悩んだら、ひとりで悩まず、周りの人や専門機関に相談するよう心がけます。
- 親が育児に疲れた時は、家族や周りの人が協力し、リフレッシュできる環境をつくれます。

地域・職域・団体等の取組

- 親が育児ストレスを抱え込まないように、地域の子育てサロンや赤ちゃんルームなどの子育て支援の場を活用し、親同士の交流の場を設けます。

行政の取組

- 親が育児ストレスを抱え込まないように、専門機関・団体と協力し、親同士の交流の場や相談の場を設け、支援を行います。

④ 飲酒・喫煙

個人・家庭の取組

- 喫煙・飲酒が母体や胎児、乳幼児に及ぼす悪影響について、妊娠前から正しい知識を持ちます。
- 家族も喫煙が母体や胎児、乳幼児に及ぼす悪影響について知り、禁煙します。

地域・職域・団体等の取組

- 妊産婦の喫煙や飲酒が母体や胎児、乳幼児の健康に悪影響を及ぼすことを、様々な取り組みの場で伝えていきます。
- 妊産婦や乳幼児のいる場所での喫煙はしないよう、させないよう地域全体で取り組みます。

行政の取組

- 乳幼児の保護者や家族の喫煙・飲酒状況を把握し、禁煙や適正飲酒の必要性の啓発・支援を今後も継続していきます。
- 地域の子育て支援の場や、医療機関等で禁煙や適正飲酒の必要性について、啓発・支援を今後も継続していきます。
- 公共施設などにおいて、禁煙を推進します。

⑤ 歯・口腔の健康

個人・家庭の取組	○ 家族全員で口腔の健康を保つことのできる食生活・生活習慣（歯みがき・歯の仕上げ磨き）を身につけます。 ○ 間食の時間や回数、内容に気をつけます。 ○ 歯科健康診査を受診し、子どもの口腔の健康状態に関心を持ちます。
地域・職域・団体等の取組	○ 子どもの歯・口腔の健康状態や歯の手入れの仕方やおやつとの与え方等を学ぶ機会を設けます。 ○ 歯・口腔衛生のハイリスク者を重点的に指導する機会を設けます。
行政の取組	○ むし歯や正しい歯の手入れの仕方、おやつとの与え方などについて正しい知識を伝えます。 ○ 定期的な歯科健康診査の必要性について、歯科医師会等と協力し、今後も継続して啓発します。

⑥ 健康管理

個人・家庭の取組	○ 出産後も健康的な生活を送るために、妊娠中から自分の健康実態を知り、健康管理を心がけます。 ○ 事故予防のための対策や、応急処置について学びます。 ○ 子どもの心身の成長発達について正しい知識をもち、子育てに取り組みます。 ○ 小児科又は内科・歯科のかかりつけ医をもち、子どもの健康管理や病気の予防ができるよう、心がけます。
地域・職域・団体等の取組	○ 地域ぐるみで事故の予防や応急処置方法について学ぶ機会を増やします。
行政の取組	○ 子育て支援事業の場で、子どもの事故予防や応急処置・子どもの健康管理について学ぶ機会を設けます。

【 目標数値 】 乳幼児期（おおむね 0 ～ 5 歳）

目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)
栄養・食生活			
朝食を毎日食べる 3 歳児が増える	未把握	92.5%	100%
食事バランスガイドの内容を知っている保護者が増える	未把握	31.4%	60%
身体活動・運動			
野外で身体をつかって遊ぶ子どもが増える	58.6%	77.9%	70%
休養・こころの健康			
妊娠中から産後 6 か月未満に精神的に不安定になる母親が減る	41.6%	27.9%	25%
育児・家事に参加する父親が増える	86.2%	86.2%	95%
地域行事に参加している保護者が増える	56.8%	43.9%	70%
飲酒・喫煙			
妊娠中の喫煙率が減る	10.9%	8.5%	0%
妊娠中の飲酒率が減る	6.1%	1.9%	0%
家庭内での受動喫煙を被る子どもの率が減る	未把握	46.3%	0%
歯・口腔の健康			
う歯がない 3 歳児が増える	78.6%	83.8%	95%
フッ化物歯面塗布の経験のある 3 歳児が増える	88.7%	86.3%	100%
1 日 3 回以上間食をする 3 歳児が減る	23.2%	22.1%	10%
健康管理			
心肺蘇生法を知っている保護者が増える	32.2%	45.5%	50%
かかりつけの小児科医を持つ保護者が増える	90.0%	84.3%	95%
低体重児の出生数の割合が減る	10.5%	8.2%	5%
適正な体重管理ができる妊婦が増える	未把握	55.9%	今後検討
事故・けがが防止対策をしている家庭が増える	76.3%	47.3%	今後検討

2 学童・思春期

【現状からみえる課題】

健やかな生活習慣を幼少時から身につけ、生涯にわたって健康な生活習慣を継続できるようにすることや幅広い経験を通じて社会へ巣立つための準備をすることが重要です。

○毎日、朝食を食べる人は減少し、規則正しくバランスの良い食事をとれていると思う人も減少しています。適切な食習慣を理解し実践できるようになるための情報提供や啓発が必要です。

○家族と一緒に夕食を食べる人の割合がやや増加していますが、三食のうち1回でも家族と一緒に共食する機会の大切さをさらに啓発していくことが必要です。

○肥満傾向にある人は中学生の男子を除き、増加しています。また、無理なダイエットが健康に悪影響を及ぼすことを知っている人が減少しています。自分に必要な食事の目安量と適正体重を理解し、適切な食習慣が身につけられるように支援する環境を整えていくことが必要です。

○子どもの食習慣の形成においては、保護者の食事に対する正しい知識や考え方が影響することから、保護者への働きかけが求められます。

○大人になっても望ましい食習慣を続けられるよう、地域や学校と連携しながら食育を推進し、食事を通じて基本的な生活習慣を身につけていくことが必要です。

○世帯構造や社会環境の変化により家庭生活の状況が多様化する中、健全な食生活が確保できない子どもへの支援が課題となっています。家庭や個人の努力だけでは改善が困難なため、地域をはじめ多様な支援が必要です。

○未成年の喫煙や飲酒が法律で禁止されていることを、ほとんどの人が知っているものの、喫煙や飲酒をしている人がいます。喫煙や飲酒は習慣化することから、喫煙や飲酒の影響に関する正しい知識を周知するとともに、地域ぐるみで未成年者の喫煙や飲酒を防止することが必要です。

【めざす姿】

ウエルエーシング～上手に年をとる 健康で実り豊かな生涯づくり～

きちんと食べ、よく遊び、よく学び元気にのびのび育つ

目標

健康的な生活習慣を身につけ、豊かな心を育むことができる
家族で楽しくふれあい地域とのかかわりや体験を通じてのびのびと学ぶことができる

【 健康分野別の取り組み 】

① 栄養・食生活

個人・家庭の取組	○ 規則正しい生活を心がけ、朝・昼・夕の三度の食事を必ず食べます。 ○ 普段の自分の食事内容や量に関心を持ちます。 ○ 自分でも簡単な食事を作ることができるようになります。 ○ 家族や友だちと楽しみながら、食事をする時間を持ちます。
地域・職域・団体等の取組	○ 子どもでも簡単な食事を作ることができるように、料理講習会等を行います。 ○ 地域においても子どもたちが三食食べること、共食を楽しむことについて学ぶ機会を設けます。
行政の取組	○ 食事の大切さや正しい食習慣について学ぶ場や機会を提供します。

② 身体活動・運動

個人・家庭の取組	○ 運動やスポーツに興味・関心を持ち、習慣づけます。
地域・職域・団体等の取組	○ 家族ぐるみでからだを動かす機会を積極的につくります。 ○ 地域で子どもたちがからだを使う遊びやスポーツを体験する機会をもちます。
行政の取組	○ 運動や体力づくりの大切さを認識できるよう知識の普及に努めます。

③ 休養・こころの健康

個人・家庭の取組	○ 家族や友人を思いやる心を育てます。 ○ 困っていることや悩みを相談し、1人で抱え込まないようにします。 ○ 自分に合ったストレスの対処方法を知ります。 ○ 家族や友人・近所の人と気持ちよくあいさつします。
地域・職域・団体等の取組	○ あいさつ運動に取り組み、子どもに声をかけます。
行政の取組	○ 専門機関や関係団体と協力し、子どもが相談しやすい環境づくりを進めます。

④ 飲酒・喫煙

個人・家庭の取組	○ 喫煙が自分だけでなく周囲の人の身体に深刻な悪影響を及ぼすことを知ります。 ○ 飲酒が未成年の身体に及ぼす悪影響について知ります。
地域・職域・団体等の取組	○ 地域が協力して、未成年者には決して飲酒・喫煙を勧めない、させない努力や工夫をします。 ○ 未成年者が立ち寄る場所での禁煙を、地域全体で取り組みます。
行政の取組	○ 未成年の喫煙・飲酒が及ぼす身体への悪影響について、情報提供を続けます。 ○ 公共施設などにおいて、禁煙を推進します。

⑤ 歯・口腔の健康

個人・家庭の取組	○ 歯と口腔の健康状態が全身の健康状態と大きく関連していることを知ります。 ○ 歯や口腔の健康のために、間食の内容を考えます。 ○ 家族で、正しい歯磨きや歯間部清掃を習慣づけます。 ○ かかりつけ歯科医を持ち、予防処置を心がけます。
地域・職域・団体等の取組	○ 自分で歯や口腔の健康管理ができるような知識を普及します。
行政の取組	○ 関係機関が協力し、歯科健康教育の充実を図ります。 ○ 定期的な歯科の受診を勧奨します。

⑥ 健康管理

個人・家庭の取組	○ 自分の健康状態に関心を持ち、バランスのよい食習慣や運動習慣を身につけます。 ○ 無理なダイエットが及ぼす心身の健康への悪影響について知ります。 ○ 規則正しい生活習慣が体力や学力を高める基本となることを知ります。
地域・職域・団体等の取組	○ 地域・職域において健康に関する正しい情報を積極的に取り入れます。 ○ 地域住民や様々な人が広く参加できるような健康づくり活動の場をつくります。
行政の取組	○ 自分の健康を自分で守ることができるよう、正しい知識を学ぶ機会を提供します。

【 目標数値 】 学童・思春期（おおむね 6 ～18 歳）

目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)
栄養・食生活			
朝食を毎日食べる人が増える	84.9%	78.6%	100%
家族と一緒に夕食を食べる（1日のうち、1回だけでも家族と共に食事をする）人が増える	73.7%	76.0%	90%
無理なダイエットが健康に悪影響を及ぼすことを知っている人が増える	85.0%	81.9%	95%
規則正しくバランスの良い食事をとれていると思う人が増える ※1	男 52.4% 女 58.2%	男 36.4% 女 41.7%	70%
身体活動・運動			
週3回以上体育の授業以外に身体を使う遊びや運動をしている人が増える	50.0%	47.4%	70%
休養・こころの健康			
困っている人を助けることができる人が増える	77.9%	86.9%	85%
地域行事に参加している人が増える	50.9%	47.4%	70%
将来に夢や希望がある人が増える	73.9%	74.6%	90%
何でも話せて楽しく遊べる人が増える	92.5%	92.9%	100%
飲酒・喫煙			
未成年者の飲酒をなくす	未把握	11.4%	0%
未成年者の喫煙をなくす	未把握	1.3%	0%
歯・口腔の健康			
毎食後歯をみがく人が増える ※2	67.4%	65.4%	75%
う歯がない人が増える	11 歳男子 40.2% 11 歳女子 43.6%	11 歳男子 48.5% 11 歳女子 55.9%	11 歳男子 50% 11 歳女子 50%
歯肉炎がない人が増える	未把握	未把握	今後検討
健康管理			
自分の適正体重を知っている人が増える	未把握	18.6%	今後検討
肥満傾向にある人の減少	小学生男子 8.8% 女子 7.4% 中学生男子 9.9% 女子 8.4%	小学生男子 9.8% 女子 8.1% 中学生男子 8.8% 女子 8.8%	5%
痩身傾向にある人の減少	小学生 8.4% 中学生 7.8%	小学生 1.9% 中学生 3.2%	0%
性感染症を知っている人が増える	75.0%	70.0%	100%

※1 小学校5年生の男女

※2 小学生・中学生は「1日に2回以上歯をみがいている人」

○対象の記載がない数値は小・中・高校生全体の値

3 青年期

【現状からみえる課題】

生活習慣病を予防するためには、日ごろから自分自身の健康状態に関心を持って、自らの健康管理を行っていくことが大切です。青年期から、栄養・食生活、運動・身体活動、休養・こころの健康、喫煙、飲酒、歯・口腔の健康などの各分野に関して、生活習慣を見直し、健康的な生活習慣を身につけていくことが大切です。

- 自分の適正体重を理解し、自分にあった食事量で体重をコントロールしていけるように働きかけていくことが必要です。
- 生活習慣病予防のために推奨している歩数 1 日 8,000～10,000 歩に対し、平均歩数は 3,463 歩となっており、特に女性の平均歩数が少なくなっています。日常生活での活動量を維持・増進することの効果を理解し、意識的に身体を動かすことを促進していくことが必要です。
- 定期的に健康診断を毎年受けている人は約 5 割とまだまだ少なく、若い年代から健康に対する関心を高め、毎年健康診断を受診することを促進していくことが必要です。
- 喫煙者は減少しており、禁煙・分煙に取り組んでいる職場や家庭の割合も高くなっています。引き続き、禁煙につながるよう支援を行うことが必要です。また、喫煙を望まない人がたばこの煙にさらされることの無いよう、受動喫煙の防止を推進することが重要です。
- ストレスを発散できている人や不安や悩み、苦労、ストレス等の相談ができている人の割合は増加しています。ストレスや悩みに対し、うまく対処できる人がさらに増えるよう、必要な相談窓口などについて広く周知していくことが必要です。

【めざす姿】

ウェルエージング～上手に年をとる 健康で実り豊かな生涯づくり～

豊かな人間関係を築き、いろいろなことに挑戦する

目標

一人ひとりが健康管理に関心を持つことができる
家族や地域とのふれあいを大切にすることができる

【 健康分野別の取り組み 】

① 栄養・食生活

個人・家庭の取組	○ 自分の食事内容や量に関心を持ち、野菜の摂取をこころがけます。 ○ 自分にとって望ましい食習慣を身につけ、適正体重を維持します。
行政の取組	○ 自分の食事の現状が分かり、改善した食習慣を継続できるよう「食事バランスガイド」を用いて啓発をします。

② 身体活動・運動

個人・家庭の取組	○ 自分のライフスタイルに合わせて、日々の活動量を維持・増進します。
行政の取組	○ 健康相談や健康教育などを通じて、健康づくりにおける運動の効果を普及啓発します。

③ 休養・こころの健康

個人・家庭の取組	○ こころの問題を相談できる機関を知っておきます。 ○ 自分に合った休養やストレスの対処法を見つけます。
地域・職域・団体等の取組	○ 地域、職域において、こころの健康について正しく理解し、早期に気づき、相談や適切な対処ができるようすすめます。 ○ 事業所でワーク・ライフ・バランスに取り組みます。
行政の取組	○ こころの健康について、正しい理解の普及啓発をします。 ○ 関係組織や事業所との連携を図り、相談窓口の周知やこころの病気を持つ人への早期支援と家族支援を推進します。

④ 飲酒・喫煙

個人・家庭の取組	○ 喫煙が身体に及ぼす影響について知り、禁煙に取り組みます。 ○ 自分の喫煙による周囲への影響を自覚し、受動喫煙防止に心がけます。 ○ 適正な飲酒量や飲酒が体に及ぼす影響について正しく理解し、適切な飲酒を心がけます。
----------	--

地域・職域・団体 等の取組	○ 公共の場や飲食店などにおける禁煙を進めます。 ○ 事業所内での受動喫煙防止対策を進めます。
行政の取組	○ 喫煙が及ぼす健康への影響や禁煙治療ができる医療機関などについて、普及啓発をします。 ○ 公共施設などにおいて禁煙を推進します。 ○ 適正な飲酒量や飲酒が及ぼす身体に対する影響について正しい知識の普及啓発をします。

⑤ 歯・口腔の健康

個人・家庭の取組	○ 歯科健診により自分の歯や歯茎の状態を把握し、歯科受診を習慣化できるようにします。
地域・職域・団体 等の取組	○ 歯科医師会などの関係機関は、かかりつけ歯科医を持つことを推進します。
行政の取組	○ 歯と口の健康と全身の健康との関連性など歯科保健の大切さについて普及啓発をします。

⑥ 健康管理

個人・家庭の取組	○ 健康な時から定期的に健康診断やがん検診を受診します。
地域・職域・団体 等の取組	○ 職場で年に1回は必ず健康診断を実施し、健診結果に応じた生活習慣の改善のための支援を受けられるような体制づくりをします。
行政の取組	○ 定期的に健康診査やがん検診を受診できるよう普及啓発を図ります。 ○ COPD（慢性閉塞性肺疾患）に対する正しい知識や予防のための情報について普及啓発をします。

【 目標数値 】 青年期（おおむね 19～39 歳）

目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)
栄養・食生活			
体重のコントロール(標準体重の維持や減量)をしている人が増える	40.9%	43.9%	70%
BMI 25.0 以上の人が減る	男性 26.6% 女性 7.5%	男性 16.8% 女性 7.4%	男性 20% 女性 5%
朝食を欠食する人が減る	21.3%	21.9%	10%
外食する時に栄養成分表示を参考にする人が増える	16.9%	14.3%	50%
適切な食事を理解している人が増える	47.8%	57.5%	80%
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が、ほぼ毎日の人の割合の増加	未把握	50.5%	80%
野菜料理を毎日食べる人が増える	77.6%	77.2%	90%
食事バランスガイドの内容を知っている人が増える	未把握	25.9%	60%
身体活動・運動			
日常生活における歩数が増える	男性 7,449 歩 女性 4,312 歩	男性 5,108 歩 女性 3,014 歩	男性 9,000 歩 女性 6,000 歩
意識的に体を動かすなどの運動を心がけている人が増える	37.3%	42.7%	55%
地域行事に参加している人が増える	50.9%	43.0%	70%
ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加	未把握	8.9%	80%
休養・こころの健康			
最近1か月でストレスを感じた人が減る	81.5%	79.8%	70%
睡眠によって休養が十分に取れていない人が減る	38.2%	37.6%	30%
ストレスを発散できている人が増える	61.9%	70.5%	85%
不安・悩み・苦労・ストレスなどについて人に相談する人が増える	73.7%	78.3%	85%
休日を週1回は取れる人が増える	74.2%	80.3%	90%
残業のない日を週に2日取れる人が増える	56.3%	70.2%	65%
飲酒・喫煙			
適度な飲酒の量を知っている人が増える	52.7%	49.7%	85%
喫煙者が減る	男性 40.8% 女性 16.4% 20 歳代 35.1%	男性 20.3% 女性 9.9% 20 歳代 17.9%	30% 5% 25%
禁煙・分煙に取り組んでいる職場の割合	52.4%	66.1%	80%
禁煙・分煙に取り組んでいる家庭の割合	74.8%	81.1%	85%
歯・口腔の健康			
毎年歯科健診を受けている人が増える	21.2%	28.7%	65%
健康管理			
毎年健康診断を受けている人が増える	39.9%	49.8%	75%
健康で気をつけていることがある人が増える	51.8%	58.2%	65%
COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上	未把握	21.9%	80%

4 壮年期

【現状からみえる課題】

壮年期における死亡原因の約7割を生活習慣病が占めています。生活習慣病は、自覚症状がほとんどありません。そのため、自分自身の健康状態に気づかず放置されることが多く、重症化してしまうことも少なくありません。定期的に健診を受け、自分の健康状態を正しく認識し、運動や食生活などの生活習慣を改善することで、生活習慣病の発症や重症化を予防していくことが重要です。

○毎年健康診断を受けている人は増えていますが、特定健診やがん検診の受診率は全国と比べてまだまだ低いためさらに受診率を向上させる取り組みが必要です。

○岸和田市は腎不全と心不全の標準化死亡比が大阪府と比べて高いため、糖尿病や高血圧、脂質異常症などの生活習慣病を早期に発見するとともに、重症化を予防する取り組みが必要です。

○岸和田市国民健康保険加入者の特定健康診査の結果において、男性40～50歳代で肥満の人や脂質異常の人の割合が高いため、運動や食生活などメタボリックシンドロームを予防するための生活習慣について、正しい知識の普及・啓発を図り、行動変容できる人を増やしていくことが重要です。

○国が生活習慣病予防のために推奨している歩数1日8,000～10,000歩に対し、平均歩数は3,671歩となっています。生活習慣病の予防のため、運動習慣者が増えるよう、意識的に身体を動かすように啓発していくことが必要です。

○ストレスを感じている人の割合が増えています。こころの健康に対する正しい理解や対応及び地域の相談窓口の周知、職場など地域におけるメンタルヘルスを推進していくことが必要です。

○男女とも多量飲酒の割合が高く、特に男性では約2割が多量飲酒者であるため、適正な飲酒量や多量飲酒による生活習慣病発症のリスクに対する普及啓発が必要です。

○歯周病予防のため、かかりつけ歯科医をもち定期的な健診の受診促進が求められます。

○健康に関心をもち、積極的に健康づくり活動に取り組む人が増えるよう、インセンティブ（動機付け）を提供する取り組みが必要です。

【めざす姿】

ウエルエーシング～上手に年をとる 健康で実り豊かな生涯づくり～

自分・家庭・社会生活を充実させて生き生きと過ごす

目 標

自分や家族の健康状態を知り、健康管理ができる
趣味や楽しみを持って生活することができる
家族や地域で支えあって暮らすことができる

【 健康分野別の取り組み 】

① 栄養・食生活

個人・家庭の取組	○ 自分の食事内容や量に関心を持ち、野菜の摂取をこころがけます。 ○ うす味を取り入れた、バランスのとれた食事内容や量を知り、自分にとって望ましい食習慣を身につけ、適正体重を維持します。
地域・職域・団体等の取組	○ 食生活改善推進協議会などが地域活動を通して、地域の多くの人が食事内容や量について、意識する機会をつくれます。
行政の取組	○ 自分が食べている内容や量に関心を持ち、意識できるよう啓発をします。 ○ 特定健診・特定保健指導などを通じて食生活の改善を支援します。

② 身体活動・運動

個人・家庭の取組	○ 自分のライフスタイルに合わせて、日々の活動量を維持・増進します。
行政の取組	○ 健康相談や健康教育などを通じて、健康づくりにおける運動の効果を普及啓発します。 ○ ロコモティブシンドロームについて普及啓発をします。

③ 休養・こころの健康

個人・家庭の取組	○ こころの問題を相談できる機関を知っておきます。 ○ 自分に合った休養やストレスの対処法を見つけます。
地域・職域・団体等の取組	○ 地域、職域において、こころの健康について正しく理解し、早期に気づき、相談や適切な対処ができるようすすめます。 ○ 事業所でワーク・ライフ・バランスに取り組めます。
行政の取組	○ こころの健康について、正しい理解の普及啓発をします。 ○ 関係組織や事業所との連携を図り、相談窓口の周知やこころの病気を持つ人への早期支援と家族支援を推進します。

④ 飲酒・喫煙

個人・家庭の取組	○ 喫煙が身体に及ぼす影響について知り、禁煙に取り組みます。 ○ 自分の喫煙による周囲への影響を自覚し、受動喫煙防止を心がけます。 ○ 適正な飲酒量や飲酒が体に及ぼす影響について正しく理解し、適切な飲酒を心がけます。
地域・職域・団体等の取組	○ 公共の場や飲食店などにおける禁煙を進めます。 ○ 事業所内での受動喫煙防止対策を進めます。
行政の取組	○ 喫煙が及ぼす健康への影響や禁煙治療ができる医療機関などについて、保健指導や健康教育などを通して普及啓発をします。 ○ 公共施設などにおいて禁煙を推進します。 ○ 適正な飲酒量や飲酒が及ぼす身体に対する影響について正しい知識の普及啓発をします。

⑤ 歯・口腔の健康

個人・家庭の取組	○ 歯科健診により自分の歯や歯茎の状態を把握し、歯科受診を習慣化できるようにします。
地域・職域・団体等の取組	○ 歯科医師会などの関係機関は、かかりつけ歯科医を持つことを推進します。
行政の取組	○ 歯と口の健康と全身の健康との関連性など歯科保健の大切さについて普及啓発をします。 ○ 市民歯科健康診査の受診を推進します。

⑥ 健康管理

個人・家庭の取組	○ 健康ポイント事業に参加します。 ○ 自分の健康状態に関心を持ち、生活習慣病などの予防に取り組めます。 ○ 定期的に健康診断やがん検診を受診します。 ○ 健康づくり活動に、積極的に参加します。
地域・職域・団体等の取組	○ 職場で年に1回は必ず健康診断を実施し、健診結果に応じた生活習慣の改善のための支援を受けられるような体制づくりをします。

行政の取組

- 定期的に健康診査やがん検診を受診できるよう普及啓発を図ります。
- 健康診査やがん検診を受けやすい体制づくりに取り組みます。
- COPD（慢性閉塞性肺疾患）に対する正しい知識や予防のための情報について普及啓発をします。
- 健康への関心を高めてもらうためのインセンティブ（動機付け）事業を実施します。

【 目標数値 】 壮年期（おおむね 40～64 歳）

目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)
栄養・食生活			
適正体重を維持している人が増える	58.1%	59.2%	70%
BMI 25.0 以上の人が減る	男性 28.4% 女性 14.7%	男性 28.7% 女性 16.2%	男性 20% 女性 10%
自分の食生活に問題があると思う人のうち、食生活の改善意欲のある人が増える	77.9%	79.5%	85%
食生活で塩分をとりすぎないように気をつけている人が増える	73.1%	73.9%	80%
食生活で糖分をとりすぎないように気をつけている人が増える	72.0%	69.9%	80%
食生活で脂肪分をとりすぎないように気をつけている人が増える	70.8%	70.6%	80%
外食する時に栄養成分表示を参考にしている人が増える	18.4%	19.0%	50%
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日が、ほぼ毎日の人の割合の増加	未把握	60.8%	80%
野菜料理を毎日食べる人が増える	未把握	70.4%	100%
食事バランスガイドの内容を知っている人が増える	未把握	32.2%	60%
身体活動・運動			
日常生活における歩数が増える	男性 5,881 歩 女性 5,161 歩	男性 4,363 歩 女性 3,479 歩	男性 7,500 歩 女性 6,500 歩
運動習慣者が増える	男性 33.3% 女性 35.7%	男性 34.7% 女性 23.5%	40%
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している市民の割合の増加	未把握	19.4%	80%
休養・こころの健康			
最近 1 か月でストレスを感じた人が減る	69.0%	73.5%	60%
ストレスの発散ができている人が増える	67.5%	64.5%	85%
不安や悩み、苦勞、ストレス等について相談する人が増える	47.6%	61.9%	75%
週に 1 回は休日が取れる人が増える	85.6%	88.0%	95%
地域の行事に参加している人が増える	65.7%	42.3%	80%
趣味やサークル活動、ボランティア活動などを行っている人が増える	60.3%	50.4%	75%
飲酒・喫煙			
多量に飲酒する人が減る	男性 16.6% 女性 6.5%	男性 19.8% 女性 3.7%	5.5% 1.4%
喫煙者が減る	22.0%	13.1%	10%
禁煙・分煙に取り組んでいる職場の割合	52.8%	66.3%	80%
禁煙・分煙に取り組んでいる家庭の割合	60.2%	75.1%	85%
歯・口腔の健康			
毎年歯科健診を受けている人が増える	38.1%	40.0%	65%
40 歳で喪失歯のない人が増える	48.0%	※1 51.6%	75%
60 歳で自分の歯が 24 本以上ある人が増える	40.0%	42.7%	48%

目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)
健康管理			
毎年健康診断を受けている人が増える	66.5%	73.4%	75%
かかりつけ医を持っている人が増える	57.1%	60.4%	70%
メタボリックシンドローム該当者が減る	未把握	23.5%	25%減 (平成 20 年度と 比して)
がん検診の受診率 ^{※2} の向上	胃がん 4.9% 肺がん 4.9% 大腸がん 15.2% 乳がん 27.7% 子宮頸がん 19.3%	胃がん 16.4% 肺がん 23.2% 大腸がん 21.6% 乳がん 48.0% 子宮頸がん 35.3%	^{※3} 胃がん 40% 肺がん 45% 大腸がん 40% 乳がん 45% 子宮頸がん 45%
COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度の向上	未把握	23.8%	80%

※1 40歳の回答者のうち28本以上の歯がある回答者の割合を算出

※2 子宮頸がん検診 20歳から64歳の受診率

※3 2023年度の目標値 第3期大阪府がん対策推進計画より

5 老年期

【現状からみえる課題】

高齢化が進む中で、フレイル（加齢による心身の脆弱性の出現した状態）や低栄養など新たな問題がでてきているなかで、健康寿命の延伸を実現するためには、生活を営むために必要な機能の維持・向上を図るとともに、健やかな心を支える社会づくりが重要です。

- 毎年健康診断を受けている人は増えていますが、がん検診の受診率はまだまだ低い
ため、がん検診の受診率を向上させる必要があります。
- 適正体重を維持する高齢者が増えてきていますが、女性のやせの割合が増えるなど
の新たな問題も出てきており、食事に対しての正しい知識を伝える必要があります。
- 要介護認定者は増加傾向にあり、「運動器の障害のために自立度が低下し、介護が必要
となる危険性の高い状態」と定義される『ロコモティブシンドローム（運動器症
候群）』を認知している高齢者を増やすとともに、介護予防教室における一次予防を
推進し、身体機能の維持を図っていく必要があります。
- 生活習慣病予防のために推奨している歩数 1 日 8,000～10,000 歩に対し、平均歩数
は 3,889 歩となっており、計画策定当初よりも減ってきています。現状の日常生活
を維持することを意識する高齢者を増やし、歩数を増やすためにも、地域活動への
参加・継続を促すしくみづくりや働きかけが必要です。
- 仕事、ボランティア活動、趣味などの社会参加・地域活動など高齢者が生きがいを持
って生活することが必要です。

【めざす姿】

ウエルエージング～上手に年をとる 健康で実り豊かな生涯づくり～

元気楽しく はつらつと過ごす

目 標

楽しく集える仲間とともに、生きがいを持って生活することができる
安心して生活することができる
心身の機能を維持し、心や身体が健康だと思えることができる

【 健康分野別の取り組み 】

① 栄養・食生活

個人・家庭の取組	○ 自分の食事内容や量に関心を持ち、野菜の摂取をこころがけます。 ○ 適正体重を意識し、維持できるよう、低栄養や栄養のとりすぎに気をつけ、バランスよく食事をとります。
地域・職域・団体等の取組	○ 食生活改善推進協議会などが地域活動をととして、地域の多くの人が食事内容や量について、意識する機会をつくれます。
行政の取組	○ 食生活改善推進協議会などと連携し、偏った単調な食生活などが低栄養や栄養のとりすぎにつながらないように正しい食生活について啓発をします。

② 身体活動・運動

個人・家庭の取組	○ 日常生活の中での体の使い方、動かし方を意識します。 ○ 買い物、散歩など積極的に外出します。
地域・職域・団体等の取組	○ 趣味や地域活動など社会参加の機会を増やします。
行政の取組	○ 介護予防教室などを通じ、日常生活が維持できるよう支援します。 ○ ロコモティブシンドロームについて普及啓発をします。

③ 休養・こころの健康

個人・家庭の取組	○ 悩みを相談できる人をつくれます。 ○ 趣味や生きがいなどを見つけます。 ○ 人や地域とのつながりを持ちます。
行政の取組	○ こころの健康や認知症について、正しい理解の普及啓発をします。 ○ コミュニティや生きがいにつながる場づくりや情報の発信を行います。

④ 飲酒・喫煙

個人・家庭の取組	○ 自分の喫煙による周囲への影響を自覚し、受動喫煙防止を心がけます。
地域・職域・団体等の取組	○ 公共の場や飲食店などにおける禁煙を進めます。
行政の取組	○ 喫煙が及ぼす健康への影響や禁煙治療ができる医療機関などについて、保健指導や健康教育などを通して普及啓発をします。 ○ 公共施設などにおいて禁煙を推進します。

⑤ 歯・口腔の健康

個人・家庭の取組	○ 歯科健診により自分の歯や歯茎の状態を把握します。 ○ なんでも噛んで食べることができる口腔機能を維持します。
地域・職域・団体等の取組	○ 口腔機能の維持向上を図る場をつくれます。
行政の取組	○ 介護予防のために、口腔機能の維持を啓発します。

⑥ 健康管理

個人・家庭の取組	○ 定期的に健康診断やがん検診を受診します。 ○ かかりつけ医を持ちます。
行政の取組	○ 定期的に健康診査やがん検診を受診できるよう普及啓発を図ります。 ○ 健康診査やがん検診を受けやすい体制づくりに取り組みます。

【 目標数値 】 老年期（おおむね 65 歳以上）

目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)
栄養・食生活			
B M I 25.0 以上の人が減る	男性 22.2% 女性 24.9%	男性 21.9% 女性 11.4%	男性 15% 女性 17%
緑黄色野菜を毎日とる人が増える	69.8%	68.8%	80%
食事バランスガイドの内容を知っている人が増える	未把握	49.0%	60%
身体活動・運動			
積極的に外出できる人が増える	80.0%	72.0%	90%
日常生活における歩数が増える	男性 4,931 歩 女性 4,023 歩	男性 4,484 歩 女性 3,462 歩	男性 6,500 歩 女性 5,500 歩
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している市民の割合の増加	未把握	17.4%	80%
休養・こころの健康			
生きがいを感じることがある人が増える	82.5%	79.8%	90%
家庭や地域などで役割のある人が増える	家庭 82.2% 地域 65.1%	家庭 84.4% 地域 34.1%	家庭 90% 地域 75%
何らかの地域活動をしている人が増える	71.2%	42.1%	80%
相談できる人がいると答える人が増える	89.5%	82.4%	95%
飲酒・喫煙			
多量に飲酒する人が減る	未把握	7.4%	13%
喫煙者が減る	12.6%	8.7%	5.2%
禁煙・分煙に取り組んでいる家庭の割合	61.0%	67.0%	75%
歯・口腔の健康			
毎年歯科健診を受けている人が増える	41.9%	50.1%	65%
80 歳で 20 本以上自分の歯を有する人が増える	25.3%	26.9%	50%
健康管理			
毎年健康診断を受けている人が増える	67.0%	80.0%	80%
かかりつけ医を持っている人が増える	86.4%	79.8%	95%
保健・福祉・医療サービスの利用方法を知っている人が増える	68.1%	54.2%	80%
健康状態がよい(まあよい)と思う人が増える	82.3%	86.1%	90%
メタボリックシンドロームとはどんな状態か知っている人が増える	68.8%	81.1%	90%
がん検診の受診率※ ¹ の向上	胃がん 9.3% 肺がん 9.2% 大腸がん 27.7% 乳がん 9.2% 子宮頸がん 8.7%	胃がん 11.0% 肺がん 30.3% 大腸がん 25.1% 乳がん 17.4% 子宮頸がん 14.5%	※ ² 胃がん 40% 肺がん 45% 大腸がん 40% 乳がん 45% 子宮頸がん 45%
C O P D（慢性閉塞性肺疾患）の認知度の向上	未把握	10.6%	80%

※¹ 65～69 歳の受診率

※² 2023 年度の目標値第 3 期大阪府がん対策推進計画より

1 背景と趣旨

食は命の源であり、生きていくために欠かせません。また、健全な食生活を日々実践し、おいしく楽しく食べることは、健康で心豊かな人生を送るために重要なものです。

食を取り巻く社会環境が大きく変化する中で、食に関する価値観やライフスタイルなどの多様化が進んでおり、食事バランスの偏り、肥満や生活習慣病の増加、食文化継承の希薄化、食品の安全性など、様々な問題が生まれています。

このような問題に対応するため、国は平成17年7月に「食育基本法」を施行するとともに、「食育推進基本計画」「第2次食育推進基本計画」「第3次食育推進基本計画」を作成し、食をめぐる諸問題の解決のため、食育を総合的かつ計画的に推進しています。

府においても、「大阪府食育推進計画」「第2次大阪府食育推進計画」を策定し、大阪の歴史・伝統を活かし、食育を推進してきました。

本市では、「ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画」において、栄養分野などをはじめとするライフステージに応じた健康づくりだけではなく、幅広い分野の関係者が連携し、地産地消などの食育活動に取り組んできました。

こうした中、若い世代における食に関する知識不足や食生活の乱れ、食品ロスなどの新たな課題に対応するため、さらに食育を推進する必要があります。

2 食育推進の展開

(1) 食の体験機会の充実と食文化の継承

【現状からみえる課題】

ライフスタイルなどの多様化が進む中、健全な食生活を実践することが困難な場面も増えてきています。また、古くから各地で育まれてきた地域の伝統的な食文化などに関する意識が希薄化し、失われていくことも危惧されています。それらを継承していくためには、食の恩恵を実感できるような体験活動や、伝統的な食文化の普及啓発が重要です。

農林漁業体験を経験したことのある人は28%と、全国と比べ少なくなっています。

また、地元産の農産物・水産物を意識して購入する人は青年期において特に少なく、岸和田市の地場産物の認知度や地産地消の意識は若い世代ではまだまだ低くなっています。農林漁業体験の充実や、地場産物や郷土料理の普及啓発を図り、若い世代を中心に食文化の継承と地産地消を推進する必要があります。

【 取り組み 】

個人・家庭の取組

- 子どもと一緒に料理（買物、調理、盛りつけ、配膳、作法、片付けなど）をするなど、食を通じた体験活動に積極的に取り組みます。
- 食物を育てるなど、自然とふれあう機会をつくれます。
- 地元の食材や旬の食材を知り、調理をします。
- 郷土料理や行事食を子どもたちに伝えます。

地域・職域・団体等の取組

- 生産者は、農林漁業体験の機会などの提供に努めます。
- 食品販売店は、積極的な地場産物の販売に努めます。
- 飲食店は、地場産物を取り入れた料理の提供に努めます。
- 関係団体は、地場産物を活用したレシピの考案や料理の紹介を図ります。
- 地域活動団体や、農産物・水産物の生産者、食品の製造、加工、流通、販売等の事業者などが地域において連携し、地場産物を活用した地域の活性化を図ります。
- 地域のイベントなどを通じて、郷土料理などの食文化の伝承に努めます。

行政の取組

- 保育所（園）や幼稚園において、自分たちで育てた野菜を使って調理を行い、食に対する興味、関心を高め、感謝の気持ちを持つように啓発します。
- 小学校において、農業への理解を深めるため、農園活動を充実します。
- 農業や漁業体験を通じて、広く住民などに地元の農産物・水産物を認識してもらうとともに、食への関心を育みます。
- 学校給食において、地場産物の活用、郷土料理や行事食を取り入れます。
- 学校教育において、日本の食文化や地域の食文化の学習の機会を設け、食文化の継承に対する理解と意識の向上を図ります。
- 農産物・水産物の生産状況や地場産物の販売所などの情報を収集し、マップやホームページを作成して情報発信し、地産地消を推進します。
- 地域で生産・製造・加工された岸和田ブランドの食材・食品の普及啓発を行います。

【 目標項目 】

目標指標	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)
農林漁業体験を経験した市民の割合の増加	27.9%	40%以上
学校給食において地域の農産物・水産物を活用する割合（府内産農産物使用割合）の増加	未把握	30%以上
地元産の農産物・水産物を意識して購入している人の割合の増加	47.1%	60%以上

（２）食の安全・安心と環境にやさしい取り組み

【 現状からみえる課題 】

豊かになった現代社会では、まだ食べられるのに廃棄される食べ物、いわゆる食品ロスが大量に発生するなどの問題が生じています。日ごろから自然の恩恵のうえに食が成り立っていることを意識し、食品の食べ残しや廃棄を少なくするなど、環境に配慮した食生活をする必要があります。

また、近年、様々な食の安全に関する問題が発生する中、健全な食生活を実現するためには、安心・安全な食品の選び方や適切な調理・保管の方法などについて基礎的な知識を持つ必要があります。

食品の安全に関する知識を持っている人は目標値と比べても非常に低く、安心・安全な食品選びができない状態にあります。また、若い世代で特に少なくなっています。正しい知識を身につけ、健全な食生活を実現できるような取り組みが必要です。

無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人は目標値よりも低くなっています。廃棄が出ない食品の購入や調理の工夫などを普及啓発する必要があります。

【 取り組み 】

個人・家庭の取組	○ 安全な食品の選び方や適切な料理・保管の方法を学び、食の選択力をつけます。 ○ 無駄なく調理し、残さず食べ、ごみを減らす工夫をします。
地域・職域・団体等の取組	○ 生産者や食品関連事業者は、生産・製造過程などの情報を、正確に、消費者にもわかりやすく開示するよう努めます。
行政の取組	○ 保育所（園）、幼稚園、小中学校などにおいて、食の安全や食育に対する関心を高める機会を提供します。 ○ 正確な知識に基づいて食品を選択できるよう、食の安全に関する知識の啓発や情報提供を行います。 ○ ホームページや広報紙などにより、食品衛生、無駄や廃棄の少ない食事づくりに関する情報提供を行います。 ○ 学校給食における残食率の改善に努めます。

【 目標項目 】

目標指標	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)
食品の安全に関する知識を持っていると思う人の割合の増加	48.2%	90%以上
無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合の増加	68.5%	80%以上

(3) 食育を推進するための体制づくり

【 現状からみえる課題 】

食育に関心を持っている人は、乳幼児期の子どもをもつ保護者において特に高く、学童・思春期において特に低くなっています。食育には、子どもから高齢者まで生涯を通じてライフステージごとに必要な取り組みがありますが、関心のばらつきから、食育の考え方が市民に浸透していないと考えられます。

食育を推進していくためには、市民一人ひとりが食育の意義や必要性などを理解し、日常の食生活の改善につなげていくことが大切です。また、家庭を中心に、行政や地域、関係団体など相互に連携しながら食育の活動を継続的にやっていくことが重要です。

一人ひとりが食に関する正しい知識を身につけられるよう、積極的な情報提供が必要となります。また、食育を確実に地域に根づかせるため、行政や教育機関、保健・医療機関、食の生産、流通、販売に関わる事業者、関係団体やNPO、ボランティアなど食を取り巻く関係者が連携していく必要があります。

【 取り組み 】

個人・家庭の取組	○ 食べることが心と身体の健康を保つことを知り、子どものときから食に関する正しい知識と関心を持ちます。 ○ 家族や仲間と楽しくゆっくり味わう食事をするよう心がけます。
地域・職域・団体等の取組	○ 関係団体は、食に関するイベントに積極的な参画を図ります。 ○ 関係団体は、相互に連携し、食育の推進に努めます。
行政の取組	○ ホームページや広報紙などにおいて食育に関する情報発信を行い、食育の広報活動を充実します。 ○ 「食育月間」や「食育の日」の周知を図り、食育に対する意識を啓発します。

行政の取組

- 保育所（園）、幼稚園、小中学校においておたよりの発行など保護者や園児・児童・生徒に対して食育の啓発を行います。
- 保育所（園）、幼稚園、小中学校において、園児に対し食に関するおはなし、児童・生徒に対し、食に関する授業の計画を策定します。
- 食に関するイベントを行うなど、食を取り巻く関係者が連携する場や機会を提供します。
- 食生活改善推進員など、食育に係わる人材の養成とともに、その活動を支援します。
- 歯科医師会などと協力し、歯と口腔内の健康づくりと連携した食育を推進します。
- 食育に関わる担当者の連絡会議を開催し、関係機関の連携を強化します。

【 目標項目 】

目標指標	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)
食育に関心を持っている市民の割合の増加	67.5%	90%以上
食育推進に携わるボランティアの人数の増加	52 人	増加





第5章

計画の推進に向けて

本計画は、基本理念である市民が主役、市民参加による健康づくり推進力の向上、市民一人ひとりが自ら行う健康づくりに必要な環境の改善の実現に向けて、市民や地域、学校、団体、企業、行政など市全体が一体となって健康づくりを進めるため、それぞれの役割を明確にし、連携しながら取り組みを行ってきました。

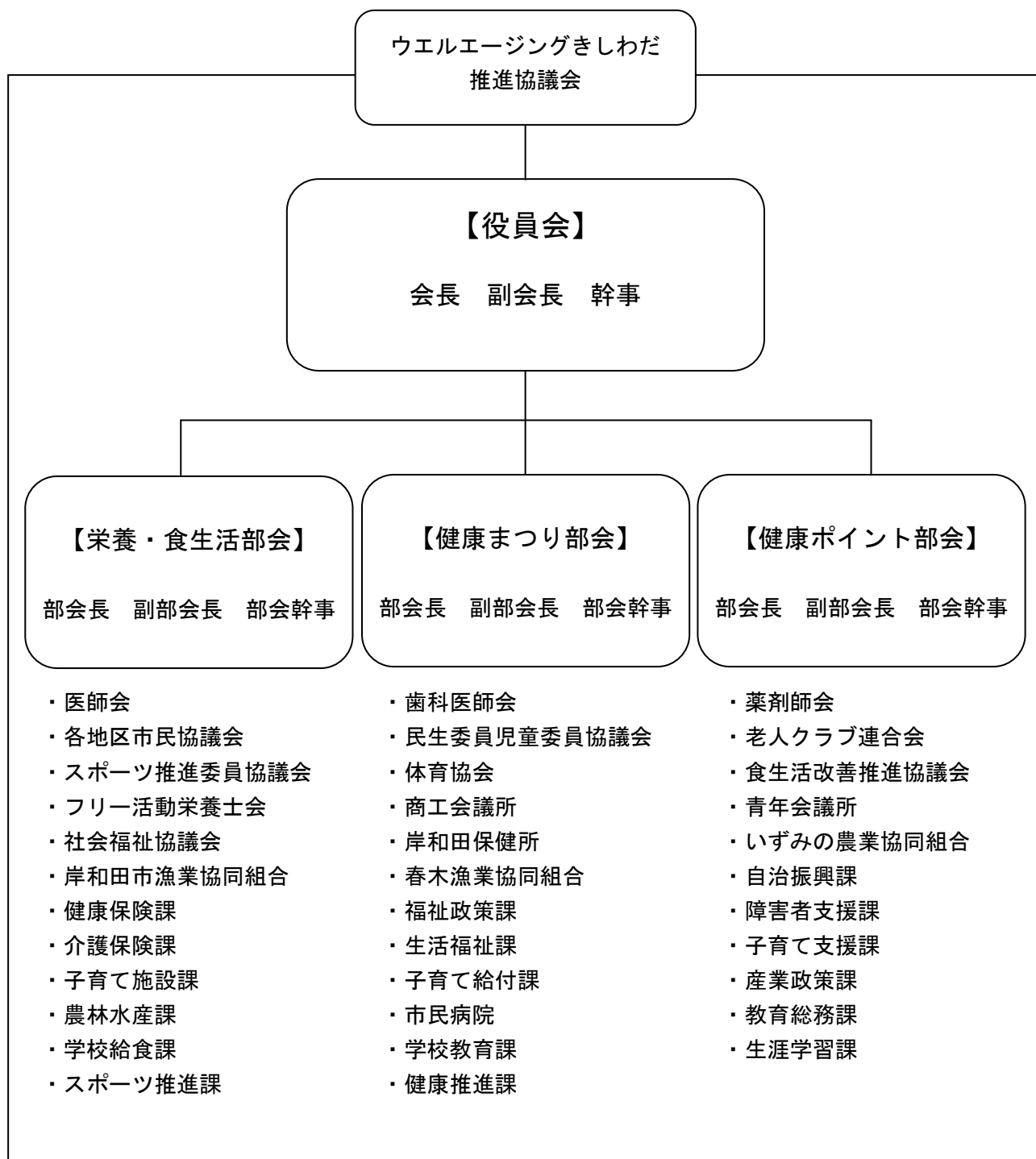
具体的には、広く市民に計画の趣旨・目的を知ってもらうために普及啓発に努めてきました。事務局（健康推進課）の事業や関係機関・団体が主催する行事でチラシによるPRを行ったほか、年に1回の「ウエルエージングきしわだPRイベント」でも健康づくりに関する情報提供を行うとともに、計画のPRを行いました。

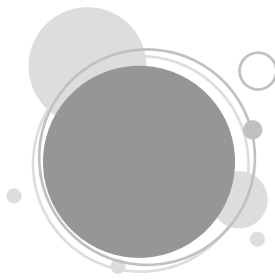
また市民一人ひとりの健康づくりを支援するため、推進協議会に所属する関係機関・団体の協力をえて、地区市民協議会等を対象に市民の健康づくりを支援するため、「ウエル講座」の利用をすすめ、「ウエル講座」の開催を通じて関係機関・団体の連携・協力体制の構築に努めました。

計画の最終年度での目標達成に向けて、中間評価アンケート結果から、次のことに取り組んでいきます。

- ・ 中間評価アンケート結果から、計画策定時より「悪化」した各ライフステージの項目に焦点をあて、推進協議会で目標達成に向けて計画を推進する。
- ・ 中間評価アンケート結果のうち、計画策定時の結果と比べて「最終目標値を達成」した項目・「改善」した項目・「現状維持」した項目について、5年後の最終年にはよりよい結果が得られるように推進協議会で目標達成に向けて計画を推進する。

推進協議会では引き続き、すべての市民が上手に年をとること、寿命が延びた現代をうまく生き抜く実り豊かな生涯づくりの実現を目指し、市民一人ひとりの健康づくりの輪を広げるよう努めます。また、年次ごとに計画の進行状況について把握し、評価・改善を行っていきます。





資料編

1 数値目標一覧

分野	目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)	出典	参考
ライフステージ別の取り組みの展開						
乳幼児期						
食生活・栄養	朝食を毎日食べる3歳児が増える	未把握	92.5%	100%	アンケート調査	
	食事バランスガイドの内容を知っている保護者が増える	未把握	31.4%	60%	アンケート調査	
運動・身体活動	野外で身体をつかって遊ぶ子どもが増える	58.6%	77.9%	70%	アンケート調査	
休養・こころの健康	妊娠中から産後6か月未満に精神的に不安定になる母親が減る	41.6%	27.9%	25%	アンケート調査	
	育児・家事に参加する父親が増える	86.2%	86.2%	95%	アンケート調査	
	地域行事に参加している保護者が増える	56.8%	43.9%	70%	アンケート調査	
飲酒・喫煙	妊娠中の喫煙率が減る	10.9%	8.5%	0%	アンケート調査	<国> 【現状】3.8% 【目標】0%
	妊娠中の飲酒率が減る	6.1%	1.9%	0%	アンケート調査	<国> 【現状】4.3% 【目標】0%
	家庭内での受動喫煙を被る子どもの率が減る	未把握	46.3%	0%	アンケート調査	
歯・口腔の健康	う歯がない3歳児が増える	78.6%	83.8%	95%	アンケート調査	
	フッ化物歯面塗布の経験のある3歳児が増える	88.7%	86.3%	100%	アンケート調査	
	1日3回以上間食をする3歳児が減る	23.2%	22.1%	10%	アンケート調査	
健康管理	心肺蘇生法を知っている保護者が増える	32.2%	45.5%	50%	アンケート調査	
	かかりつけの小児科医を持つ保護者が増える	90.0%	84.3%	95%	アンケート調査	
	低体重児の出生数の割合が減る	10.5%	8.2%	5%	岸和田保健所資料	<国> 【現状】9.5% 【目標】減少傾向へ

分野	目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)	出典	参考
健康管理	適正な体重管理ができる妊婦が増える	未把握	55.9%	今後検討	アンケート調査	
	事故・けがが防止対策をしている家庭が増える	76.3%	47.3%	今後検討	アンケート調査	
学童・思春期						
栄養・食生活	朝食を毎日食べる人が増える	84.9%	78.6%	100%	アンケート調査	
	家族と一緒に夕食を食べる(一日のうち、1回だけでも家族と共に食事をする)人が増える	73.7%	76.0%	90%	アンケート調査	<国> 【現状】小学生 1.9% 中学生 7.1% 【目標】減少傾向へ
	無理なダイエットが健康に悪影響を及ぼすことを知っている人が増える	85.0%	81.9%	95%	アンケート調査	
	規則正しくバランスの良い食事をとれていると思う人が増える(小学5年生の男女)	男 52.4% 女 58.2%	男 36.4% 女 41.7%	70%	アンケート調査	<国> 【現状】89.5% 【目標】100%に近づける
身体活動・運動	週3回以上体育の授業以外に身体を使う遊びや運動をしている人が増える	50.0%	47.4%	70%	アンケート調査	<国> 【現状】男子 59.2%、女子 33.6% 【目標】増加傾向へ
休養・こころの健康	困っている人を助けることができる人が増える	77.9%	86.9%	85%	アンケート調査	
	地域行事に参加している人が増える	50.9%	47.4%	70%	アンケート調査	
	将来に夢や希望がある人が増える	73.9%	74.6%	90%	アンケート調査	
	何でも話せて楽しく遊べる人が増える	92.5%	92.9%	100%	アンケート調査	
飲酒・喫煙	未成年者の飲酒をなくす	未把握	11.4%	0%	アンケート調査	<国> 【現状】(中学3年生) 男子 7.2%、女子 5.2% (高校3年生) 男子 13.7%、女子 10.9% 【目標】0%
	未成年者の喫煙をなくす	未把握	1.3%	0%	アンケート調査	<国> 【現状】(中学1年生) 男子 1.0%、女子 0.3% (高校3年生) 男子 4.6%、女子 1.5% 【目標】0%
歯・口腔の健康	毎食後歯をみがく人が増える	67.4%	65.4%	75%	アンケート調査	
	う歯がない人が増える	11 歳男子 40.2% 11 歳女子 43.6%	11 歳男子 48.5% 11 歳女子 55.9%	11 歳男子 50% 11 歳女子 50%	岸和田市学校保健調査票集計	
	歯肉炎がない人が増える	未把握	未把握	今後検討	-	

分野	目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)	出典	参考
健康管理	自分の適正体重を知っている人が増える	未把握	18.6%	今後検討	アンケート調査	
	肥満傾向にある人の減少	小学生 男子 8.8% 女子 7.4% 中学生 男子 9.9% 女子 8.4%	小学生 男子 9.8% 女子 8.1% 中学生 男子 8.8% 女子 8.8%	5%	岸和田市 学校保健 調査票集計	< 全国 > 小学生 男子 7.9% 女子 6.6% 中学生 男子 8.9% 女子 7.9% (資料: 文部科学省 学校保健統計調査)
	痩身傾向にある人の減少	小学生 8.4% 中学生 7.8%	小学生 1.9% 中学生 3.2%	0%	アンケート調査	
	性感染症を知っている人が増える	75.0%	70.0%	100%	アンケート調査	
青年期						
栄養・食生活	体重のコントロール(標準体重の維持や減量)をしている人が増える	40.9%	43.9%	70%	アンケート調査	
	BMI25.0 以上の人が減る	男性 26.6% 女性 7.5%	男性 16.8% 女性 7.4%	男性 20% 女性 5%	アンケート調査	< 国 > 【現状】 20 歳～60 歳代男性 31.6% 40 歳～60 歳代女性 20.5% 【目標】 20 歳～60 歳代男性 28% 40 歳～60 歳代女性 19%
	朝食を欠食する人が減る	21.3%	21.9%	10%	アンケート調査	
	外食する時に栄養成分表示を参考にしている人が増える	16.9%	14.3%	50%	アンケート調査	
	適切な食事を理解している人が増える	47.8%	57.5%	80%	アンケート調査	
	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が、ほぼ毎日の人の割合の増加	未把握	50.5%	80%	アンケート調査	< 国 > 【現状】57.7% 【目標】80%
	野菜料理を毎日食べる人が増える	77.6%	77.2%	90%	アンケート調査	
	食事バランスガイドの内容を知っている人が増える	未把握	25.9%	60%	アンケート調査	
身体活動・運動	日常生活における歩数が増える	男性 7,449 歩 女性 4,312 歩	男性 5,108 歩 女性 3,014 歩	男性 9,000 歩 女性 6,000 歩	アンケート調査	< 国 > 【現状】 男性 7,970 歩、女性 6,991 歩 【目標】 男性 9,000 歩、女性 8,500 歩
	意識的に体を動かすなどの運動を心がけている人が増える	37.3%	42.7%	55%	アンケート調査	
	地域行事に参加している人が増える	50.9%	43.0%	70%	アンケート調査	
	ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加	未把握	8.9%	80%	アンケート調査	< 国 > 【現状】44.4% 【目標】80%

分野	目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)	出典	参考
休養・こころの健康	最近1か月でストレスを感じた人が減る	81.5%	79.8%	70%	アンケート調査	
	睡眠によって休養が十分に取れていない人が減る	38.2%	37.6%	30%	アンケート調査	<国> 【現状】20.0% 【目標】15%
	ストレスを発散できている人が増える	61.9%	70.5%	85%	アンケート調査	
	不安・悩み・苦労・ストレスなどについて人に相談する人が増える	73.7%	78.3%	85%	アンケート調査	
	休日を週1回は取れる人が増える	74.2%	80.3%	90%	アンケート調査	
	残業のない日を週に2日取れる人が増える	56.3%	70.2%	65%	アンケート調査	
飲酒・喫煙	適度な飲酒の量を知っている人が増える	52.7%	49.7%	85%	アンケート調査	
	喫煙者が減る	男性 40.8% 女性 16.4% 20 歳代 35.1%	男性 20.3% 女性 9.9% 20 歳代 17.9%	男性 30% 女性 5% 20 歳代 25%	アンケート調査	<国> 【現状】18.2% 【目標】12%
	禁煙・分煙に取り組んでいる職場の割合	52.4%	66.1%	80%	アンケート調査	
	禁煙・分煙に取り組んでいる家庭の割合	74.8%	81.1%	85%	アンケート調査	
健康 口腔の 歯	毎年歯科検診を受けている人が増える	21.2%	28.7%	65%	アンケート調査	
健康管理	毎年健康診断を受けている人が増える	39.9%	49.8%	75%	アンケート調査	<国> 【現状】34.1% 【目標】65%
	健康で気をつけていることがある人が増える	51.8%	58.2%	65%	アンケート調査	
	COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上	未把握	21.9%	80%	アンケート調査	<国> 【現状】25.0% 【目標】80%
壮年期						
栄養・食生活	適正体重を維持している人が増える	58.1%	59.2%	70%	アンケート調査	
	BMI25.0 以上の人が減る	男性 28.4% 女性 14.7%	男性 28.7% 女性 16.2%	男性 20% 女性 10%	アンケート調査	
	自分の食生活に問題があると思う人のうち、食生活の改善意欲のある人が増える	77.9%	79.5%	85%	アンケート調査	
	食生活で塩分をとりすぎないよう気をつけている人が増える	73.1%	73.9%	80%	アンケート調査	
	食生活で糖分をとりすぎないよう気をつけている人が増える	72.0%	69.9%	80%	アンケート調査	
	食生活で脂肪分をとりすぎないよう気をつけている人が増える	70.8%	70.6%	80%	アンケート調査	
	外食する時に栄養成分表示を参考にしている人が増える	18.4%	19.0%	50%	アンケート調査	

分野	目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)	出典	参考
栄養・食生活	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が、ほぼ毎日の人の割合の増加	未把握	60.8%	80%	アンケート調査	
	野菜料理を毎日食べる人が増える	未把握	70.4%	100%	アンケート調査	
	食事バランスガイドの内容を知っている人が増える	未把握	32.2%	60%	アンケート調査	
身体活動・運動	日常生活における歩数が増える	男性 5,881 歩 女性 5,161 歩	男性 4,363 歩 女性 3,479 歩	男性 7,500 歩 女性 6,500 歩	アンケート調査	<国> 【現状】 男性 7,970 歩、女性 6,991 歩 【目標】 男性 9,000 歩、女性 8,500 歩
	運動習慣者が増える	男性 33.3% 女性 35.7%	男性 34.7% 女性 23.5%	40%	アンケート調査	<国> 【現状】 男性 24.6%、女性 19.8% 【目標】 男性 36%、女性 33%
	ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加	未把握	19.4%	80%	アンケート調査	<国> 【現状】44.4% 【目標】80%
休養・こころの健康	最近1か月でストレスを感じた人が減る	69.0%	73.5%	60%	アンケート調査	
	ストレスの発散ができて いる人が増える	67.5%	64.5%	85%	アンケート調査	
	不安・悩み・苦勞・ストレスなどについて人に相談する人が増える	47.6%	61.9%	75%	アンケート調査	
	週1回は休日が取れる人が増える	85.6%	88.0%	95%	アンケート調査	
	地域行事に参加している人が増える	65.7%	42.3%	80%	アンケート調査	
	趣味やサークル活動、ボランティア活動などを行っている人が増える	60.3%	50.4%	75%	アンケート調査	
飲酒・喫煙	多量に飲酒する人が減る	男性 16.6% 女性 6.5%	男性 19.8% 女性 3.7%	男性 5.5% 女性 1.4%	アンケート調査	
	喫煙者が減る	22.0%	13.1%	10%	アンケート調査	<国> 【現状】18.2% 【目標】12%
	禁煙・分煙に取り組んでいる職場の割合	52.8%	66.3%	80%	アンケート調査	
	禁煙・分煙に取り組んでいる家庭の割合	60.2%	75.1%	85%	アンケート調査	
歯・口腔の健康	毎年歯科検診を受けている人が増える	38.1%	40.0%	65%	アンケート調査	<国> 【現状】47.8% 【目標】65%
	40 歳で喪失歯のない人が増える ※歯が 28 本以上の人の割合	48.0%	51.6%	75%	アンケート調査	<国> 【現状】72.1% 【目標】75%
	60 歳で自分の歯が 24 本以上ある人が増える	40.0%	42.7%	48%	アンケート調査	<国> 【現状】65.8% 【目標】70%

分野	目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)	出典	参考
健康管理	毎年健康診断を受けている人が増える	66.5%	73.4%	75%	アンケート調査	
	かかりつけ医を持っている人が増える	57.1%	60.4%	70%	アンケート調査	
	メタボリックシンドローム該当者が減る	未把握	23.5%	25%減 (平成 20 年度と比して)	アンケート調査	
	がん検診の受診率の向上	胃がん 4.9% 肺がん 4.9% 大腸がん 15.2% 乳がん 27.7% 子宮頸がん 19.3%	胃がん 16.4% 肺がん 23.2% 大腸がん 21.6% 乳がん 48.0% 子宮頸がん 35.3%	胃がん 40% 肺がん 45% 大腸がん 40% 乳がん 45% 子宮頸がん 45%	健康推進課資料	<国> 【現状】 (胃がん) 男性 45.8%、女性 33.8% (肺がん) 男性 47.5%、女性 37.4% (大腸がん) 男性 41.4%、女性 34.5% (乳がん) 女性 43.4% (子宮頸がん) 女性 42.1% 【目標】 50% (胃がん、大腸がんは当面 40%)
	COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上	未把握	23.8%	80%	アンケート調査	<国> 【現状】25.0% 【目標】80%
老年期						
栄養・食生活	BMI25.0 以上の人が減る	男性 22.2% 女性 24.9%	男性 21.9% 女性 11.4%	男性 15% 女性 17%	アンケート調査	
	緑黄色野菜を毎日とる人が増える	69.8%	68.8%	80%	アンケート調査	
	食事バランスガイドの内容を知っている人が増える	未把握	49.0%	60%	アンケート調査	
身体活動・運動	積極的に外出できる人が増える	80.0%	72.0%	90%	アンケート調査	
	日常生活における歩数が増える	男性 4,931 歩 女性 4,023 歩	男性 4,484 歩 女性 3,462 歩	男性 6,500 歩 女性 5,500 歩	アンケート調査	<国> 【現状】 男性 5,919 歩、女性 4,924 歩 【目標】 男性 7,000 歩、女性 6,000 歩
	ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加	未把握	17.4%	80%	アンケート調査	<国> 【現状】44.4% 【目標】80%
休養・こころの健康	生きがいを感じる人が増える	82.5%	79.8%	90%	アンケート調査	
	家庭や地域などで役割のある人が増える	家庭 82.2% 地域 65.1%	家庭 84.4% 地域 34.1%	家庭 90% 地域 75%	アンケート調査	
	何らかの地域活動をしている人が増える	71.2%	42.1%	80%	アンケート調査	<国> 【現状】 男性 63.6%、女性 55.2% 【目標】 80%
	相談できる人がいると答える人が増える	89.5%	82.4%	95%	アンケート調査	

分野	目標指標	計画策定当初 (2011 年)	中間評価時点 (2017 年)	目標値 (2022 年)	出典	参考
飲酒・喫煙	多量に飲酒する人が減る	未把握	7.4%	13%	アンケート調査	
	喫煙者が減る	12.6%	8.7%	5.2%	アンケート調査	<国> 【現状】18.2% 【目標】12%
	禁煙・分煙に取り組んでいる家庭の割合	61.0%	67.0%	75%	アンケート調査	
歯・口腔の健康	毎年歯科検診を受けている人が増える	41.9%	50.1%	65%	アンケート調査	<国> 【現状】47.8% 【目標】65%
	80歳で20本以上自分の歯を有する人が増える	25.3%	26.9%	50%	アンケート調査	
健康管理	毎年健康診断を受けている人が増える	67.0%	80.0%	80%	アンケート調査	
	かかりつけ医を持っている人が増える	86.4%	79.8%	95%	アンケート調査	
	保健・福祉・医療サービスの利用方法を知っている人が増える	68.1%	54.2%	80%	アンケート調査	
	健康状態がよい(まあよい)と思う人が増える	82.3%	86.1%	90%	アンケート調査	
	メタボリックシンドロームとはどんな状態か知っている人が増える	68.8%	81.1%	90%	アンケート調査	
	がん検診の受診率の向上 ※65～69歳の受診率	胃がん 9.3% 肺がん 9.2% 大腸がん 27.7% 乳がん 9.2% 子宮頸がん 8.7%	胃がん 11.0% 肺がん 30.3% 大腸がん 25.1% 乳がん 17.4% 子宮頸がん 14.5%	胃がん 40% 肺がん 45% 大腸がん 40% 乳がん 45% 子宮頸がん 45%	健康推進課資料	壮年期と同様
	COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上	未把握	10.6%	80%	アンケート調査	<国> 【現状】25.0% 【目標】80%
食育の推進						
食育	農林漁業体験を経験した市民の割合の増加	未把握	27.9%	40%以上	アンケート調査	
	学校給食において地域の農産物・水産物を活用する割合(府内産農産物使用割合)の増加	未把握	未把握	30%以上	-	
	地元産の農産物・水産物を意識して購入している人の割合の増加	未把握	47.1%	60%以上	アンケート調査	
	食品の安全に関する知識を持っていると思う人の割合の増加	未把握	48.2%	90%以上	アンケート調査	
	無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合の増加	未把握	68.5%	80%以上	アンケート調査	
	食育に関心を持っている市民の割合の増加	未把握	67.5%	90%以上	アンケート調査	
	食育推進に携わるボランティアの人数の増加	未把握	52人	増加	健康推進課資料	

2 ウエルエーシングきしわだ推進協議会規約

(名称)

第1条 本会は、「ウエルエーシングきしわだ推進協議会」（以下「協議会」）と称する。

(目的)

第2条 岸和田市総合計画及び健康増進法、食育基本法に基づき、健康づくりを推進するため、市民一人ひとりの健康づくりと食育の推進を支援し、関係機関・団体が連携し、それぞれの役割を担いながら、市民主体の健康づくり運動を推進することを目的とする。

(事業)

第3条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 健康づくり運動及び食育の推進に関する企画と推進に関すること。
- (2) 健康づくり及び食育の意義の啓発と情報提供に関すること。
- (3) 地域や関係機関・団体における健康づくり事業及び食育の推進と連携に関すること。
- (4) 前各号のほか目的達成に必要なと認めたこと。

(組織)

第4条 協議会は、別表の団体等で組織する。各団体等から推薦された代表者と会長が推薦する相談役を推進委員とする。

(役員)

第5条 協議会に次の役員をおく。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 幹事 若干名

2 専門部会に次の役員をおく。

- (1) 部会長 1名
- (2) 副部会長 1名
- (3) 部会幹事 若干名

(役員の選出)

第6条 役員の選出については、次のとおり定める。会長は、医師会から推薦された者をもって充てる。副会長と幹事は、会長が指名する者をもって充てる。部会長は、会長が指名した者をもって充てる。副部会長と部会幹事は、部会長が指名した者をもって充てる。

2 前条第1項の役員に就任する際は、総会の承認を得るものとする。

(役員の職務)

第7条 会長は、協議会を代表し、会の業務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、会長が予め定めた順序によって、その職務を代理する。

部会長は、専門部会を代表し、部会の業務を統括する。

副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるとき又は部会長が欠けたときは、副部会長がその職務を代理する。

(任期)

第8条 委員の任期は、就任の日からその日の属する年度の翌年度末までとし、再任を妨げない。

2 役員は辞任した場合又は任期が終了した場合においても、後任者が就任するまでは

その職務を行わなければならない。

(会議)

第9条 協議会の会議は次のとおりとする。

- (1) 総会
- (2) 役員会
- (3) 必要に応じて専門部会をおくことができる。

(総会)

第10条 総会は、各団体等から選出された代表者をもって構成し、毎年1回会長の招集により開催する。ただし、必要があるときは、臨時に開催することができる。

2 総会で議決する事項は、次のとおりとする。

- (1) 事業報告の承認
- (2) 事業計画の決定
- (3) 役員の承認
- (4) 規約の改正
- (5) その他協議会の運営に関する重要事項

(役員会)

第11条 役員会は、第5条第1項の役員をもって構成し、必要に応じて会長が招集し、会長がその議長となる。

2 役員会で議決する事項は、次のとおりとする。

- (1) 総会で議決した事項の執行に関すること
- (2) 総会に付議すべき事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関すること

(専門部会)

第12条 専門部会は、別表に掲げる関係機関・団体及び行政の中から必要に応じて部会長が指名招集し、開催する。

2 専門部会で協議、議決する事項は、次のとおりとする。

- (1) 第3条に掲げる事項のうち、第9条に掲げる総会及び役員会にて必要と決められたものについての協議
- (2) 専門部会の事業に関する事業報告に関すること
- (3) 専門部会の事業に関する事業計画に関すること
- (4) その他専門部会の事業の実施に必要な事項

(事務局)

第13条 協議会の事務局は、岸和田市保健部健康推進課におく。

(その他)

第14条 この規約に定めるもののほか、必要な事項は役員会において定める。

附 則

この規約は、平成25年8月22日から施行する。

附 則

この規約は、平成27年6月4日から施行する。

附 則

この規約は、平成28年5月26日から施行する。

附 則

この規約は、平成29年5月25日から施行する。

別表（第4条関係）

関係機関・団体	行政
岸和田市各地区市民協議会	自治振興課
岸和田市民生委員児童委員協議会	健康保険課
岸和田市老人クラブ連合会	福祉政策課
岸和田市スポーツ推進委員協議会	障害者支援課
岸和田市体育協会	介護保険課
岸和田市食生活改善推進協議会	生活福祉課
岸和田市フリー活動栄養士会	子育て支援課
岸和田市医師会	子育て給付課
岸和田市歯科医師会	子育て施設課
岸和田市薬剤師会	産業政策課
岸和田商工会議所	農林水産課
岸和田青年会議所	市民病院
岸和田市社会福祉協議会	教育総務課
大阪府岸和田保健所	学校給食課
いずみの農業協同組合	学校教育課
岸和田市漁業協同組合	生涯学習課
春木漁業協同組合	スポーツ振興課
	健康推進課

**岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画
・岸和田市食育推進計画
【中間評価報告書】**

発行: 岸和田市 健康推進課
住所: 〒596-0045 岸和田市別所町3丁目12番1号
TEL 072-423-8811 FAX 072-423-8833
発行年月: 平成30年3月
